

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

(平成24年度)

— 平成23年度年度計画自己点検評価の検証／平成24年度年度計画 —

平成24年10月

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議

目 次

I. はじめに	1
II. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則	2
III. 沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	3
IV. 概要説明	
1. 沼津工業高等専門学校概要 (Power Point 資料)	5
V. 審議事項	
1. 平成 23 年度年度計画 自己点検評価の検証	
1) 沼津工業高等専門学校 平成 23 年度 年度計画	15
2) 平成 23 年度 年度計画 自己点検評価表	29
3) 平成 23 年度 年度計画 評価シート意見対応表	39
2. 平成 24 年度年度計画について	
1) 沼津工業高等専門学校 平成 24 年度 年度計画	49
2) 平成 24 年度 年度計画意見対応表	63
VI. 平成 24 年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議議事録	73
(平成 24 年 7 月 27 日 (金) 本校 3 F 大会議室)	

I. はじめに

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校長 柳下福蔵

中学校を卒業した15歳の入学生に、実験実習・演習を重視して低学年から専門教科を楔型に組み込んで知識・技術を体験的に実質化する高専教育は、世界的にも類を見ないユニークな教育システムであり、本校がこれまでに輩出した8000余名の卒業生・修了生は産業界及び大学・大学院において高い評価を受けています。

国立高等専門学校機構は、平成20年12月に公表された中央教育審議会答申「高等専門学校教育の充実について」に基づいて「高専の高度化」を柱とする第二期中期目標・中期計画を策定し平成21年6月に公表しました。これを受け、本校は、産業界の変化や地域のニーズに対応するための高度化に向けて、改革を着実に進めているところであります。

以前より、大学評価・学位授与機構による機関別認証評価や日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育プログラムの審査などの第三者評価を受審し、教育内容・方法や学校運営の改善に努めておりますが、平成17年度から4年間継続した本校独自の外部評価委員会を平成21年度からは本校の教育、研究、学生支援及び管理運営等全般にわたるPDCA（計画・実行・検査・改善）サイクルを進めるために、大学、産業界及び教育・行政機関等の地域有識者からなる「沼津工業高等専門学校運営諮問会議」に改組し、本校の第二期（平成21年度～25年度）中期計画及び年度計画について諮問を受ける体制に改め現在に至っております。過日開催されました同会議において、平成23年度自己点検評価の検証及び平成24年度「年度計画」を主題とし、特に、本校の高度化に向けた「1学年の混合学級、3・4・5学年の学際教育の導入及び医工連携を取り込んだ専攻科の改編」等の教育改革については貴重なご意見が寄せられており、平成24年度「年度計画」に具体的な検討事項として盛り込んでいるところです。

昨年受審した大学評価・学位授与機構による本校にとって2回目の機関別認証評価において、おしなべて高い評価を受けましたが、特に「評価基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム」に対して「運営諮問会議等の評価結果を、業務改善運営ループに従い総務委員会が、担当部局に改善の指示を行い、外部有識者の意見をも取り入れ社会経済環境の変化に対応して、医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、新機能材料分野の学際教育を行う『新教育課程（案）—混合学級と学際教育の導入—』を策定し、教育課程の改訂に結びつけている。」との評価が、優れた点として公表されました。

これは、偏に運営諮問会議が目的通りに機能した結果であり、今後とも、運営諮問会議委員の皆様には変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げる次第であります。

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。

- (1) 本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育及び研究活動に関する重要事項
- (3) その他、本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 産業・経済界の関係者
- (3) 本校が所在する地域の関係者
- (4) 本校の支援団体等の関係者

2 諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(議長)

第5条 諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。

- 2 議長は、諮問会議の会務を総括する。
- 3 議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務)

第7条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附 則

1. この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2. この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第6条第1項の規定に係わらず平成23年3月31日までとする。

沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員

氏 名	現 職	規 則 根 拠
やなぎさわ ただし 柳 澤 正	静岡大学 理事（社会・産学連携担当） 副学長	規則第4条第1項第1号委員
わか はら あき ひろ 若 原 昭 浩	豊橋技術科学大学 学長補佐／高専連携室長	規則第4条第1項第1号委員
みつ はま げん いち 三 津 濱 元 一	富士通株式会社 沼津工場長	規則第4条第1項第2号委員
まる た し のぶ 丸 田 忍	株式会社 明電舎 沼津事業所長	規則第4条第1項第2号委員
く どう たつ ろう 工 藤 達 朗	沼津市教育委員会 教 育 長	規則第4条第1項第3号委員
くり た より よし 栗 田 自 由	沼津市小中学校校長会中学校幹事 沼津市立第二中学校校長	規則第4条第1項第3号委員
にし おか たま み 西 岡 珠 美	沼津工業高等専門学校 教育後援会会長	規則第4条第1項第4号委員
な ぐら みつ お 名 倉 光 雄	沼津工業高等専門学校 同窓会会長	規則第4条第1項第4号委員

※ 任期：平成23年4月1日～平成25年3月31日

沼津工業高等専門学校概要

沼津高専の概要



NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

平成24年7月27日(金)

沼津高専の沿革

- ・昭和37年(1962年) 機械工学科2学級、電気工学科1学級が設置
- ・昭和41年(1966年) 工業化学科1学級が設置
- ・昭和51年(1976年) 第4学年への編入学を認めた情報処理教育センターが設置
- ・昭和61年(1986年) 電子制御工学科1学級が設置
- ・平成元年(1989年) 工業化学科が物質工学科に改組
- ・平成4年(1992年) 機械工学科(2学級)が機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組
- ・平成8年(1996年) 専攻科(3専攻)が設置
- ・平成11年(1999年) 電気工学科が電気電子工学科に改組
- ・平成16年(2004年) 地域共同テクノセンターが設置
- ・平成17年(2005年) 独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属
- ・平成19年(2007年) 情報処理教育センターが総合情報センターに編入学を第3学年または第4学年編入学に
- ・平成21年(2009年) 東工大、静大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年) 豊橋技科大と教育研究交流協定締結
- ・平成23年(2011年) 沼津市、静岡医療センターと連携
- ・平成24年(2012年) 新カリキュラム(学際教育)スタート

学校概要



学校長 柳下 福藏

教員 80名 **事務系職員** 34名
博士 55名 **技術系職員** 13名
修士 21名
学士 3名
短大 1名 【平成24年7月1日現在】

収入・支出決算額(平成23年度)

区分(千円)	金額
収入	
運営費交付金	142,423
給費交付金	26,885
自己収入(授業料・入学科等)	289,824
産学連携等研究収入	24,036
寄付金収入	44,001
その他補助金	44,710
合計	571,879
支出	
業務費(教育研究経費・支援経)	326,040
職員費(一般管理費)	111,947
施設整備費	26,885
産学連携等研究経費	17,025
寄附金等集募	30,065
その他補助金	44,710
合計	556,772

所在地 静岡県沼津大岡3600
創立 昭和37年4月1日
学 科 機械工学科
 電気電子工学科
 電子制御工学科
 制御情報工学科
 物質工学科
 専攻科

専攻科 機械・電気システム工学専攻
 制御・情報システム工学専攻
 応用物質工学専攻

学生総数 1,100名
施設 敷地 89,598㎡
建物 36,017㎡

認証評価・外部評価等

平成16年度 日本技術者教育認定機構(JABEE)認定「総合システム工学分野」(4・5学年+専攻科)

平成17年度 (独)大学評価・学位授与機構「機関別認証評価」
 外部評価「実技科目(実験・実習・演習など)」

平成18年度 JABEEの中間審査
 専攻科定時審査(7年毎)

平成19・20年度 外部評価「コミュニケーション・プレゼンテーション能力育成」
 外部評価「工学基礎教育」

平成21年度 JABEEの継続審査(平成26年度まで認定)
 運営協議会議

平成22年度 運営協議会議
平成23年度 運営協議会議
平成24年度 「機関別認証評価」
 運営協議会議

平成24年度の組織の改変

校長

- 副校長(教務主事)
- 校長補佐(学生主事)
- 校長補佐(事務主事)
- 校長補佐(専攻科長)
- 校長補佐(学際教育担当)
- 教養科(一般科目)
- 専門学科 機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質工学
- 共同利用施設 図書館、総合情報センター、地域共同テクノセンター、機械実習工場
- 技術室(実習工場系班、機械系班、電気・電子・情報系班、物理・化学系班)
- 事務部 学生課(教務係、入試係、学生係、寮務係、図書係)
 総務課(総務係、人事係、研究支援係、財務係、用度係、施設係)

教 育 理 念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

教育方針

- ・低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- ・コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- ・実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応える実践的技術者の養成を行う。
- ・教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

- 沼津高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。
- ・技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
 - ・自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
 - ・工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
 - ・豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
 - ・実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受け入れ方針(アドミッションポリシー)

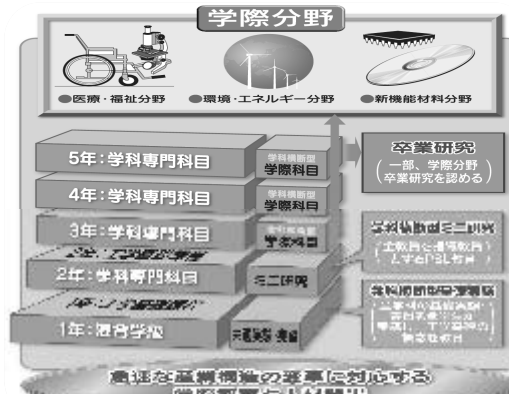
- ・科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- ・自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- ・科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- ・他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

平成24年度入学生より
沼津高専は新しい教育カリキュラムを導入しました

—混合学級と学際教育の導入—

目的 医療・福祉、環境・エネルギーを重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成

- 具体策
- ・低学年 ⇒ 従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるよう混合学級編成を導入
 - ・高学年 ⇒ 所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるよう教育課程を改定



工学基礎Ⅱ (実験・実習風景)



工学基礎Ⅱ・約70名授業



約200名の1年生を3分割・3箇所授業

ミニ研究の様子



ロボカップジュニアに出場しよう



学生寮 現員564名(留学生11名を含む)

男子488名、女子76名 【平成24年7月1日現在】



「翔峰寮」

- 低学年全寮制
- 寮生会による自治運営

学生寮の風景



「談話室」

「マテカ」
上級生による学習指導

教育課程の学年別構成 (機械工学科の場合)

楔型教育カリキュラムの内訳 (総開講単位数: 174単位)

学年	10 20 30 単位									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1年	数学	物理	化学	(他の一般科目)				工学基礎	実習・製図	
2年	数学	物理	化学	(他の一般科目)				実習・製図		
3年	数学	(他の一般科目)				学際科目	応物	実習・製図		
4年	(一般科目)	学際科目	応用数学	応物	実験・演習		専門科目			
5年	(一般科目)	学際科目	卒業研究		実験・演習					

卒業認定修得単位数: 167単位以上

(一般科目: 75単位以上、専門科目: 82単位以上)

学際科目: 医療・福祉(2単位)、環境・エネルギー(2単位)

新機能材料(2単位)

機械実習工場



全学科の学生が
ものづくり実習を体験



安全には特別の配慮



第1演習室

総合情報センター



第2演習室

図書館



学生の福利厚生施設



尚友会館
・食堂
・理容室
・売店

学生支援ゾーン
・学生課事務室
・保健室
・カウンセリング室
・学生生活支援室
・学生キャリア支援室



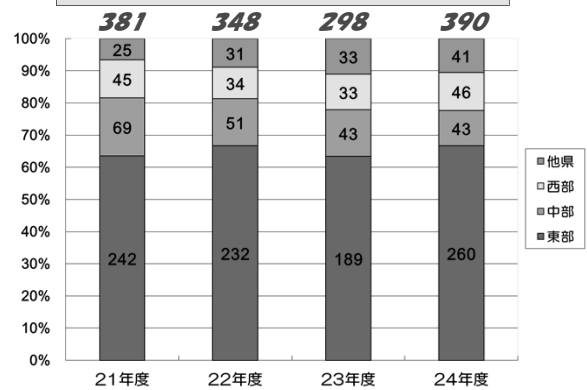
武道場

弓道場



プール

志願者地区別割合 (21~24年度)

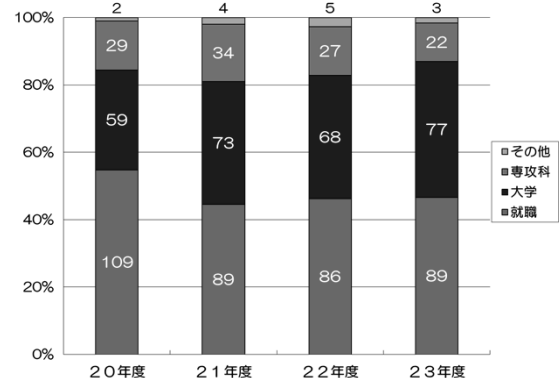


学生数（出身地別 H24.7月現在）

地区別	静岡県			神奈川県	山梨県	その他	外国人留学生	合計
	東部	中部	西部					
学生数	681 (130)	155 (5)	121 (6)	67 (4)	3 (0)	9 (2)	11 (2)	1,047 (149)
割合%	65.0 (12.4)	14.8 (0.5)	11.6 (0.6)	6.4 (0.4)	0.3 (0.0)	0.9 (0.2)	1.1 (0.2)	100 (14.2)

() 内は女子数で内数・割合は、概数

卒業生進路（20～23年度）



大学編入学状況（21～24年度）

大学名	H21	H22	H23	H24	大学名	H21	H22	H23	H24
北海道	0	1	0	3	静岡	7	2	4	3
東北	3	3	1	2	名古屋	0	5	2	4
筑波	7	4	5	3	豊橋技術	7	22	17	16
千葉	4	1	0	2	大阪	0	1	1	1
東京	0	1	1	0	広島	1	1	2	3
東京農工	3	1	4	5	九州	0	2	0	0
東京工業	5	3	2	3	首都	3	3	0	2
横浜国立	2	2	1	1	立命館	0	2	1	0
長岡技術	1	3	7	5	その他	16	16	20	23

平成22年度専攻科修了生大学院入学状況

東京工業大学大学院	3名
電気通信大学大学院	1名
横浜国立大学大学院	1名
奈良先端科学技術大学院大学	5名
計	10名

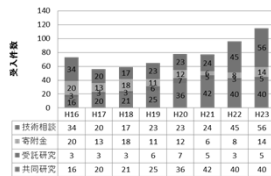
平成23年度専攻科修了生大学院入学状況

東京工業大学大学院	5名
東京農工大学大学院	1名
横浜国立大学大学院	1名
静岡大学大学院	1名
豊橋技術科学大学大学院	2名
奈良先端科学技術大学院大学	5名
計	15名

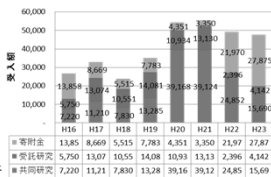
地域共同テクノセンター（平成16年3月竣工）



産学連携実施件数（技術相談含む）



産学連携資金受入額（千円単位）



※事業報告書中の産学連携活動以外（国金利息、教育後援会等）を除く(数字千円上)

外部資金の獲得状況（平成23年度実績） 千円

	外部資金	共同研究	委託研究	奨学寄附金	科研費	その他補助金
1. 阿南高専	410,331	⑤ 10,177	12,977	259,468	10,595	117,114
2. 仙台高専	237,547	5,707	5,443	26,175	77,853	122,370
3. 高知高専	195,080	7,400	27,564	16,656	122,386	12,333
4. 長岡高専	163,999	9,988	108,449	21,781	21,379	2,403
5. 鶴岡高専	157,148	6,531	66,484	15,098	32,058	36,977
6. 奈良高専	145,496	8,707	23,726	36,533	27,041	49,490
7. 沼津高専	125,457	② 15,690	4,142	44,001	16,118	45,505
8. 松江高専	109,023	6,200	7,350	26,981	21,790	46,703
9. 岐阜高専	107,744	④ 10,312	6,660	21,564	42,362	26,847
10. 群馬高専	106,855	① 29,488	3,580	48,021	23,913	1,853
11. 豊田高専	98,224	3,430	804	13,420	33,199	47,371
12. 富山高専	93,245	③ 12,027	18,530	16,619	44,449	1,620
13. 佐世保高専	89,712	3,228	6,094	27,834	36,556	16,000
14. 沖縄高専	89,648	9,020	22,333	9,528	18,031	30,737
15. 福島高専	86,292	6,943	5,098	14,367	24,773	35,111
16. 長野高専	85,372	6,633	6,359	49,454	20,926	2,000
17. 石川高専	80,117	4,930	8,919	8,770	37,024	20,474
18. 大島高専	79,454	1,964	355	16,281	19,792	41,062
19. 宇部高専	78,907	5,345	11,136	12,497	46,516	3,413
20. 香川高専	78,871	8,643	5,735	23,170	23,445	17,878

平成23年度公開講座実施一覧

講座名称	受講対象者	受講者数	満足度
技術士試験対策講座(機械部門・第1次試験)	企業技術者	1	100%
技術士試験対策講座(機械部門・第2次試験)	企業技術者	1	100%
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座①	企業技術者	14	92%
社会人のためのエレクトロニクス基礎講座②	企業技術者	13	92%
大人のためのロボット教室ー ロボカップジュニアの指導者を目指してー	一般社会人	5	100%
パソコン組み立て教室 ーパソコンの仕組みとソフトウェアのインストールー	高校生以上(一般市民)	7	100%

平成24年度出前授業

学科名	授業名	担当教員	定員(目安)	授業概要
機械工学科	山の頂上はどう築く? (三角形を使った設計)	永瀬 昭生 手塚 重久 小林 隆志	40名	円十子の木、分岐橋と本橋を築いて山の頂上を目指す授業を実施します。 (山の頂上には分岐橋、丸い、滑りやすい山頂の頂上を築くために、三角 形を使います。)三角形の特性「三角形の剛性」を用いて構築します。(理 学部学生)
電気電子工学科	身の回りにある電気のしくみ ーベースボールはなぜ音がする? ー音響のA.C.アダプターー	高野 明夫 西村 賢治	20名	日常生活に身近な電気のしくみ、今回はスピーカーとA.C.アダプターです。ス ピーカーはなぜ音がするのでしょうか。A.C.アダプターはなぜ必要なのかの 原理を楽しく学びます。
電子制御工学科	ロボットで光るボールを遊ばせてみよう	川上 誠	25名	パソコンでプログラムを作成し、ワンチップマイコンを使ったロボットが赤 外線を出しボールを遊ばせるように制御します。
制御情報工学科	携帯電話で会話ができる仕組み	山崎 悠史	40名	今や多くの人が利用している携帯電話(ケータイ)ですが、どうしてケータイ で会話ができるのでしょうか。無線の技術に絡んで、携帯電話で会話でき る仕組みを楽しく学びます。理論、回路が楽しく学べるのがこの授業の 醍醐味をぜひ味わってください。
物産工学科	いろいろな電池をつくってみよう、 あてみよう	神川 達夫 大川 誠 長瀬 智也 松本 悠三	25名	ご自身の手で電池のしくみを学びたい「電池作り」、電気工場の テーマパークの工場見学や体験授業です。この授業は、電池のしくみやそ のよさについて学ぶことができます。しかも電池から燃料電池までいろいろ な電池を体験し、つくって遊ばせよう、電池の仕組み、電池のしくみ、電池の 仕組みのしくみも紹介します。
数学科	日常生活の中の数学	鈴木 正樹	40名	数学は社会に出てからの役に立つものではないかと考えられています。実際 は身の回りで数学が活躍しているのです。数学の面白さや生活で数学が 活躍する場面があります。この授業では、数学と生活の関わりについて生活の 中で学んでいる数学の面白さを紹介します。
技術画	電気分解を利用した燃料電池入門	石和 隆夫 松本 悠三	25名	次世代エネルギーとして注目されている燃料電池について学びます。燃料 電池の仕組みや燃料電池のしくみ、燃料電池のしくみや燃料電池のしくみ の仕組みについて楽しく学びます。

※上記の他、21の出前授業を開講

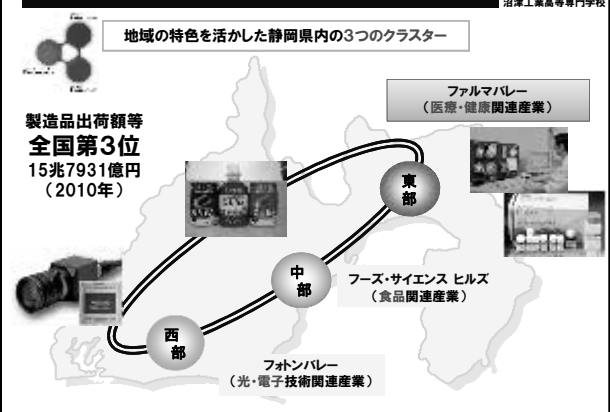
文部科学省 科学技術戦略推進費 事業概要

- プログラム名 「地域再生人材創出拠点の形成」
- 課題名 「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
Numazu National College of Technology

地域再生人材創出拠点の形成

静岡県の産業クラスター施策



地域再生人材創出拠点の形成

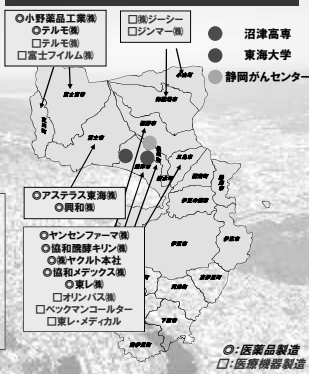
富士山麓地域における産業の特色

医療機器生産金額(平成22年)

都道府県名	順位	生産金額(億円)
静岡県	1	3,069
栃木県	2	1,629
東京都	3	1,204

産業工業生産動態統計年報

富士山麓地域の主な医薬品・医療機器製造所



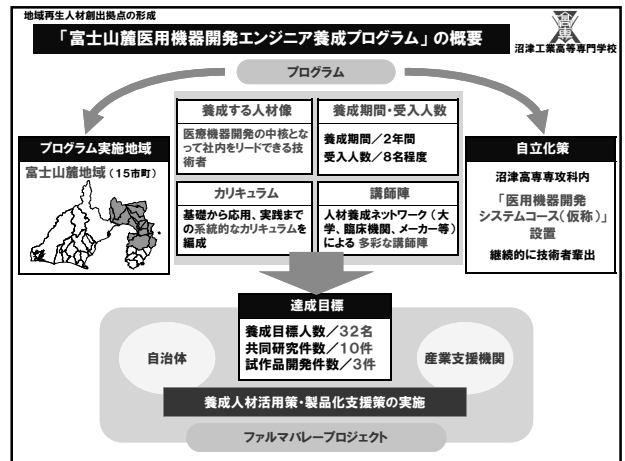
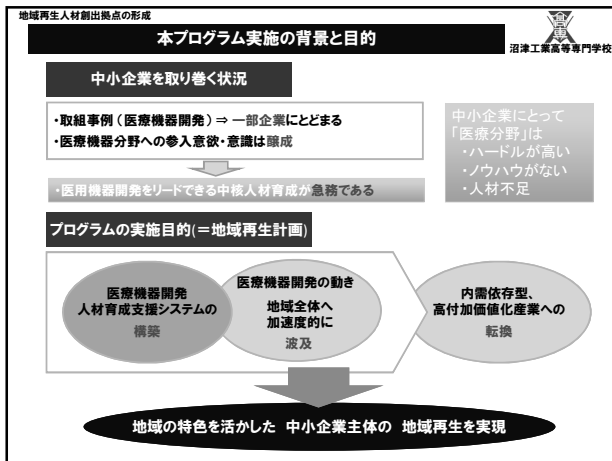
静岡がんセンターの概要

- 病院 (平成14年開設)
- ・ファルマバレープロジェクトの中心機関
- ・専門診療科 38
- ・全国のがん専門病院の中でもトップクラスの評価
- 研究所 (平成17年開設)
- ・8研究部 3研究支援室
- ・患者さんの視点を重視した研究
- ・プロジェクト志向型の研究

地域再生人材創出拠点の形成

富士山麓先端健康産業(ファルマバレー)プロジェクト





高専機構の第2期計画期間の重点課題

課題4 各高専の個性化・高度化の推進

- 各高専の地域ニーズ等を踏まえた個性化・高度化 学科構成の見直し、新分野への展開、専攻科の拡充、学科の大括り化やコース制の導入

↓

沼津高専の 平成24年度 年度計画

- 産業構造が、急変していることを踏まえ、平成23年度に「学際教育導入WG」がまとめた「新教育課程—混合学級と学際教育の導入—」を平成24年度入学生から適用を開始する。
→校長補佐(学際教育担当)が説明。
- 専攻科の拡充に向けて、現在の3専攻(機械・電気システム、制御・情報システム、応用物質工学)を平成26年度を目標に1専攻3コース(新機能材料工学、環境エネルギー工学、医療福祉機器開発工学)に改編し、社会人の医用機器開発エンジニア養成については科目等履修生として継続する。

沼津高専の将来構想

(1) 新教育課程—混合学級と学際教育の導入—の完成

1学年 混合学級、工学基礎教育 2学年 ミニ研究
3. 4. 5学年 医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、新機能材料分野 各6単位の学際教育

(2) 専攻科を平成26年度を目標に、総合システム工学1専攻3コース(新機能材料工学、環境エネルギー工学、医療福祉機器開発工学)に改編し、本科の学際教育とリンクして、新分野に対応できる7年一貫の技術者教育プログラムを構築する。

(3) 地域連携の持続的推進

- 共同研究、委託研究、公開講座、本校学生の共同教育
- 小中学生の理科教育の支援(沼津市と連携協定締結)
- 門池の水質改善と水力発電を通じた環境教育

沼津高専の当面する課題

- 入学志願者数の維持
- 工学基礎教育の充実による留年・退学の減少
教員FD研修会による学生指導力の向上
補習、専攻科生による放課後学習、学生寮のマテカ
- 機械実習工場の改修に伴い、ものづくりセンターに改組し、専攻科の改編に対応するために「医用機器開発実習エリア」を新設する。
平成24年度中に完成する。
- 教員の負担軽減に向けて、「専門科目合同開講WG」が中心となり、平成24年度中に改善策をまとめる。
- 創立50周年記念事業の一環として、育英基金、国際交流基金の創設

沼津工業高等専門学校
平成23年度 年度計画

沼津工業高等専門学校 平成 23 年度 年度計画

(前文)

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・中期計画を踏まえ策定した沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の計画（第2期中期計画）に基づき、平成23年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ① 近隣市町村の教育委員会などとの連携を深め、中学校理科教員への支援策等の検討を含め、更なる中学校との連携強化を図るとともに本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川・山梨県）の中学校への広報活動を引き続き積極的に行う。「中学生のための体験授業」を本年度新たに企画し、10月に実施して入学志願者の増加を目指す。

また、本校創立50周年記念事業（2012年）の開催に向けて近隣の産官との連携を一層緊密にするとともに、効果的な広報活動のあり方について引き続き検討を進める。

- ② 受験生確保の観点から、県内だけでなく高専のない近隣県（神奈川・山梨県）なども対象とした効果的な入学案内等を実施する。

女子学生の志願者確保の観点から、女子在校生及び卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びホームページ（女子の卒業生の情報を意識的に多く盛り込む）などの作成や高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。広報誌及びホームページには、平成24年度入学生から適用する「学際教育－混合学級とミニ研究の導入－」を明記して志願者増につなげる。

- ③ 入試広報部門の学内体制を強化し、各種入試広報活動の内容を見直し、より効果的な入試広報の在り方（選択と集中）を検討する。

中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専

機構に広報資料を提供する。

高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。

- ④ 入学者確保の観点から、入試データと入学後の学力との相関について分析した結果に基づいて、入試方法を改善する。具体的には、推薦基準の見直し、学力選抜方法の見直しを行う。
- ⑤ 入学者の学力水準を維持して、志願者が前年度の人数を下回らないよう努力する。また、過去3年間の推薦選抜、学力選抜の志願者数の推移と内訳を検討し、それらを踏まえ、推薦基準及び学力試験科目等についての見直しを行う。

(2) 教育課程の編成等

- ① 平成22年度の将来構想WGの検討結果に基づいて、平成24年度入学生より1年次混合学級、2年次ミニ研究、3年次以降の学際教育導入に向けてカリキュラム改正案を作成する。平成24年度、1年生に共通実験、2年生にミニ研究を実行するための実施体制を整備する。

専攻科においては、専攻科複合実験に加え、複合領域の教育を充実するための科目の策定を行う。平成22年度高専機構の特別教育研究経費による専攻科に「医用機器開発エンジニア養成のコース制導入」についての調査結果を踏まえ、コース制導入について具体的な検討に入る。

科学技術振興調整費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」が3年目に入り、3期生の入学と同時に、1期生、2期生の修了を迎えるため、その成果物の創出に注力し、併せて事業内容の充実を図る。また、JSTの中間審査に対応するための準備を進める。
- ② 平成24年度、1年生に共通実験、2年生にミニ研究を実行するための実施体制を具体化する。平成24年度に入学する1年生の教育課程表の策定及び1年次混合学級の導入に向けての実施体制の整備と教務上の規則（進級・卒業判定基準など）の改正と整備を図る。
- ③ 英語の学力を学年の推移を追って客観的に把握するため、1,2年生でTOEIC Bridgeテスト、3,4年生でTOEIC IPテストを全学生に受験させることを継続する。3年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続的に参加することにより、該当科目の修得状況の把握に活用すると共に、試験結果の分析を行う。その結果

を教員FD研修会等で全教員に周知して、共通認識を持つことで、専門学科と連携して数学、物理の力を伸ばすなど、教育改善に役立てる。

- ④ 学生による授業評価アンケートの設問項目を改善し、各科目で設定した教育目標の達成度についても評価させる。授業評価アンケートの結果を教員の授業改善に反映させ、改善の実施状況について把握できる仕組みを作る。3年生と5年生による学習到達度自己評価の結果と4年生と5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価は継続して実施し、教育課程の改善や教材の充実等に役立てる。卒業生による学校評価の継続的实施について、頻度や実施方法について検討する。

- ⑤ 高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。また、高専フォーラム・シンポジウムや各学会及び各協会の発表会、近隣大学との共同発表会などにおいて、学生の研究発表を積極的に進めるための支援を行う。

専攻科では、例年と同様、近隣大学間共同学生研究発表会や高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表の機会について、学生への情報提供に努め、研究発表を奨励する。

- ⑥ 学校内外での清掃、スキー研修などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等、ボランティア活動への参加を推進するとともに取り組みを支援する。

工場見学など生産現場を見学する機会に、実際の社会での「清掃」や奉仕の精神の重要性を学ぶ場を増やすよう努力する。

校外清掃などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等やボランティア活動への学生の参加を推進するとともに取り組みを支援する。

(3) 優れた教員の確保

- ① 教員の採用は公募制を原則とする。昨年度と同様、本校外の勤務経験や1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。

- ② 豊橋技術科学大学へ制御情報工学科教員1名を人事交流で送り出し、豊橋技術科学大学から教員1名を制御情報工学科に受け入れる。
- ③ 昨年度と同様、専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。
- ④ 女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。また、寮においては、引き続き女性教員の要望に基づき、女子寮巡回日（曜日）を設定して実施する。
- ⑤ 教員相互の授業参観を昨年度に引き続き実施する。昨年度の反省をもとに、より効果的な方法となるよう改善を図る。
前年度に引き続き、教員FD研修会を最低年4回（5月、7月、10月、12月予定）実施し、教員個々の教育力向上に資するための取り組みを継続する。静岡県総合教育センターを利用した教員研修の有効性を調査検討する。
- ⑥ 引き続き、優秀な教員への意識の高揚の観点から、機構本部で実施する教員顕彰制度について、優秀な教員を表彰対象者として積極的に推薦していく。
- ⑦ 引き続き、教員の国内外の大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進するとともに、それらの円滑な遂行に向けての学内体制（非常勤講師等の予算措置等）の整備を図る。教養科教員1名（物理）を高エネルギー物理学研究所へ10ヶ月間派遣する。

（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ① 機構が主催する「全国高専教育フォーラム」や各種シンポジウム等に積極的に参加する。平成20年度から引き続き開催されている「高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」及び「PBL方式の学生による3次元デジタル設計造形コンテスト」に参加し、設計教育に対する学生のモチベーショ

ンの向上に努める。高等専門学校情報処理教育研究委員会の委員長校として、鹿児島大学を会場として8月に開催予定の第31回高等専門学校情報処理教育研究発表会の企画運営を行う。

「高専と地域が連携したエコタウンづくり―門池の水質改善と水力発電を通じた環境教育―」のプロジェクトを高専機構の改革推進経費に申請し、全学科の教員が参加協力して環境教育やエンジニアリングデザイン教育の充実を図る。

- ② 資格取得の実績データをまとめ、資格取得の推進に役立てる。

専攻科においては、平成21年度受審のJABEEの審査結果に基づき、引き続き学習教育目標の達成度評価方法の明瞭化等の改善策について、専攻科企画・運営委員会を中心に検討を進める。

- ③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学及び静岡大学との具体的交流の実現を図る。学生会、寮生会を通じた行事等において、他高専学生等との交流活動を積極的に推進する。寮については、平成23年度も他高専との交換寮生制度を積極的に推進し、実施する計画である。

- ④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査収集し、本校のWeb上に公開する。全教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用するとともに、工夫実践を促す体制作りを進める。全国高専で実践している新しい教育方法の試み、効果的な取り組み事例を継続して調査し、効果的な事例を全教員に情報提供し教育改善に役立てる。

- ⑤ 大学評価・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価を受審する。6月末日までに自己評価書を作成し提出する。機関別認証評価の自己評価書に係る書面審査及び秋に実施される訪問調査等に組織的に対応するための体制整備を図る。

- ⑥ 企業技術者等を活用した「ものづくりステップアップ実践プログラム」の一部を改編し、本校OBをアドバイザーに依頼してキャリア教育のプログラムを新たに作成して試行する等、キャリア教育の強化及びインターンシップの活性化等、地域企業との「共同教育」の推進を図る。キャリア教育、インターンシップ等を支援する組織として「学生キャリア支援室」の必要性について検討する。

- ⑦ 本校OBをアドバイザーに依頼してキャリア教育のプログラムを新たに作成して試行する。

- ⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学及び静岡大学をはじめ、豊橋技術科学大学等との連携を生かした具体的取組を实践する。本校の制御情報工学科教員1名が豊橋技術科学大学で、豊橋技術科学大学教員1名が本校制御情報工学科でそれぞれ1年間行う教育・研究の体験を通して互いの連携を一層深める。大学ネットワーク静岡に継続して所属し、県内大学との連携・情報交換を継続して行う。
- ⑨ 高専IT教育コンソーシアムのメディア教材の活用も視野に入れつつ、Moodleで利用可能な他のコンテンツの利用も含めて学内e-ラーニングコンテンツの充実を図る。高専機構が進めているICT活用推進事業に積極的に協力する。
- ⑩ 総合情報センター、電子制御工学科、制御情報工学科の情報処理演習室の教育用計算機システムにおいて、ソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を提供する。
- ⑪ 一般科目と専門科目の教授内容等に関する情報交換の機会を継続的に持ち、学科の枠を越えた教員相互の授業参観を実施する。
全学科教員が参加する年4回開催予定の教員FD研修会を活用して教員の教育力向上と教育の質の向上を図る。

(5) 学生支援・生活支援

- ① メンタルヘルスに関する学生支援、キャンパスハラスメント、AEDを含む救命救急に関する講習会等を継続して実施する。独立行政法人日本学生支援機構の主催する学生支援、就職・キャリア支援等の研修会やメンタルヘルス研究協議会に教員を派遣して学生支援体制の充実に努めるとともに、全ての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員FD研修会にて実施する。また、「友人づくり支援」を念頭に1年生、3年生の宿泊研修を活用する。
学生生活支援室においては、週日15:30から17:00または18:30まで、学生生活支援ゾーン（相談室・学生生活支援室）に学生生活支援室員（週3日）または外部カウンセラー（週2日）が待機し、学生の多様な悩みに対応する。学生の個々の悩みの吸い上げの手段として、学生アンケートを実施。全学生にメンタルヘルスチェックの実施。各種メンタルヘルス関連の研修会、協議会に出席。教職員に対しての更なるメンタルヘルスに関するFDを行う。
寮では春季および夏季寮生会リーダー研修において救命救急講習を実施する。

- ② ハイブリット図書館構想の一環として、2年前に増設した情報検索用端末を有効に活用すると共に、図書館における自主学習スペースのさらなる充実を図る。開館時間は平日は8:30~20:00(長期休業中は17:00)、土・日曜日は9:00~16:00(年末年始等除く)で学習サポート体制を維持する。今後は利用実態の調査分析について検討し、充実した体制をめざしていく。
- ③ 各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報の更新を行う。同窓会奨学金の活用並びに産業界等の支援による奨学金制度創設の可能性について調査する。
- ④ 従来の各学科における進路指導を継続的に行うことに加え、キャリア教育の立案、キャリアカウンセリング、さらに就職・進学に関する詳細情報を整理し各学科へ配信を行うなどの業務をワンストップで行う「学生キャリア支援室」の創設に向けた調査・検討を継続して行う。
- ⑤ 昨年度に引き続き、他高専における学生に対する福利厚生施設の運営状況を調査し、本校尚友会館の運営の在り方について検討する。

(6) 教育環境の整備・活用

- ① 全学的な視点に立った施設マネジメントの充実を図るとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として施設管理に係るコストを把握し、整備計画に基づきメンテナンスを実施する。

教室・ゼミ室・実験室等の老朽化・稼働率等の状況を確認し、本校の施設的課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施していく。

本校の「ものづくり」教育の拠点である機械実習工場再編に向けて、平成23年度も引き続き第1機械実習工場改修を概算要求していく。(平成23年度評価結果:総合評価S)また、第1・第2機械実習工場を改修し、「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の自立化に向けて教育環境の整備・改善・充実を図る。
- ② 施設の老朽度・狭隘化、耐震性、稼働率、ユニバーサルデザイン等の導入状況の実態を調査・分析した上で本校のマスタープランを再構築する。今後、そのプランに基づき、施設整備を推進・実現できるような全体計画を策定する。

また校舎等の省エネ・CO₂削減などエコ対策事業についても、本校の「エネ

ルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」に基づき、実施していく。今年度は、寮の日照調整フィルム・武道館等の屋根遮熱塗料塗り・電力監視システム（第3期）・外灯の省エネ化等の省エネ事業を実施する。

- ③ 現在行っている安全衛生管理のための年二回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。平成22年度に作成した安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を積極的に派遣する。

2 研究に関する事項

- ① 引き続き高専機構及び技術科学大学が公募するプログラム並びに文部科学省等が公募する競争的資金の獲得に向けて積極的に応募すると共に、学校間の共同研究に関する情報を得るため、広域の産学連携関連イベント（科学・技術フェスタ in 京都，全国高専テクノフォーラムなど）に積極的に参加する。

また、地域産業界に研究成果を公開する「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」を昨年度に引き続き主催する。

さらに、外部資金獲得に向けた説明会を開催すると共に、メール配信や Web 掲載により教員への通知の促進を図る。

- ② 昨年度に引き続き、県・市町村や商工会議所のイベントに積極的に参加し技術相談を行うと同時に、本校教員の研究活動や設備等を積極的に紹介して、共同研究・受託研究の受入につなげるとともに、テクノセンターニュースの発行、教員の研究シーズ集の内容更新を行い、積極的に情報を発信する。

- ③ 昨年度に引き続き、技術科学大学が公募する共同研究に積極的に応募する。「スーパー地域産学連携本部」が主催する催しに参加するとともに、KNTnet（技術マッチングシステム）も活用し教員の研究成果の社会還元を推進する。また、引き続き新TLO（静岡TTO）への協力も含め、研究成果の幅広い社会還元を検討する。

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

- ① 静岡県の東部地域再生計画に基づき、引き続き「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業を主催し、医用機器開発技術者の養成を行うことにより地域貢献を推進する。
- ② 広報誌の発行、産学連携行事を引き続き実施すると共に、昨年度刊行した本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、昨年度リニューアルしたテクノセンターホームページ及び教員が登録している KNTnet（技術マッチングシステム）と併せて研究シーズを積極的に発信する。また、引き続き「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」や「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催し及び積極的に参加し、共同研究等の成果を発信する。
- ③ 近隣市町の教育委員会に働きかけ、中学校教員との情報交換や中学校理科教員の支援などについて検討する。中学生を対象とした体験授業を新たに企画して10月に実施する。
- ④ 公開講座は、平成23年度からは、社会人対象の講座を中心に実施することとし、そのためのニーズや内容について引き続き検討を行う。
- ⑤ 本校創立50周年記念事業の立案・実施に向け、同窓会とのより一層の連携を深める。また、卒業生に関する情報収集の方法について検討する。機構本部が推進する他高専の同窓会との連携に引き続き協力する。
- ⑥ 高専機構が推進するシンガポールのポリテクとの国際交流事業等に積極的に参加する。学生の語学研修や異文化体験事業を推進する観点から、アメリカ（シアトル）にて語学研修を実施する。
- ⑦ 前年度に引き続き、機構主催の「海外インターンシップ・プログラム」に専攻科生を応募させる。
- ⑧ 引き続き、留学生の受け入れに必要な施設として、留学生・専攻科生用寄宿舍新設の予算要求を行う。高専機構が主催する私費留学生の受入を前向きに検討する。

- ⑨ 在籍する留学生を対象とした見学旅行を前年度に引き続き実施する。また、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加する。

4. 管理運営に関する事項

- ① 昨年度に引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングを行い、戦略的かつ計画的な配分を行う。

- ② 東海・北陸地区国立高等専門学校校長会議及び国立高等専門学校教員出身校長研究会等に参加し、積極的な情報収集を行うとともに、それらを踏まえて本校の管理運営の在り方について、更に検討を進める。また、主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修【管理職研修】に積極的に参加して検討を進める。

本校の外部評価機関である「運営諮問会議」をさらに充実し、本校の円滑な運営を図る。

- ③ 高専機構において示された「事務マニュアル」に基づき運営業務を実践し、業務の効率化を図る。

- ④ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。

技術職員については、東海・北陸地区高等専門学校技術職員研修会及び西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修等に参加させる。また、技術職員の能力向上および地域貢献のため、その他の研修会や研究発表会に積極的に参加するとともに、技術職員が積極的に参画した公開講座や出前授業の実施についても検討する。

- ⑤ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの人事交流を積極的に推進する。技術職員の人事交流についてはこれまで同様、技術長会議等で積極的に検討する。

- ⑥ 平成 22 年度に総合情報センターに移行した e ラーニングシステムと専攻科の業務システムを、管理面と利用者の利便性の面からカスタマイズする。「業務情報ポータルサイト」についても、より利用しやすくするために、ページ構成などの調整を行う。

⑦ その他

昨年度に引き続き、本校の目的に適合するように各種委員会及び諸規則の見直しを行うとともに、各会議時間の短縮等効率的な会議の運営を実践する。

5. その他

昨年度に引き続き、本校の創立50周年記念事業の実施に向けて準備を進める。
創立50年史編集委員会を設置して編集を進める。
法人格を有する「静岡県東部地域産学官連携振興会（仮称）」の設立準備を推進する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。

引き続き、リーダーシップ経費等の戦略的かつ計画的な配分を行うとともに、契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。

引き続き、高専機構で実施する高専相互会計監査を受審する。

III 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。

IV 短期借入金の限度額

（該当無し）

V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

本校所有の土地の譲渡を検討する。

香貫宿舍団地（静岡県沼津市南本郷14-27）・・・288.19㎡

VI 剰余金の使途

(該当無し)

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

教育研究の推進や学生の福利厚生の改善に必要な施設整備の一環として、実習工場の改編や昨年度完成した学生支援ゾーン内への「学生キャリア支援室」の設置を検討するとともに、尚友会館の利活用整備等について具体的に計画をし、実施していく。教室・ゼミ室・実験室等の老朽化・稼働率等の状況を確認し、本校の施設の課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施に向け調整していく。

2 人事に関する事項

(1) 方針

教員の技術科学大学及び高専間交流を活用するなど、教職員の人事交流を積極的に進め、多様な人材の育成を図ると共に、各種研修に積極的に参加し資質の向上を図る。また、事務職員の他県の機関との人事交流を検討する。

(2) 人員に関する計画

常勤職員の職務能力向上のため、「機構職員の業務改善目標等実施要領（平成20年7月17日制定）」に基づき、各自の業務改善に係る達成目標を明確に設定させ評価を実施する。また、引き続き再雇用制度を活用した有効な人事配置を計画し実施する。

3 積立金の使途

(該当無し)

以上

平成23年度 年度計画
自己点検評価表

沼津工業高等専門学校 平成23年度 年度計画 自己点検評価表

沼津高専第2期中期計画	年度計画実施状況	担当部署	自己評価点
<p>1 報告に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>① 近隣地域の中学校長や中学校PTAなどの総機との関係を確認し、説明会や体験入学などの協力を積極的に進め、本校の魅力を伝えるとともに、マスコミ等への広報活動を積極的に行う。</p>	<p>① 入学者の確保</p> <p>① 近隣地域の中学校長や中学校PTAなどの総機との関係を確認し、説明会や体験入学などの協力を積極的に進め、本校の魅力を伝えるとともに、マスコミ等への広報活動を積極的に行う。</p> <p>② 近隣地域の中学校長や中学校PTAなどの総機との関係を確認し、説明会や体験入学などの協力を積極的に進め、本校の魅力を伝えるとともに、マスコミ等への広報活動を積極的に行う。</p>	<p>アドミッション委員会</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>(2) 入学者の確保</p> <p>② 中学生在やその保護者を対象とする各学校在学案内に活用できる広報制作物について、本校が提供する資料や書籍が充実しているか、学生のニーズを把握しているかを評価する。</p>	<p>② 本校が提供する入学者案内やその保護者を対象とする各学校在学案内に活用できる広報制作物について、本校が提供する資料や書籍が充実しているか、学生のニーズを把握しているかを評価する。</p> <p>③ 中学生在やその保護者を対象とする各学校在学案内に活用できる広報制作物について、本校が提供する資料や書籍が充実しているか、学生のニーズを把握しているかを評価する。</p>	<p>アドミッション委員会</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>(3) 入学希望者の確保</p> <p>③ そのづくりに関心と意欲を有する者など沼津高専の教育方針に共感し、入学希望者を積極的に確保するための入試方法の見直しを行う。</p>	<p>③ そのづくりに関心と意欲を有する者など沼津高専の教育方針に共感し、入学希望者を積極的に確保するための入試方法の見直しを行う。</p> <p>④ 入学希望者の確保</p> <p>④ 入学希望者の確保</p>	<p>アドミッション委員会</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>(4) 入学希望者の確保</p> <p>④ 入学希望者の確保</p> <p>④ 入学希望者の確保</p>	<p>④ 入学希望者の確保</p> <p>④ 入学希望者の確保</p> <p>④ 入学希望者の確保</p>	<p>アドミッション委員会</p>	<p style="text-align: center;">S</p>
<p>(5) 入学希望者の確保</p> <p>⑤ 入学希望者の確保</p> <p>⑤ 入学希望者の確保</p>	<p>⑤ 入学希望者の確保</p> <p>⑤ 入学希望者の確保</p> <p>⑤ 入学希望者の確保</p>	<p>教授委員会 アドミッション委員会 授業委員会</p>	<p style="text-align: center;">S</p>

沼津工業高等学校 平成23年度 年度計画 自己点検評価表

<p>③ 専攻科やサークルや部内学習などの多様な方法で学校の特色を伸ばした学生の交流活動が盛況である。</p>	<p>③ 特別行事における高大連携実習講座への学生の参加が伸びた。本校卒業生が活躍している分野(17年)や18年(多人数)静岡市の「リアルアップ」にて平成23年度卒業生交流会 in 静岡が開催された。北は八戸、南は沖縄まで19高、母校で名を上げた参加し、交流を深めた。</p> <p>④ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・教務主事 ・事務主事</p>	<p>③ 特別行事における高大連携実習講座への学生の参加が伸びた。本校卒業生が活躍している分野(17年)や18年(多人数)静岡市の「リアルアップ」にて平成23年度卒業生交流会 in 静岡が開催された。北は八戸、南は沖縄まで19高、母校で名を上げた参加し、交流を深めた。</p> <p>④ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>
<p>④ 特色ある教育方法の取り組みを促進するため、案内で行われている新しい取り組み、効果的な取り組みを取り上げ、学校全体や公の場等で公開する。また新しい教育方法の試みを行いやすい体制を整備する。</p>	<p>④ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・教務主事</p>	<p>④ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>
<p>⑤ インターネットの取組を継続し、産業界との連携を継続的に進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑤ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑤ インターネットの取組を継続し、産業界との連携を継続的に進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>
<p>⑥ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑥ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・校長 ・教務主事 ・学生主事</p>	<p>⑥ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>
<p>⑦ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑦ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑦ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>
<p>⑧ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑧ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・校長 ・教務主事</p>	<p>⑧ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>
<p>⑨ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑨ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・校長主事 (e-LearningWG)</p>	<p>⑨ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>
<p>⑩ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑩ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・総合情報センター長</p>	<p>⑩ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>
<p>⑪ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>	<p>⑪ 今年度始めに2体の工芸支援機の報告があり、昨年度のものに加えWebで案内に公開し、今後さらに、継続的に豪華Webで案内に公開していく。</p>	<p>・校長主事 ・特定業務担当部長兼主任</p>	<p>⑪ 企業との連携推進等、知識・技術をもった人材を必要とする産業界との連携を継続し、効果的な取組を進めるとともに、進捗状況の把握による効果的な取り組み、教材の開発など共同教育推進の実現体制を整備する。</p>

沼津工業高等専門学校 平成23年度 年度計画 自己点検評価表

<p>(5) 学生支援（生活支援等）</p> <p>① 中学校卒業後後の学生を支援し、かつ、単独以上の学生が数人出席を定めている特性を踏まえ、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施する。</p>	<p>(5) 学生支援（生活支援等）</p> <p>①メンタルヘルスに関する学生支援は、教員6名、カウンセラー2名を体制による支援を継続して行っている。キャンパス・ハウス・イベントについては、学生生活支援部を中心とした組織的対応を必要とせず、AEDを含む救急処置については、すべてのスタッフの代表者と顧問を対象に年一回実施した。単立行政法人日本学生生活支援機構の主催する模擬、キャリア支援の研修会、メンタルヘルス研修会に教員を派遣し、最新の支援情報を学んだ。全ての教員を対象としたメンタルヘルス講習会を教員70研修会にて実施した。また「五人づくり」支援を急頭として3年生の信用研修を実施した。学業においては、進学支援センター・研修会中、平成23年度教員対象に東京消防学院にて救命救急講習を行った。</p>	<p>学生支援 生活支援 学生生活支援部</p>	<p>A</p>
<p>② 服装類の交換や高学年の改善などの計画的な整備を図る。また、情報類の増設やソフトウェア・ハードウェアの更新など、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施する。</p>	<p>② ハンドブック・図書情報も更新してより利用を促進した結果、平成22年度は前年度と比較して利用率が30%、貸出冊数が10%程度増加しており、この状況を今後継続していきいたい。また、読書感想文も増加した。読書奨励計画に関しては、図書類の整備については、書籍計画WVGを立ち上げ特委計画も含めた検討を行うとともに、学生等の課題について、学内の指導体制を体系的に構築していく予定である。</p>	<p>図書部長 図書主事</p>	<p>A</p>
<p>③ 学生が活用している各種制度などの学生支援に係る情報類の増設やソフトウェア・ハードウェアの更新など、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施する。</p>	<p>③ 各種学生金に関する情報をホームページ上に掲載している。本年度は、後期口付、前年度より奨学金の支援額を増やした。また、本年度終了する予定であった卒業生からの奨学金制度に関するアンケート調査も実施して頂くことができた。</p>	<p>学生主事</p>	<p>A</p>
<p>④ 学生の選定や希望に応じた施設整備や専門職による相談体制を充実させる。</p>	<p>④ 本年度、本校OB（現生）キャリア教育コーディネーターとして活躍し、本校のキャリア教育の推進、支援に貢献して頂いた。加えて、9月にはキャリア支援室をオープンし、進路に関するワンストップ支援体制を構築して頂いた。キャリア教育の推進は、1年生および2年生を対象にキャリアガイダンスを実施した。</p>	<p>学生主事 専務部長</p>	<p>S</p>
<p>⑤ その他</p>	<p>⑤ 施設整備委員会を中心とし、前年度の調査の在り方について検討を行った。その結果、前年度2月は、学生生活支援部（学生生活部、施設整備部）を再編することとし、改称、移転が行われた。</p>	<p>学生主事</p>	<p>A</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <p>① 多様な教育環境の活用を促進し、施設・設備の改善やソフトウェア・ハードウェアの更新など、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施する。</p>	<p>① 本学的な視点から見た施設・設備の改善やソフトウェア・ハードウェアの更新など、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施した。また、キャリア支援センター・研修会中、平成23年度教員対象に東京消防学院にて救命救急講習を行った。</p>	<p>施設整備計画委員会</p>	<p>A</p>
<p>② 教育環境の改善や高学年の改善などの計画的な整備を図る。また、情報類の増設やソフトウェア・ハードウェアの更新など、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施する。</p>	<p>② 本校ソフトウェア・ハードウェアの更新など、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを念のため学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施した。また、キャリア支援センター・研修会中、平成23年度教員対象に東京消防学院にて救命救急講習を行った。</p>	<p>施設整備計画委員会</p>	<p>A</p>

沼津工業高等専門学校 平成23年度 年度計画 自己点検評価表

<p>① 本校の所長、教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。また、安全委員会に所属する教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。</p>	<p>③ 講義室については、安全に関する講習及びシミュレーションに関する講習の2回、安全ハロートルを1回実施した。また、安全委員会に所属する教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。</p>	<p>安全衛生委員会 安全衛生委員</p>	<p>A</p>
<p>2. 研究に関する事項 ① 産学連携及び技術者養成 ② 産学連携及び技術者養成 ③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>① 産学連携及び技術者養成 ② 産学連携及び技術者養成 ③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>地域連携、研究委員 地域連携、研究委員</p>	<p>A</p>
<p>② 本校の所長、教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。また、安全委員会に所属する教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。</p>	<p>② 本校の所長、教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。また、安全委員会に所属する教員、学生、教職員、関係機関等からなる「安全委員会」を設置し、安全に関する事項について、定期的に協議を行う。</p>	<p>地域連携、研究委員 地域連携、研究委員</p>	<p>S</p>
<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>地域連携、研究委員 地域連携、研究委員</p>	<p>A</p>
<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>地域共同アンソセン 地域共同アンソセン</p>	<p>A</p>
<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>地域連携、研究委員 地域連携、研究委員</p>	<p>S</p>
<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>③ 産学連携及び技術者養成 ④ 産学連携及び技術者養成</p>	<p>地域共同アンソセン 地域共同アンソセン</p>	<p>A</p>

沼津工業高等専門学校 平成23年度 年度計画 自己点検評価表

<p>⑤ 本校の卒業生の動向を把握するとともに、卒業生のネットワーク作りとその活用を図る。</p>	<p>1.校長 2.理事 3.主事</p>	<p>⑤ 本校創立50周年記念事業の立案・実施に際し、同窓会及び二重の連携を図る。また、同窓会からの情報提供や、同窓会からの協賛金を活用して、本校の発展に貢献する。</p>	<p>⑤ 10月31日(月)～11月1日(火)、タイのキングメンプロジェクト大学(以下「キングメン」)との国際交流事業等を実施し、参加した。また、タイのキングメンプロジェクト大学との国際交流事業等を実施し、参加した。</p>	<p>A</p>
<p>⑥ 安全への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進する。また、海外との国際交流やインターンシップを促進する。</p>	<p>国際交流委員会 特定業務担当校長 特定業務担当教員</p>	<p>⑥ 安全への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進する。また、海外との国際交流やインターンシップを促進する。</p>	<p>⑥ 10月31日(月)～11月1日(火)、タイのキングメンプロジェクト大学(以下「キングメン」)との国際交流事業等を実施し、参加した。また、タイのキングメンプロジェクト大学との国際交流事業等を実施し、参加した。</p>	<p>S</p>
<p>⑦ 留学生の受け入れ拡大に向けて留学生向けの施設の充実を図る。</p>	<p>国際交流委員会 特定業務担当校長 特定業務担当教員</p>	<p>⑦ 留学生の受け入れ拡大に向けて留学生向けの施設の充実を図る。</p>	<p>⑦ 留学生の受け入れ拡大に向けて留学生向けの施設の充実を図る。</p>	<p>S</p>
<p>⑧ 在籍する留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に際する研修旅行などを企画、立案、実施する。また、東海地区5専門学校との連携に積極的に参加する。</p>	<p>国際交流委員会 特定業務担当校長 特定業務担当教員</p>	<p>⑧ 在籍する留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に際する研修旅行などを企画、立案、実施する。また、東海地区5専門学校との連携に積極的に参加する。</p>	<p>⑧ 在籍する留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に際する研修旅行などを企画、立案、実施する。また、東海地区5専門学校との連携に積極的に参加する。</p>	<p>B</p>
<p>⑨ 管理運営に関する事項</p>	<p>国際交流委員会 特定業務担当校長 特定業務担当教員</p>	<p>⑨ 管理運営に関する事項</p>	<p>⑨ 管理運営に関する事項</p>	<p>A</p>
<p>⑩ 本校の管理運営の効率化・合理化を図る。また、事務マニュアルの充実を図る。</p>	<p>校長</p>	<p>⑩ 本校の管理運営の効率化・合理化を図る。また、事務マニュアルの充実を図る。</p>	<p>⑩ 本校の管理運営の効率化・合理化を図る。また、事務マニュアルの充実を図る。</p>	<p>S</p>
<p>⑪ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要に応じて研修を実施する。また、研修生やインターンシップ生などへの指導を行う。</p>	<p>事務部長 技術部長</p>	<p>⑪ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要に応じて研修を実施する。また、研修生やインターンシップ生などへの指導を行う。</p>	<p>⑪ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要に応じて研修を実施する。また、研修生やインターンシップ生などへの指導を行う。</p>	<p>A</p>
<p>⑫ 本校が管理運営する計画システムの利用管理の効率化を図る。</p>	<p>校長 事務部長 技術部長</p>	<p>⑫ 本校が管理運営する計画システムの利用管理の効率化を図る。</p>	<p>⑫ 本校が管理運営する計画システムの利用管理の効率化を図る。</p>	<p>A</p>

平成23年度 年度計画
評価シート意見対応表

沼津工業高等専門学校 運営諮問会議委員
平成 23 年度 年度計画 自己点検評価 評価シート意見対応表

1. 教育に関する事項	学校側の対応等について (校長、副校長、4 校長補佐及び該当の各委員会 委員長等の意見)
<p>(1) 入学者の確保について (柳澤委員長) ・入学者確保のための工夫や努力が十分になされており、成果も上がっている。 ・H24 年度入試より社会を加え数学の傾斜配点を止めたことの検証を行うことが望ましい。 ・Web で入学者選抜実施状況表を公表しているが、志願者、受験者の男女区別は不要ではないか。(合格者における女子数を内数で示すだけで十分では) ・専攻科の入試についての検討はなされているか。(例えば、募集定員に対して合格者が多すぎないか) (若原委員) ・入学者の確保に向けて努力されており、推薦基準の見直し等、大きな改革を行っておりこの点では大変良いと思います。女子学生の増加については、就職率の良さ(100%)と進路情報や社会で活躍している OG の情報を積極的に広報して、高専教育だから出来るキャリアの獲得を、中学教員や父兄にも分かる様に広報されては如何でしょうか。 ※自己点検票の中で、年度計画では、「志願者の増加を目指す」と表記しているので、実施状況でも志願者の数について触れる必要があると思います。 (三津濱委員) ・高専の紹介等の活動で、適正な入試倍率での入学者確保は生徒の質向上にもつながっている。 今後、高専生の規模拡大の取り組みを機構にも働きかけてほしい。 (丸田委員) ・年度計画と実施状況は、意欲的に取り組んでいることがわかります。新しい取り組みが数多くなされていますので、これらの結果をしっかり分析して次のアクションに結びつけていただきたいと思います。 ・女子学生の志望増に向けた取り組みは、一步一步前進している印象を受けます。今までの取り組みが、資料での紹介が中心のようですので、女子の在校生と志望者が直接話す場を設けるなどの取り組みをしてはいかがでしょうか。 (名倉委員) ・海外からの入学者を一定枠確保して、学生の外人対応経験を積ませて欲しい。</p>	<p><担当部署> ○アドミッション委員会(校長、副校長) ・例年、入試成績と入学後成績との相関関係などについて分析を行っており、今年度入学者においても選抜方法の変更に伴う分析も含め、学力水準維持のための継続した検証を進めて行きます。 ・入学者選抜実施状況表の女子数については、女子の受験生が志望学科を決定する際に、参考となる情報の一つであると考えているため、志願者についても内数で記載しています。 ・専攻科の入試制度については、専攻科入試実行委員会において継続して選抜方法の改善や見直しなどを行っており、例年、適正な入学者数が確保できています。 ・女子学生の志願者確保に向けた取り組みについては、様々な広報活動(中学校訪問、進学説明会、キャンパスツアーなど)の中で、中学教員や保護者に対しても積極的にPRを行っています。 ※入学志願者数は、23年度の 298 名に対し、24年度は 390 名と対前年度比31%の増加となっています。 ・機構本部では、産業構造の変化等に対応するため、各高専の学科改組・改編などの取り組みを積極的に推進・支援しており、本校においても専攻科改編(平成26年度からのコース制の導入)について検討を進めています。 ・選抜方法の変更に伴う分析も含め、学力水準維持のための継続した検証を進めて行きます。 ・一日体験入学、中学生のための体験授業、高専祭など本校で行う広報イベントでは、本校在校生と中学生が直接話せる機会は様々ありますが、本校の取り組みとして、特別な企画は設けられていないため、今後、検討を進めて行きます。 ・従来より本校では、国費留学生、マレーシア政府派遣留学生の受け入れを積極的に行っており、今後、私費留学生の受入(全国国立高専による私費留学生対象の3年次編入試験への参加)についても推進することとしています。 また、施設面においても留学生の受入拡大に向けた寄宿寮等の整備を推進することとしています。 ・学生の国際性の涵養については、外国人留学生との交流だけでなく、海外語学研修の実施、国際学会での発表、海外インターンシップの促進、海外シンポジウム・海外技術者英語研修への参加など様々な取り組みが行われています。</p>
<p>(2) 教育課程の編成等について (柳澤委員長) ・カリキュラムの改正や実験・演習的なテーマの内容検討は適切になされている。 ・学生のボランティア活動などに関し、東日本大震災に係わる活動もあったのではないかとと思われるが、もしあったならばそれに関する記述が欲しかった。 (若原委員) ・教育課程の再編の中で、身につけるべき内容の調査結果を反映させる、科目の連携を理解する上で重要な研究に近いレベルを2年生で経験させるミニ研究の導入など、実践的技術者育成を見据えた教育改革が行われておりすばらしいと思います。 ※自己点検表の中で、⑤、⑥の取り組みについては、高専の</p>	<p><各担当部署> ○教務委員会(教務主事) ○学生委員会(学生主事) ○専攻科長(校長補佐) ○学際教育担当(押川) ・平成 24 年度新入生より混合学級編成とし、専門学科に固定しないクラス編成となった。新 1 年生に対しては、工学基礎Ⅰ(座学・通年 1 単位)において各クラス学生を三分割し、三箇所の講義場所で「工学の初学者に必要な工学の基礎(安全教育を含む)」を講義しています。工学基礎Ⅱでは工学基礎Ⅰと連動させながら、機械系・電気系・情報系・化学系・ものづくり系の 5 分野にわけた実験・実習をクラス・ローテンションで開始しました。2 年生のミニ研究では、体調不良の教員を除いて全員教員が指導教員として、概ね 2~3 人の学生指導を指導する授業が開始しました。9 月 28 日はミニ研究の発表会であり、保護者の参観も可能とする公開発表会とする予定です。</p>

組織的取り組みが分かるように記述されると、単に個人が頑張ったのではないことが分かるので良いと思います。

(三津濱委員)

・時代に即したカリキュラムで、実践に強い技術者の育成に努めている。学生個々の成長には差があるはずであり、期間を与えれば伸びるもののために、単位制で4年で卒業資格に届かなくとも留年出来るような制度の検討をお願いしたい。

(丸田委員)

・産業構造の変化に対応し海外展開を加速する企業が増えており、英語（英会話）の重要性は益々高まっています。企業としては、英語（あるいは外国語）のできる学生を求めており、学生時代にレベルをあげることが社会に出てからも役に立つことから是非今後とも力を入れて欲しい。

・ボランティア活動などの社会奉仕活動や自然体験活動などは得るものが多く、これらの活動を通じてコミュニケーション能力も高めて欲しいと思います。これらの活動は、一部の人に偏る傾向があるので、多くの学生が広く参加するような推進をお願いしたい。

(名倉委員)

・長期休み期間での課外活動を積極的に推奨して欲しい。既に実施しているかも知れませんが、運動部以外、ロボコン他の活動も。

・ボランティア活動については、H24年3月13日～15日、現学生会長の呼びかけで集まった47名の学生が「東北ボランティア・ツアー」を行いました。教員(学生主事補)1名が引率し、宮城県七ヶ浜ボランティア・センターで受付をし、重機では撤去できない小さながれきを手作業で撤去しました。翌日には、東日本大震災で被災した一関高専の学生との交流会を行いました。これらの活動については、H24年5月発行の学生会「機関紙」特別号にて詳しく報告されています。

・ボランティア活動の重要性は認識しており、この活動を体験し、この活動を企画・推進した学生が、今年度の学生会長に就任したことから、今後とも、このような活動を活発に展開してくれることが期待されます。

・自己点検表の記述手法については、ご指摘のとおりであり、今後、組織的な取組が分かるような書きぶりについて検討していきます。

・現在も留年制度はあります。同一学年には最大で2年間残れます。各学年2年間残れますので、最長で卒業まで10年間の時間が与えられていることになります。

・低学年からその学年に応じた英語検定試験を実施し、学習の到達目標を示すと同時に、自分のレベルを知る指標を与えております。また、高学年には、選択授業ではありますが英語ネイティブスピーカーを講師に迎え、5日間集中の授業を開講しており、多数の学生が参加しております。加えて、在外勤務経験豊富なOBを講師とし、海外勤務で大切となる事柄を学びました。

・専攻科においても、英語の重要性は益々高まっており語学教育をより充実させたいと考えております。昨年度以降の取り組み事例を紹介させていただきますと、専攻科1年生1名が平成23年度に富山高専が主催する北アイルランドでの海外国際インターンシップに参加しています。この国際インターンシップには本年度も同じく専攻科1年生1名が参加する予定です。また、昨年度専攻科2年生1名が高専機構主催海外インターンシッププログラムに参加し、スイスにある森精機製作所の関連会社で、現専攻科1年生1名が平成24年3月にベトナムにあるヤマハで研修を受けています。また、昨年度9月に本科5年生と合同で外国人講師による授業「How to Become A Global Engineer」を5日間の日程で開講し、6名の専攻科生が受講しました。本年度は、技術英語I（選択科目、23名受講）の授業の後半部で外国人講師による授業を行っており、9月には外国人講師による授業「How to Become A Global Engineer」を5日間の日程で実施する予定です。

・また、学校としても、海外インターンシップや海外語学研修、国際学会での発表などを推進しています。

・平成23年度は、東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所での事故により、東電管内にある本校にも節電義務が発生しました。このような事情から、合宿期間を最長で1週間としました。ロボコン部も同様の扱いとしました。これは、合宿は期間が問題なのではなく、集中度が問題との指摘が多くあったこと。学生への肉体的、経済的負担も考慮し、平成24年度も同様な方針で進めていく予定です。基本的には、長期休業中の課外活動については、運動部もロボコン部等も合宿を行うなど、積極的に活動しているのが現状です。

(3)優れた教員の確保について

(柳澤委員長)

- ・優れた教員の確保について、努力が認められる。
- ・H23年度は機構本部の教員顕彰制度への推薦を見送ったようであるが、結果を恐れず推薦することが必要ではないか。(それにより全学的な頑張りと緊張感が生まれる)
- ・中期計画に教員の国際会議への参加を促進するとあるので、H23年度の実績の記述も欲しかった。

(若原委員)

- ・すぐれた教員の採用に偏るのではなく育てる視点で環境整備など広範囲な取り組みを進めている点がすばらしいと思います。

※⑥で、機構本部の教員懸賞制度への推薦を行わず、独自の表彰制度を創設に至った理由が示されていないので、S判定の根拠が疑われる可能性があります。

(三津濱委員)

- ・学問の教育者の確保・育成に努めている。
- ・現在の技術進歩はオープンソースに代表されるように、ネットワークを介した世界規模のコンソーシアム等に依存している。また、社会活動ではビジネス/プロジェクトマネージメントが重要となる。こういったことのエキスパートを教育の場に活かすことを期待する。

(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて

(柳澤委員長)

- ・教育の質向上や改善の取り組みは、なかなかその成果が現れ難いものですが、組織的な取り組みが継続していることを評価します。
- ・自己評価点でBをつける場合は、何が不十分であったかを明記することが望ましい。(今回の実施状況の記述からは、BでなくAでよいと思われる項目もある)

(若原委員)

- ・教育環境の改善・向上には大変な努力を費やされていると思います。多岐に渡る取り組みを検討していく中で、新たな問題点や当初計画より良い策が見つかることがあります。これらについて、次年度以降の検討項目とするなどの、改善の道筋が見えるシステムが有れば良いと思います。また、他の高専の取り組みを共有するシステムが有れば良いと思います。(東海地区高専と豊橋技術科学大学の包括協定を活用して、共有DBを構築するアイデアは如何でしょうか?)

※一部の項目で、年度計画に記載の達成状況が示されていないものがあります。A判定以上の取り組みでは根拠を問われる可能性があるのでご注意ください。

- ①「高専と地域が連携したエコタウンづくり」に関する取り組みの結果、⑤の「組織的に対応するための体制整備を図る」に関する組織整備状況、⑩この項目はS判定なので、「年度末までに・・・予定になっている」は、4月の時点では結果を記述していただくのが良いと思います。

(三津濱委員)

- ・最新のICT機器を自由に扱え、学生自らが志向にあったシステムを共同で作成・改善できる環境が理想。皆がICTのエキスパートになる必要はなく、様々な興味を持つ人と、それをシステム化する人がチームとして活動できる、といったもの。

(丸田委員)・計画的にさまざまな側面から多くの取り組みをされていると思います。この取り組みが学生の学習到達度の向上に役立つことを期待します。

(名倉委員)

- ・学生の資格取得について、出来るだけ進めて欲しい。

<担当部署>

○校長、副校長、各校長補佐

- ・規定された機構本部の顕彰制度の推薦基準を考慮し、対象者を選考しましたが、対象となる推薦者がおらず、H23年度は推薦を見送りました。来年度以降は積極的に推薦していきたいと思います。

また、機構本部の顕彰制度にただ推薦者を出すだけでなく、学校自らが表彰制度を創設することで、教職員等の意識の高揚を図ることは非常に重要なことであるとの趣旨から、本校においても独自の表彰制度を創設した次第です。H23年度の年度計画では、「機構本部で実施する顕彰制度に教員を積極的に推薦する。」のみの記載であったが、本校独自の表彰制度の創設は、当初の年度計画以上の取組を行ったものであるとの判断の下、自己評価をS評価としました。

- ・教員の国際会議等への実績については、特に記述がありませんでしたが、平成23年度実績で14件ありました。次年度以降は実績等も含めて記述いたします。

・社会活動におけるプロジェクトマネージメントの重要性については同感です。本校においては平成18～21年度に実施した経済産業省事業「高専等を活用した中小企業の人材育成事業」や平成21年度から実施しているJST事業・地域再生人材創出拠点の形成「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」を実施する課程において関係する教員にプロジェクトマネージメント能力が形成されつつあるのが現状です。今後、このような教員の数が増えていくように配慮していきたい。

<担当部局>

○校長、副校長、各校長補佐

- ・当該項目の課題として挙げられた「実践的技術者養成の観点から資格取得推進」に関する本校の取り組みとして捉えると不十分と判断し「B」評価を付けました。本校では技能資格の取得より、研究開発型の技術者育成を目指しており、この観点からは「技能に関する資格取得」教育とは異なる教育が行われております。

・「改善の道筋が見えるシステム」を構築しては、とのご指摘についてですが、例えば、現在進められております沼津高専版「学際教育の導入」から、学科間の連携が求められています。これを基に、複数学科が似た授業を開講している場合、これを統合して合同で開講することを検討するワーキンググループを立ち上げました。このような動きが、若原委員のご指摘につながる動きかと思われます。一連の沼津高専で行われている教育改革の流れを可視化してみます。

他高専の取り組みを共有するシステム構築のご提案、有難うございます。現在、全国高専が結集し、毎夏開催されております「全国高専教育フォーラム」では、機構本部が提供している競争的資金「高専改革推進経費」で行われた革新的教育改革の実践報告や現場の教員の創意工夫の実践結果が発表されます。このデータは、「全国高専教育フォーラム」のホームページ上に要旨が掲載され全国高専で共有できる仕組みとなっております。

ご提案頂いた豊橋技術科学大学と東海地区高専との共有DBの構築、是非とも貴学のリーダーシップをお願いしたいと存じます。

- ・年度計画の実施状況の記述に際して、不十分な箇所があり申し訳ありませんでした。①沼津市との連携によるエコタウンづくり事業については、残念ながら高専機構からの予算も付かず、現実的にストップした状態です。⑤については、機関別認証評価への対応は、組織的な体制整備を図り滞りなく終了し、評価結果も良い評価を得ることが出来ました。⑩については、・・・予定ではなく、「1クラスの授業が実施できる環境を整えた。」が実情で、年度計画を達成しております。

<p>(5) 学生支援・生活支援等について</p> <p>(柳澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活充実のための支援がしっかりと行われている。 ・学生キャリア支援室のオープンやキャリア教育の開始は評価できる。 <p>(三津濱委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション方法の偏り、コスト意識、メンタルへの配慮等、課題はあるが、常にパーソナルな ICT 機器を扱える環境が理想。 <p>(丸田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対する福利厚生充実では、今回は施設を実施し改善が図られました。福利厚生充実は、学生生活の満足度にも響く問題ですので、学生のニーズを把握することが必要と思われます。施設だけでなく、運用や制度面での取り組みも期待します。 ・図書館の利用者や貸出冊数が増加した要因は何ですか。 <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用実態については、更に突っ込んで費用対効果を分析して、学生、教師の利用を推進して欲しい。また、他の図書館の情報発信も出来ると良いと思います。 ・困っている学生の奨学金については、更に同窓会を利用して欲しい。 <p>(川口委員)</p> <p>寮全体にエアコンの設置がなされたと同いました。今後とも、学生が更なる学力の向上や快適に居住出来る寄宿舎となる事を切望致します。結果、「入学後の寮生活がこんなに素晴らしい」と口コミで広がれば、遠方からの学生も安心して受験出来るのではないのでしょうか。</p>	<p><担当部署></p> <p>○学生委員会(学生主事) ○寮務委員会(寮務主事) ○図書委員会(図書館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活支援室では毎年、支援室活動に関するアンケート調査を実施しております。また、低学年で行われたキャリア教育でも、毎授業後に感想文の提出を求め、学生のニーズ把握に努めております。 ・図書館の利用者増の要因については、ガイダンス(1年生対象)の実施、文庫の大幅増、授業及び課題における図書館の活用増(英語の多読、工学実験でのレポート等)及び試験前の土・日・祝日の開館時間延長等が考えられる他、再雇用・派遣職員を活用した土・日開館についても、利用者増の要因となっているものと考えています。また、県立図書館が中心となって運営しているインターネットサイトにも参加し、県内の市立、大学等の図書の検索が可能であり、他の図書館の情報発信も容易に出来る環境となっています。 ・学生寮においては、平成 23 年度は女子寮の全居室にエアコンが設置されました。平成 23 年度後期からの運用でしたが特に問題もなく女子学生からも好評でした。今後は男子寮の全居室にエアコンを設置する計画です。
<p>(6) 教育環境の整備・活用について</p> <p>(柳澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者等の入学可能性に配慮したユニバーサルデザインの導入検討は進んでいるか。(具体的な入学希望者が出てきた場合への対応策を整備しておくことでもよい) ・安全パトロールの内容は不明であるが、年 1 回でなくもっと多く実施すべきではないか。 <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定外の災害について、人の生活の安全性、学校の維持についての課題を検討しておいて欲しい。 	<p><担当部署></p> <p>○施設整備計画委員会(校長) ○安全衛生委員会(副校長) ○事務部(事務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障者等に対するバリアフリー対策については、年次計画で実施している。すでに講義棟、共通棟、第2体育館等の教育領域については、エレベータ、多目的トイレ、スロープ等の整備がほぼ終了しています。今後は、図書館や学生寮について予算を確保しつつ、順次整備を進めていく予定です。 ・なお、具体的に障害者等の入学希望者が出てきた場合は、入学が確認された時点で、機構本部に緊急の予算要求をすることで対応する予定です。 ・安全パトロールは毎月実施しています。その結果は、同じく毎月開催の安全衛生委員会の席上報告し、改善実施を確認しています。 ・昨年の東日本大震災当日、学校に160名余の学生が研修していました。遠方からの学生もおり、帰宅できない学生が発生しました。このような経験から、学校での備蓄品を増やすよう努力しております。 ・また、年1回、防災訓練を実施し、実施後反省点を集約して次年度の防災訓練に反映させる等、より実のある防災訓練の実施を心掛けています。今後は、東日本大震災の教訓から突然の地震発生に対する防災訓練を実施を検討したいと考えております。

研究に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の推進に関して積極的な取り組みがなされている。 ・教員の学会発表や国際会議出席などの数値データも記載しておくことが望ましい。(Web ページのデータベースでは古いデータが多い) ・科研費や共同研究に関する実績を研究のどこかの項目に記入しておくほうがよい。(後の予算のところに出てくるとはいうものの) <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得額がトップクラスとのことですので、この方向で取り組みを継続していただきたい。 ・新しい共同研究テーマを探査するためには、ニーズ調査が重要です。シーズ発信と合わせて地元の産業界と連携したニーズ調査を行って教員に提供する活動について、検討下さい。 <p>(三津濱委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専の各研究室の中期研究計画と、個々の生徒が体験する研究との折り合いをどうつけるか。 <p>各研究室、企業と連携したプロジェクトのロードマップを明示し、その何処を担っているかを生徒に強く意識させ、卒業後も研究進捗に興味を持って高専と関係を保ち続けるのが理想だが。</p> <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域産業界との共同研究、受託研究を推進して欲しい。 	<p><担当部署></p> <p>○地域連携・研究支援委員会(テクノセンター長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクノセンターは教員の研究に関して支援をしているがデータの取りまとめをはじめ公開は行っていません。まずは現状認識のため取りまとめる必要があると考えています。一方、共同研究等の実績は統計を取っており金額については公開しています。また科研費の実績はとりまとめていなかったため5月に取りまとめました。今後はこれらの情報をどこまで外部公開するか、情報を収集する仕組みについて検討する必要があると考えています。 ・ニーズ調査という点では商工会議所や信金等のイベントに参加した際に情報を得ているが、積極的なニーズ収集は行っていません。医療関係については F-met 事業の一環として医療機関からニーズを吸い上げています。今後はニーズ調査を行う仕組みの検討が必要であると考えています。 ・中期計画と研究室(各教員)と学生の連携あるいはロードマップ作成については現状全く対応できていません。また学生教育にも関係するため当該委員会だけでは対応できませんので今後は教務委員会等と相談しながら検討を行いたいと思っています。 ・地元中小企業等との共同研究、受託研究等の推進については、地域産業振興の観点からも重要な高専の責務と認識しており、今後とも積極的に推進してまいります。

3. 社会との連携や国際交流に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会との連携を意識した活動が活発に行われていることは評価できる。 ・学生に係わる国際交流だけでなく、地域の国際化や国際交流に資する活動も期待したい。 <p>(若原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生・専攻科生向けの寄宿舎新設を断念されたようですが、留学生受け入れを拡大した場合には、宿舎の確保は必須の項目となります。既存の寮を当てる等の方策についても、本科生の寮生受け入れ数との兼ね合いもあるので、学生支援の項目と合わせて総合的に検討していく必要があると思います。 <p>社会との連携については、研究面やボランティア活動なども含めて活発に活動されていると思います。</p> <p>(三津濱委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外を含めたインターンシップによる交流の場を高専機構と連携し進めている。インターネットを活用した各種コミュニティ(オープンソース等)への参加促進を期待。 <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域中小企業へのPRを更に進めて欲しい。 ・地域小中学校への教育支援は継続して下さい。 	<p><担当部署></p> <p>○地域連携・研究支援委員会(テクノセンター長)</p> <p>○各校長補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の国際化や国際交流に資する活動については、H23年7月、三島市からの依頼で、ニュージーランドのニュープリマス市から姉妹都市である三島市に派遣されていた高校教員1名を一日受け入れ、高専の教育システム等を紹介しました。またH23年10月、国立中央青少年交流の家からの依頼で、「タイ王国高校生招聘交流事業」の一環として、タイで日本語を学んでいる高校生16名と引率教員2名とを一日受け入れ、本校の紹介等をするともに、本校留学生を含む学生たちとの交流を行いました。 ・留学生・専攻科生用寄宿舎の増築については、高専教育の柱である教育寮として、指導体制及び設備面も含め総合的に検討をした上で、引き続き予算要求をする予定です。 ・JSTの「地域再生人材創出拠点の形成」事業で実施している「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は静岡県東部の中小企業の技術者を対象としたプログラムであり、このPRには300社以上に案内を送るなど沼津高専のPRにつながる活動を行っております。 ・地域中小企業へのPRのため、引き続き地域の商工会や銀行等が行うフォーラム等に参加してアピールしていくと同時に、毎年12月に本校で開催しているテクノフォーラム in 沼津高専のPRを早期から行い周知徹底に努めたいと考えています。併せて社会人向けの公開講座のテーマ数の増加に努めていきたいと考えています。

4. 管理運営に関する事項	学校側の対応等について
<p>(柳澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長リーダーシップ経費の採択にヒアリングを取り入れるなど、有効に機能しているものと評価できる。その採択結果は、少なくとも学内には公表されているか。 ・技術職員の待遇改善に配慮が行き届いているか。 ・一般論として会議時間の短縮は必要であるが、必要な議論が適正に行われたかどうかの観点からも分析点検を行って欲しい。 <p>(名倉委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念に合わせて、同窓生の学校訪問が多くなると思います。現状の学校が分かるようにして欲しい。 	<p><担当部署></p> <p>○校長、事務部長、技術室長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長リーダーシップ経費の採択結果については、総務委員会(校長、校長補佐、各部局長が構成員となる本校の最高意志決定機関)において報告し、公表しています。 ・技術職員の待遇改善については、平成18年4月に技術室が組織化された以降、技術職員、技術専門職員及び技術専門員の職階ができ、それに相当する待遇が措置されています。 ・会議時間の短縮だけに囚われると、中身のない報告会のような会議になってしまい、また、議論ばかりの会議では会議時間も際限なく掛かかり効率の悪い会議になってしまう等、その兼ね合いが難しいが、適切な会議運営を行っているか分析する必要はあると認識しております。 ・高専OBの皆様に、「現状の学校がわかるようにする」具体的なご提案があればご教示願いたいと思います。
<p>5. 総合所感 (本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください)</p>	<p>学校側の対応等について</p>
<p>(柳澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期中期計画期間における平成23年度の年度計画実施状況は、当初の年度計画に則って十分な成果をあげたものと評価できる。 ・全自己点検評価項目数62の中で、自己評価点がS(当初の年度計画以上の取り組みを実行した)となった項目は15と全体の1/4近くに達しており、関係者の努力が評価される。その一方で、自己評価点がB(年度計画達成には至らなかったが、具体的な取り組みを行った)となった項目は6あるが、見方によってはA(年度計画どおり実行した)相当の項目や、相手があって必ずしも自身の努力だけでは実現できない項目もあると思われる。 ・中期計画の実現のために、今後も組織的かつ継続的な取り組みを校長のリーダーシップのもとに進めていって欲しい。 ・静岡県内東部での存在感は大きいですが、県内中西部での知名度は必ずしも高くないと思われるので、卒業生の活躍などによって認知度が高まることを期待したい。 ・例年7月に開催している運営諮問会議の際に、一度、その前後に施設等見学を入れたら如何でしょうか。委員の皆様から意見をいただくことが改善に繋がるものと思います。 <p>(若原委員)</p> <p>少子化、脱ゆとり教育への対応、産業構造の海外シフト、高専を取り巻く環境が急激に変化している中で、多岐に渡る対応が求められていますが、着実に対応する取り組みを進められていると思います。</p> <p>一方、これらの変革に対応するため、教育システムの改革、競争的資金の獲得、社会貢献、入学生の確保等々、教員個人の果たす役割が非常に高くなっていることもあり、教員の疲弊が懸念されます。</p> <p>定年を迎えた高専OBによる支援をお願いするなどの取り組みは、技術の伝承の意味でも大変重要だと思います。自動化された技術であっても、本質は自動化される前の技術が基礎となっているので、新しい技術を生み出し得る人材の育成の観点からは、技術のコンポンを学生につかみ取ってもらうことが高専でしか出来ない教育だと思います。是非、高専OBアドバイザー</p>	<p><担当部署></p> <p>○校長、副校長、校長補佐 ○各委員会委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り、B評価の内、平成24年度に改善が図られているのは1項目(特色ある教育方法の取り組み…学校全体や公の場所で公開)であり、他の項目は概算要求や経済の動向に関係するものであり、本校単独で進められないものが多くあります。 ・高専教員の疲弊への改善策として、課外活動等における教員の業務負担軽減策については、高専機構からの指示に則り、H24年度中に改善する予定であります。 また、高専OB人材の活用は重要な課題と考えております。平成23年度からスタートさせて沼津高専版キャリア教育では5名の高専OBにご活躍頂き、現職教員のご支援を頂いております。同様にクラブ活動などにおいても、業務軽減策の一環として高専OBの人材活用が検討されております。 ・産学連携において卒業生(OB)を活用し、成果をあげている高専が複数(近くでは岐阜高専など)あります。テクノセンターでも同窓会の力をお借りて共同研究や技術相談等についてOBを活用しようとして人材バンクを立ち上げて頂いていますが、思うように進んでいないのが現状です。他高専の成功例を調査し、OB人材の活用の仕組み作りの検討が必要だと考えています。 ・運営諮問会議の際の校内施設等見学については、良いご提案をいただき有り難うございます。他の委員のご意見や時間調整も必要となり、開催通知に併せて、校内施設見学の意向調査も行い前向きに検討したいと思います。

の取り組みを加速させていただきたいと思います。

また、部活に於いても、高専OBの協力を頂くなどして、教員が重点的に対応する課題と、サポーターへの依頼も含めて肅々と業務を遂行する課題を明確に分けて、教員の疲弊を防ぎ、学生への教育に集中できる環境構築を推進していただきたい。

(三津濱委員)

1. 国立高等専門学校機構への期待

高専の設立目的は「工学・技術系の専門教育を施すことによって、実践的技術者を養成する」であり、当初は「“完成教育”向けの教育機関として就職を基本」とある。現在の高学歴化は（聞こえは良いが）教育長期化であり労働者の高齢化を招く。高専の意義と卒業生のキャリアパスの優位性をしっかり伝え（アピール）し、拡大を意図するべきと考える。

- 入学者（その親）に向け：広く科学知識を習得し、研究プロジェクトの実践で技術を磨き、企業活動に必須の資格を得る場（職を身につける）
- 国/自治体に向け：再度、技術立国を目指すべく、高専の上記位置付けを明確にし、卒業生の拡大策に共に取り組む
※高専は寮を持つものが多く効果的な共同体験を行っているが、地元にも多数あり通学が容易な高等学校に比べ敷居が高い。入学を容易とする支援策も必要ではないか
- 企業に向け：需要に即した技術者育成と、供給力拡大に向けた協力の要請
- 全てのステークスホルダーに：高専を海外の学校制度でベンチマークし、実践的な技術者育成機構としての必要事項を明確にし、再度強みをアピールすべき
就職難の時代でも高専への求人は活発だが、卒業生の数は大学に比べ圧倒的に少ない。高校+短期大学（or 専門学校）ではなく、早くから技術を磨く5年一環の高専を如何に拡大するかが課題。

2. 高等専門学校への期待

高専の卒業生が即戦力となるためには技術に加え、幾つかの企業/社会活動について経験を積めるよう指導してもらいたい。

- 企業活動は経営者・マネージャ（部長・課長等）と専門家・作業者の連携で成り立っている。「教える」と「マネジメント」では、異なるコンピテンシが必要だが、是非、教員に身につけてもらいたい。そして共同研究等のプロジェクトマネジメントを通し、生徒にマネージメントされることを体験させることが重要
- グローバルな技術の進化はデファクトスタンダード/オープンソースと言ったコミュニティ活動で牽引されている。外部とのオープンな環境の中での研究を望む
- ものづくりのためには知識だけでなく技能が必要で、それを明示するのが国家等の各種資格と捉えている。取得重視の指導をお願いする
- 高専も事業体であり、効率化のためには本業とアウトソーシングすべき業務の切り分けが必要と考える。また、そういった運営を生徒に見せることも社会を実体験させることに繋がる

(丸田委員)

盛り沢山の事項を意欲的に取り組んでおり、着実に改善が図られていると感じます。今後も着実に実践されることを期待します。

・常日頃は近隣企業として大変お世話になっています。今後とも学校運営にできる限り協力させていただきます。

(名倉委員)

・当然私学のようにはいきませんし、学生が全国に散らばるので、なかなか困難ですが、学校と同窓生の繋がりが少し薄いように感じます。同窓会としても今後の課題と考えています。

1. 高専に対する高い評価と拡大策を提示いただき感謝します。三津濱委員からの国立高専機構への期待については、書面にて高専機構に提示させていただきましたが、いまのところ回答を頂戴していません。

2. 幾つかの企業/社会活動についての経験については、インターンシップを高学年で選択科目、専攻科は必修科目として奨励している。インターンシップを経験した学生のほとんどが有益であった、専門科目の必要性が理解できたと回答している。今後は、インターンシップを経験する学生の増加に務めたい。

企業との共同研究・受託研究を卒業研究・専攻研究のテーマとして進めている教員はその課程において自ずとマネージメント力が備り、学生にも伝授されているので、共同研究・受託研究・技術相談などの産学連携活動を引き続き奨励していく。

実用英語技能検定、TOEIC、ドイツ語技能検定試験、工業英語能力県手、デジタル技術検定（情報部門、制御部門）、機械設計技術者試験、CAD利用技術者、機械製図検定、電気主任技術者、陸上無線技術士、基本情報技術者、応用情報技術者などの技能審査取得者には外部取得単位として認定して奨励している。

特に事務部門にアウトソーシング人材を採用して業務の効率化を図っている。

今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いします。

本校OBを産学連携コーディネータとして1名、キャリア教育コーディネータとして1名お願いし、それぞれが成果を挙げますので、創立50周年を機にさらなる連携強化の方向で検討させていただきたい。

(川口委員)

- ・各項目、現状でよろしいかと思われます。
 - ・私のような一般の父兄で専門的な事に知識の無いものから、意見を求められても申し訳ございませんが何とお応えして良いのか分かりかねます。
- ただ、学生にとってより良い学校で有り、将来、高専を選んで本当に良かったと思える事を父兄としては祈念致します。

以 上

ご要望の実現に向けて全教職員が一丸となって研鑽して参ります。

沼津工業高等専門学校
平成24年度 年度計画

沼津工業高等専門学校 平成 24 年度 年度計画

(前文)

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・中期計画を踏まえ策定した沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の計画（第2期中期計画）に基づき、平成24年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ① 近隣市町村の教育委員会などとの連携を深め、中学校理科教員への支援策等を含め、更なる中学校との連携強化を検討するとともに本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川・山梨県）の中学校への広報活動を引き続き積極的に行う。

本校創立50周年記念事業の開催に向けて近隣の産官との連携を一層緊密にするとともに、効果的な広報活動のあり方について引き続き検討を進める。

- ② 受験生確保の観点から、県内だけでなく高専のない近隣県（神奈川・山梨県）なども対象とした効果的な広報活動（「進学説明会」、「一日体験入学」、「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」など）を実施する。

女子学生の志願者確保の観点から、女子在校生及び卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びホームページ（女子の卒業生の情報を意識的に多く盛り込む）などの作成や高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。

- ③ 入試広報部門の学内体制を強化し、各種入試広報活動の内容を見直し、より効果的な入試広報の在り方（選択と集中）を検討する。中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専機構に広報資料を提供する。

高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。

- ④ 入試方法の改善結果（入試データ）を検証するだけでなく、入学後の学力などについて分析を行うとともに、最寄り地受験制度などの改善策についても引き続き検討を進める。

- ⑤ 入学者の学力水準を維持するとともに、入学志願者数の確保（広報活動の充実）・維持に努力する。

(2) 教育課程の編成等

- ① 高専の高度化に即応した学際教育導入の一環として、平成 24 年度入学生より年次進行で実施する 1 年次混合学級と工学基礎 I・II（共通実験）、2 年次ミニ研究、3 年次以降の学際教育を導入した新教育課程を実行に移すとともに、これに関するカリキュラム改正を行う。

専攻科においては、現行の専攻科複合実験に加え、平成 26 年度より 1 専攻 3 コースとし、複合領域の教育の充実を図ることを具体的に検討する。

科学技術戦略推進費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は第 4 期生を受け入れ、第 3 期生及び第 4 期生に対して計画通り育成事業を行う。そして最終年度（H25）について、第 5 期生の受け入れ方針を決定すると同時に、東海大学からの備品の移管も含めて終了年度に向けた検討を行う。本事業の一環として検討している専攻科におけるコース制については平成 23 年度に「専攻科コース制WG」が提示した案を基本とし、新たなWGにてその実施について具体的対応を進める。

- ② 平成 24 年度入学生より新教育課程を実行に移し、1 年生に混合学級と工学基礎 I・II（共通実験）を、2 年生にミニ研究を実行する。共通実験指導教員決定後、沼津高専独自の共通実験指導書を作成し、発行配布することを検討する。
- ③ 1、2 年生で TOEIC Bridge テスト、3、4 年生で TOEIC IP テストを全学生に受験させることを継続する。その結果を活用し、技術者として必要とされるコミュニケーション能力を伸長させる方策を検討する。3 年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続して参加し、その結果を活用して、該当科目の修得状況を把握し、教養科と専門学科とで連携して数学、物理の力を伸ばすための教育改善に役立てる。
- ④ 平成 24 年度に改善した授業評価アンケートを継続的に実施する。授業評価アンケートの結果を教育改善に反映させるため、教員個人調書により教員の授業改善実施状況を把握する仕組みを活用する。3 年生と 5 年生による学習到達度自己評価と 4、5 年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価を継続して実施し、H24 年度から始まる新教育課程による教育課程改善の効果の検証に役立てるためのデータを蓄積する。卒業生による学校評価の継続的な実施について、頻度や方法について検討し計画を策定する。

⑤ 平成 24 年度においても引き続き、高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。また、高専フォーラム・シンポジウムや各学会及び協会の発表会、近隣大学との合同研究発表会などにおける学生の研究発表を積極的に進めるための支援を行う。専攻科では、例年と同様、近隣大学間共同学生研究発表会や高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表会での研究発表を奨励する。専攻科では、例年と同様、近隣大学間共同学生研究発表会や高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表会の機会について、学生への情報提供に努め、研究発表を奨励する。

⑥ 学校内外での清掃、スキー研修などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等、ボランティア活動への参加を推進するとともに取り組みを支援する。

工場見学など生産現場を見学する機会に、会社が取り組む「清掃」や社会奉仕活動の実際を学ぶ場を増やすよう努力する。

(3) 優れた教員の確保

① 教員の採用は公募制を原則とする。昨年度と同様、本校外の勤務経験や1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。

② 高専・両技科大間教員交流制度により、教養科教員1名を米子高専へ派遣する。

③ 昨年度と同様、専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。

④ 引き続き、女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。また、寮においては、引き続き女性教員の要望に基づき、女子寮巡回日（曜日）を設定して実施する。

- ⑤ 教員相互の授業参観を引き続き実施するとともに教員FD研修会との連携も検討し、授業参観の改善を図る。また、機構が開催する「教員研修（クラス運営・生活指導研修会）」や一般科目研修等に積極的に参加者を派遣する。前年度に引き続き、教員FD研修会を最低年4回（5月、7月、10月、12月予定）実施し、教員個々の教育力向上に資するための取り組みを継続する。
- ⑥ 引き続き、優秀な教職員への意識の高揚の観点から、機構本部で実施する教職員顕彰制度に積極的に推薦していくとともに、前年度に新設した学内表彰制度の円滑な運営を図る。
- ⑦ 引き続き、教員の国内外の大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進するとともに、それらの円滑な遂行に向けての学内体制（非常勤講師等の予算措置等）の整備を図る。教養科教員1名（数学）を在外研究員制度によりオーストラリアへ1年間派遣する。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ① 引き続き、機構が主催する「全国高専教育フォーラム」や各種シンポジウム等に積極的に参加する。平成20年度から引き続き開催されている「高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」及び「PBL方式の学生による3次元デジタル設計造形コンテスト」に参加し、設計教育に対する学生のモチベーションの向上に努める。
- ② 資格取得に関しては、特に英語によるコミュニケーション能力の向上を推進する目的で、TOEIC及び工業英語能力検定の受験を推進する。専攻科においては、平成23年度に専攻科企画・運営委員会でまとめた専攻科演習Ⅳにおいて4つの実践指針の達成を図るという基本方針に基づき、演習Ⅳの具体的な内容や実施方法、担当教員の配置等について検討する。また、5つの学習・教育目標と実践指針の達成状況を確認する方法の明瞭化を進める。
- ③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学、静岡大学及び豊橋技術科学大学との具体的交流の実現を推進する。学生会、寮生会を通じた行事等においては、他高専学生等との交流活動を積極的に推進するとともに、学寮において今年度も他高専との交換寮生を積極的に推進する。
- ④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査収集し、本校のWeb上に公開する。全教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用するとともに、工夫実践を促す。

全国高専で実践している新しい教育方法の試み、効果的な取り組み事例を継続して調査し、効果的な事例を全教員に情報提供し教育改善に役立てる。

- ⑤ 高専機構の第2期中期計画に示されている「文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果及び改善の取組例について総合データベースで共有する。」に対応すべく、平成23年度に受審した大学評価・学位授与機構による機関別認証評価結果を高専機構の総合データベースに掲載するとともに、本校HPにも掲載し、広く一般に公表する。
- ⑥ キャリア教育、インターンシップ等を支援する組織として開設した「学生キャリア支援室」を中心として、キャリア教育の強化及びインターンシップの活性化、地域企業との「共同教育」の推進を図る。
- ⑦ 本校OBのキャリア教育コーディネーターを中心にして、本校のキャリア教育プログラムを本格的に実施する。
- ⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学及び静岡大学をはじめ、豊橋技術科学大学等との連携を生かした具体的取組を実践し推進する。
- ⑨ 高専IT教育コンソーシアムのメディア教材の活用も視野に入れ、学内eラーニングで利用可能なコンテンツの収集を継続し充実を図る。
- ⑩ 総合情報センター、電子制御工学科、制御情報工学科の情報処理演習室の教育用計算機システムにおいて、ソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を提供する。
- ⑪ 一般科目と専門科目の教授内容等に関する情報交換の機会を継続的に持つ。学科の枠を越えた教員相互の授業参観を実施する。新1年生の混合学級による教育及び2年生のミニ研究を通して、学科の枠を越えた取り組みを推進し教育の質の向上を図る。全学科教員が参加する教員FD研修会を継続的に開催し教員の教育力向上と教育の質の向上を図る。

(5) 学生支援・生活支援

- ① メンタルヘルスに関する学生支援、キャンパスハラスメント、AEDを含む救命救急に関する講習会等を継続して実施する。学生支援、就職・キャリア支援等の研修会やメンタルヘルス研究協議会に教員を派遣して学生支援体制の充実に努めるとともに、全ての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員FD研修会にて実施する。また、「友人づくり支援」を念頭に3年生の宿泊研修を活用する。

学生生活支援室においては、学生生活支援ゾーン（相談室・学生生活支援室）に学生生活支援室員又は外部カウンセラーが待機し、学生の多様な悩みに対応する。学生の個々の悩みの吸い上げの手段として、学生アンケートを実施。全学生にメンタルヘルスチェックの実施。各種メンタルヘルス関連の研修会、協議会に出席。教職員に対しての更なるメンタルヘルスに関するFDを行う。

学寮において、引き続き寮生リーダー研修中において救命救急講習を実施する。

- ② ハイブリッド図書館構想も順調に定着しており、今後共利用実態を把握し学習スペース、開館時間等の更なる充実を図っていく。また学際教育、ミニ研究等の新カリキュラムに対応できるよう努力する。
- ③ 各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報の更新を行う。50周年記念事業の一環として奨学金制度創設の可能性について調査する。
- ④ 新設された「キャリア支援室」および「キャリア教育コーディネーター」を中心として、学生の適性や希望に応じた進路選択を支援する沼津高専版キャリア教育を実施する。さらに、専門家によるキャリアカウンセリングも開始する。加えて、企業情報、インターンシップ情報、就職・進学情報などの提供体制の構築を検討する。
- ⑤ グランドの安全な運用に向け、安全なラインマーカーの敷設を検討する。女子学生に対する福利厚生の実施のため、更衣室の設置を検討する。

(6) 教育環境の整備・活用

- ① 教室・ゼミ室・実験室等の老朽化・稼働率等の状況を確認するため、施設の点検・評価を実施する。さらに、本校の施設課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施していく。

また、本校の「ものづくり」教育の拠点である機械実習工場再編に向けて、採択された第1機械実習工場の改修を実施する。今後、第2機械実習工場を改修し、「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の自立化に向けて教育環境の整備・改善・充実を図る。

- ② 施設の老朽度・狭隘化、耐震性、稼働率、ユニバーサルデザイン等の導入状況の実態を調査・分析した上で本校のマスタープランを再構築する。今後、そのプランに基づき、施設整備を推進・実現できるような全体計画を策定する。

また、校舎等の省エネ・CO₂削減などエコ対策事業についても、本校の「エネルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」に基づき、実施していく。平成24年度は、引き続き学生寮の日照調整フィルムの貼付、自転車置き場の蛍光灯の省エネ型への更新等を実施する。

学際教育・混合学級導入に伴う教育環境の整備を行うとともに、安全安心な学内環境確立のために必要な改善整備を行う。

- ③ 安全衛生管理のための年二回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。

平成22年度に作成した安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を順次積極的に派遣する。

2 研究に関する事項

- ① 高専機構及び技術科学大学が公募するプログラム並びに文部科学省等が公募する競争的資金の獲得に向けて積極的に応募するため、引き続きメール配信やWeb掲載により教員へ周知すると共に、特に若手研究者の外部資金獲得に向けた説明会を開催する。また、学校間の共同研究に関する情報を得るため、広域の産学連携関連イベント（科学・技術フェスタ in 京都、全国高専テクノフォーラムなど）に積極的に参加する。さらに、地域産業界に研究成果を公開する「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」を昨年度に引き続き主催する。

- ② 昨年度に引き続き、寄付研究部門「水素利活用技術研究部門」における取り組みを積極的に推進する。また、県・市町村や商工会議所のイベントにも積極的に参加し交流を図り、本校教員の研究活動や設備等を積極的に紹介し、技術相談を行い共同研究・受託研究の受入につなげるとともに、テクノセンターニュースの発行、教員の研究シーズ集の内容更新を行い、積極的に情報を発信する。

- ③ 昨年度に引き続き、「スーパー地域産学連携本部」が主催する催しに参加するとともに、KNTnet（技術マッチングシステム）も活用し教員の研究成果の社会還元を推進する。また、引き続き静岡TTOへの協力も含め、研究成果の幅広い社会還元を検討する。

3 社会との連携、国際交流等に関する事項

- ① 静岡県東部地域再生計画に基づき、引き続き「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業を主催し、医用機器開発技術者の養成を行うことにより地域貢献を推進する。
- ② 例年発行するテクノセンターニュースを継続発行し、また本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行う。また、テクノセンターWebサイト及び教員が登録しているKNTnet（技術マッチングシステム）と併せて研究シーズを積極的に発信する。また、引き続き「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」や「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催し及び積極的に参加し、共同研究等の成果を発信する。
- ③ 近隣市町の教育委員会に働きかけ、中学校教員との情報交換の機会を持ち、中学校理科教員の支援などについて具体的方法を検討する。昨年度立ち上げた「中学生を対象としたミニ体験授業」を継続して実施する。
- ④ 平成23年度に引き続き、社会人対象の公開講座を専門5学科が少なくとも各1講座実施できるよう調整し、そのためのニーズや内容について調査・検討を行う。またアンケート等により、より高い満足度を得られるよう、講座内容の検討も始める。
- ⑤ 本校創立50周年記念事業の実施に向け、同窓会との連携を深めるとともに、有能なOBの人材活用策を積極的に促進し、更なる同窓会との連携強化を図る。
- ⑥ 高専機構が推進するシンガポールのポリテクやタイのキングモンクット工科大学ラカバン校との国際交流事業等に積極的に参加する。学生の語学研修や異文化体験事業を推進する観点から、アメリカ（シアトル）にて語学研修を実施する。
- ⑦ 機構主催の「海外インターンシップ・プログラム」等の国際交流プログラムに学生を積極的に応募させる。
- ⑧ 国際交流委員会を中心とした留学生の受入体制の強化（日本語の特別補講の実施、チューターの配置、留学生指導教員の配置など）を図るとともに、留学生向けの施設の充実を検討する。高専機構が主催する第3学年編入学試験（外国人学生対象）に参加し、私費留学生を受け入れる。

- ⑨ 在籍する留学生を対象とした見学旅行を前年度に引き続き実施する。また、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加する。

4. 管理運営に関する事項

- ① 引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングを行うと共に、学内設備整備マスタープランによる設備の計画的な導入・更新とあわせ、本校の戦略的かつ計画的な資源配分を行う。
- ①-2 昨年度設置した「リスク管理室」を中心とし、あらゆる危機管理に組織的に対応すべく、リスク管理体制の強化を図る。
- ② 中期計画の達成に向けた年度計画の策定及び改善等において、運営諮問会議委員の意見を反映すべく、構築された「業務改善システム」の適切な運用に努める。
- ③ 引き続き、高専機構において示された「事務マニュアル」に基づき運營業務を実践し、業務の効率化を図る。
- ④ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。
技術職員についても、引き続き東海・北陸地区高等専門学校技術職員研修会及び西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修等に参加するとともに、技術職員の能力向上および地域貢献のため、自身の専門と異なった分野の研修会にも積極的に参加する。また、昨年度同様に中学生のための体験授業や科学実験講座の支援をするだけでなく、技術職員が中心となる出前授業も検討する。
- ⑤ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの人事交流を積極的に推進する。技術職員の人事交流についてはこれまで同様、技術長会議等で積極的に検討する。
- ⑥ 平成 25 年度の LAN システム設計を行う際に、情報システムの運用管理の効率化を考慮する。業務情報ポータルサイトについては、継続してコンテンツの充実、構成の整備を行う。専攻科では、キャリア教育や進路指導（就職・大学院進学）に関する情報のより迅速な提供と学生の利便性確保の観点から Moodle を積極的に活用することを検討する。また、情報セキュリティに関する対応についての体制整備を図る。

- ⑦ 昨年度に引き続き、各種委員会及び諸規則の見直しを行うとともに、各会議時間の短縮等効率的な会議の運営を実践する。

5. その他

創立50周年記念事業を実施する。

本年度発足予定の「静岡県東部地域技術振興協議会（仮称）」の運営に関して、本校は全面的に協力し、静岡県東部地域の産学官連携の強化を図る。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

- ① 一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。
- ② 引き続き、校長リーダーシップ経費及び設備整備マスタープラン等の戦略的かつ計画的な配分を行う。
- ③ 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。
- ④ 引き続き、高専機構で実施する高専相互会計監査を受審する。

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。本年度は特に、若手研究者の科研費獲得支援に重点を置く。

IV 短期借入金の限度額

（該当無し）

V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

本校所有の土地については、引き続き譲渡に向け機構本部と協議していく。

香貫宿舍団地（静岡県沼津市南本郷14-27）・・・288.19㎡

VI 剰余金の使途

（該当無し）

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

- ① 教育研究の推進に必要な施設整備の一環として、実習工場を「ものづくりセ

- ンター」として整備する。建物等の老朽化・稼働率等の状況を確認し、本校の施設的課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施に向け調整していく。
- ② 学際教育・混合学級の導入に伴う教室環境の整備を行う。

2 人事に関する事項

(1) 方針

教職員の人事交流を積極的に進め多様な人材の育成を図ると共に、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。

教員の技術科学大学及び高専間交流並びに事務職員の県内機関との交流を引き続き推進するとともに、他県の機関との交流を検討する。

(2) 人員に関する事項

学際教育導入、専攻科の改編予定に伴い、教員の人員配置について検討を行う。

常勤職員について、引き続き、業務改善目標等評価基準を活用し、その職務能力を向上させるとともに、アウトソーシング等も含めた事務の合理化を進め、再雇用制度を活用した有効な人員配置計画を検討する。

3 積立金の使途

(該当無し)

以上

平成24年度 年度計画意見対応表

平成24年度 年度計画意見対応表

平成24年度 年度計画 項目	学校側の意見・対応等
○入学者の確保	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●多様な観点から入学者の確保に努める計画であり、成果を期待しています。特に、女子学生の入学者数がここ1、2年増加傾向にあり、成果が出ていると感じます。</p>	<p><教務主事></p> <p>●平成24年度入試では、ものづくりが好きで継続的に努力できる生徒の入学を促すことを目的に推薦基準の改定と学力試験の試験科目等の変更を行いました。その結果を評価するには、時間を要するものと思われませんが、前期中間試験結果からは、不合格点数となった学生数は本年度2名(内1名は昨年度の留年生)で、昨年度の6名から減少しました。1年生全体の平均点数も4点上がりました。これらの結果からは、昨年行った入試改革が功を奏したものと思われま</p> <p>す。</p> <p>このような背景から、次年度も今年度と同様の入試を行って行く予定です。</p> <p>女子入学者数の増加に向けては、中学校訪問の折、女子中学生向けのパンフレットを使い、高専の魅力を伝えていきます。本年度も女子入学生が増えました。</p>
<p>【丸田委員】</p> <p>●入学者の確保に向けて、中学生やその保護者に教育内容のほか、進路の多様性や寮制度など、高専の特長、よい面を十分に理解、浸透させる活動を期待します。</p> <p>●「各種入試広報活動の内容の見直し」とありますが、多くの労力をかけて活動されていると思いますので、今まで以上に一つ一つの活動について振り返り評価して、新しい形を模索してください。</p>	<p><教務主事></p> <p>●中学校訪問、合同学校説明会など様々な機会に本校の広報活動をおこなっておりますが、そのほとんどが沼津高専の特長(学寮の現状、就職・進学が多様性など、沼津高専ならではの優位性)の説明に充てられています。</p> <p>●ご指摘頂いた通り、アドミッション委員会を中心に入試広報活動の充実をめざし、更なる見直しと改善に取り組んでまいります。</p>
<p>【工藤委員】</p> <p>●①について、ものづくりを題材として高専の生徒が、中学校に来て、高専で学べる内容について一緒に活動しながら教えて頂く機会があると希望する生徒も多くなっていくものと思われる。また、進路指導の中で、卒業した先輩の話聞いて、自分の進路を考える時間があるので、そのような時間を利用し、後輩たちのために卒業中学に向くなどの活動もよいと思う。</p> <p>②について、進学説明会、一日体験入学だけでなく、中学校に向いての授業、体験事業等も実施を検討する必要がある。</p> <p>③について、進学校から理系大学進学するコースと、高専の違いを明確に保護者に提示する必要がある。</p>	<p><教務主事></p> <p>●今年度も、中学校に出向き、モノづくりを中心とした体験型授業のメニューを24テーマ設け、中学校訪問やホームページ、ポスターで申し込みを呼びかけておりますが、この活動への学生の参加は考えておりません。これは、中学校の授業時間には本校学生も授業がある場合がほとんどであるためです。</p> <p>委員ご指摘のように、本校学生が中学校生徒を支援できれば、効果は大きいものと考えられます。週末での開催の可能性について探ってみます。</p> <p>また、卒業中学へ本校在校生が訪問し、現状を報告する機会については、以前行っていたことでもあり、前向きに検討させていただきます。</p> <p>③については、高校理数科からの大学進学と本校からの大学編入学の違いは、本校からの編入学が大学院への進学を前提としている点が大きく異なる点ですが、十分説明されてこなかった可能性があります。ご指摘を参考にさせていただきます。</p>
<p>【栗田委員】</p> <p>●中学校では、進路学習の一環として「高校説明会」を、どの中学校でも実施しているので、卒業生を派遣したり、担当者が中学校に出向いて、生徒に直に話を聞かせることも、効果があると思われま</p> <p>す。</p> <p>1) 中学2年時:先輩に学ぶ…卒業生を招いて、高校生活について話を聞く。</p> <p>2) 中学3年時:進学説明会…公立・私立高校の担当者が要請に応じて中学校を訪問し、生徒に話をします。</p> <p>●1日体験入学時に、ミニ授業を実施することも良いと思います。(高専を希望する生徒は、興味が増大すると思われま</p> <p>す。)</p>	<p><教務主事></p> <p>●中学校が開催する「高校説明会」へは、本校も積極的に参加させて頂いております。主に教務主事が中学校に出向き直接、中学生や保護者にPRさせて頂いております。昨年度は地区での開催も含め10校に出向きました。本年度も同様に行っており、これまでに3校で説明させて頂きました。</p> <p>ただ、本校学生が母校に出向き、自分自身の様子や本校の説明を行う取り組みは行っておりません。検討させていただきます。</p> <p>●1日体験入学では「ミニ授業」を行っております。この「ミニ授業」では授業だけでなく、「ミニ授業」版の学生実験も行われています。ご指摘の通り、志願者増につながっている取組と考えております。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●近隣の沼津高専の評価(どんな学校で、入学時の成績、卒業後の姿)は定まっているのではないのでしょうか? 将来の少子化に向けて、沼津高専としての特色を何処に付けていくかを検討して欲しい。沼津高専は何に強い?</p>	<p><教務主事></p> <p>●沼津高専の特色、強みは、「現場に強い技術者」と考えております。低学年から専門を学ぶ楔形教育のみならず、低学年から豊富な実験、実習時間が設けられている事。卒業研究を通じた課題解決型の教育も「現場に強い沼津高専生」を育てる教育が行われているものと考えております。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●①～⑤の取組について、より効果的な広報活動を進めたいと共同に小中学生の生徒さんや保護者様、学校関係者の皆様に高専の素晴らしさをより深く知って頂くための活動を根気よく続けて頂き、幼い頃から高専を身近な存在に思ってもらえるような努力を期待しております。</p> <p>そして、進路を選ぶ際には、沼津高専が受験生、保護者様の選択肢の一つに選んで頂けるような魅力溢れる学校を目指して頂きたいと思</p> <p>います。</p>	<p><教務主事></p> <p>●ご指摘、有難うございます。中学生が主な対象ですが、28テーマで「出前授業」を行っており、この活動も中学生に沼津高専ファンをつくる活動と考えております。その他、夏休み静岡で行われる「科学の祭典」に参加したり、秋に行う「高専祭」も広く一般の方々にも高専生の今を知って頂く広報活動の要素も加わっていると考え、教員も積極的に支援しております。</p>

平成24年度 年度計画意見対応表

○教育課程の編成等	
<p>【柳澤委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●TOEICテストを全学生に受験させることを継続させるにあたり、学校としての到達目標を学生に周知することが効果的だと思います。（既にそのようにされているかもしれませんが） 	<p><教務主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在は学生に到達目標を示しておりません。専攻科入学者基準ではTOEICテスト 350点程度としております。ご指摘の通り、到達目標を示すことは有益と考えます。検討を進めます。
<p>【丸田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●③については、英語、数学、物理のテスト受験による継続的な分析は有効だと思います。結果をいかに教育改善に結びつけるのが難しい課題だと思いますが、期待しています。 ●⑤⑥については、各種大会や研究発表会、ボランティアの参加など、学生時代にさまざまな経験をされると、自ら考え進んで行動できる資質が備わるのではないかと思います。実際に社会に出るとそうした経験が役に立つことを教えていただき、引き続き積極的な支援を期待します。 	<p><教務主事・学生主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●1月に実施した数学、物理の到達度試験結果にもとづき、3月、教科を担当している教養科教員と専門学科の教員との意見交換会を設け、得られた結果を教育の成果につなげる取り組みがはじまりました。 ●平成24年度東海地区高専体育大会での主な成績(口頭) <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動としては6月に学生会役員9名が「2012フェスタ・コスタ・デル・ゴミン干本浜」に参加しました。(引率:学生主事) なお、学生会は夏休みにもボランティア活動を計画中であります。
<p>【工藤委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出口としての目標である編入学の実績、就職率また資格の取得のための学習などが、生徒にとって大きいので、そこから教育課程を組んでいくことも必要なのではないかと思う。 	<p><教務主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●本校は高等教育機関であり、独創的で創造的な技術者養成を目指しています。この点は専門学校とは異なる点です。この目標達成のためには、課題解決型の実験や企業との共同研究が有効と考えております。資格取得を否定するものではありませんが、学生に積極的に挑戦して欲しい取り組みは、各学年における学生実験や卒業研究と考えております。
<p>【栗田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●取得可能な「資格」について、明らかにすることも、学生の意識を高める事につながるのではないのでしょうか。 ●社会との接触場面(社会体験)を織り込むことは、卒業後に生きてくると思われますし、小学校から積み重ねていかななくてはならないことではないかと思っています。 	<p><教務主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●本校は高等教育機関であり、独創的で創造的な技術者養成を目指しています。この点は専門学校とは異なる点です。この目標達成のためには、課題解決型の実験や企業との共同研究が有効と考えております。資格取得を否定するものではありませんが、学生に積極的に挑戦して欲しい取り組みは、各学年における学生実験や卒業研究と考えております。 ●インターンシップ、工場見学が学生にとっての社会体験の機会となっています。本校ではこれに加え、学生が参画する会社との共同研究があります。ただ、ご指摘は、学生に「早い段階から就労意識を持たせることの重要性」ではないかと存じます。この課題への対応は、今年から本格実施を開始した低学年からのキャリア教育で対応しております。
<p>【名倉委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●短期間での知識の吸収は非常に難しいと思いますが、基礎的な内容は勿論必要で、今後日本の工業を考えると、海外へ出て活躍がどうしても必要に感じます。英語、特に英会話が卒業時には話せるようにさせていただきたいと思います。また、近隣の諸国(韓国、中国をはじめ、東南アジア)の生活習慣や伝統についての知識が必要に感じます。 	<p><教務主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘の点、重要と考えております。授業でも、教養科による英語教育においても、生きた英語となるような教育が行われております。専門においても、夏休みに集中授業で、ネイティブによる専門の授業が行われております。加えて、アジアの国々も含め、様々な留学の機会を提供しております。
<p>【西岡委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●①～⑥の取組について、良いと思われる事は直ぐに対応し、改善していく、また、継続すべき取組はずっと継続していくという対応が素晴らしい成果を上げていると思います。⑤の学生達に様々な経験や発表する機会を与えることは学生達の将来の励みにもなると思います。⑥の体験活動やボランティア活動は、学生達の人間形成の上でとても重要な役割を果たすと思います。全人教育という意味でも、勉学だけに偏ることなく、社会人として素晴らしい人間に育てて頂けたらと思います。 	<p><教務主事・学生主事></p> <ul style="list-style-type: none"> ●本年度、1年次混合学級と工学基礎(共通実験)、2年次のミニ研究が開始されました。現在のところ、順調に実施されております。学生達の授業への取り組みも積極的であり、学習意欲も旺盛です。このことを反映してか、1年生の前期中間試験の平均点数は、昨年より4点近く上がっています。 ●平成24年度東海地区高専体育大会での主な成績(口頭) <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動としては6月に学生会役員9名が「2012フェスタ・コスタ・デル・ゴミン干本浜」に参加しました。(引率:学生主事) なお、学生会は夏休みにもボランティア活動を計画中であります。

平成24年度 年度計画意見対応表

○優れた教員の確保	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●教員公募情報がホームページに掲載されており、また女性の応募を期待する旨が盛り込まれているのは好ましい。しかし、それだけではなかなか女性教員は増えないので、採用（採用者及び採用学科）に対する積極的なインセンティブの付与や職場環境の整備を検討する必要はないでしょうか。</p>	<p><教務主事></p> <p>●教員採用試験において、業績及び人物が同評価である場合は、女性を優先することとしております。このことは、公募条件に明記しております。また、ご指摘の女性教職員のための職場環境の改善に向けては、校長と女性教職員との懇談会を設けるなど整備に向けた取り組みが始まりました。</p>
<p>【工藤委員】</p> <p>●企業などで実践の経験を積んだ技術者や研究者も必要と思う。</p>	<p><教務主事></p> <p>●ご指摘の通りと存じます。実際に、教授、准教授などを公募する場合は、評価の際、企業での実践経験を重視しております。</p>
<p>【栗田委員】</p> <p>●授業力は教員の資質として、欠かせないものと思われませんが、学生の身になって指導のできる要素も、優れた教員の資質と思います。</p>	<p><教務主事></p> <p>●学位の取得、研究業績など客観的な評価基準のみならず、模擬授業や面接での応答にも重点をおいた採用を行っております。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●現在の学校内を知らなくこんな事を書きますが、在学当時の事を思い出してみると、個性的な、また、人情味溢れる先生方に囲まれていたように感じます。研究成果や学力、経歴だけでなく、やる気を発揮する先生方の確保を期待します。</p>	<p><教務主事></p> <p>●ご指摘の点、教員の資質として重要と考えます。採用試験では、学科教員による面接評価に加え、校長、3主事による2次面接を行っており、この際には、研究成果や経歴に捕らわれず、総合的視点(人物としての魅力も含)からの採用に努めています。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●女性の立場からすると④の取組が一番気になります。やはり、優秀な女子学生に入学してもらうためには、優秀な女性教員を充実させることは重要だと思います。思春期の難しい学生さんをお預かりするためには、やはり、女性しか相談出来ない問題もあります。そこで優秀な女性教員を確保するためには、女性教員が働きやすい職場を目指して頂きたいと思えます。その他の取組につきましても、学生の一番身近な存在で、学生の目標でもある教員の方々でするので経験豊富な熱血漢のある優秀な教員の確保にご尽力頂ければと思います。</p>	<p><教務主事></p> <p>●女性教員の働きやすい職場とするための取り組みとして、校長と女性教職員との懇談会を設けるなど整備に向けた取り組みが始まりました。経験豊富な熱血漢のある優秀な教員の確保についても、学科での選考に加え、校長、3主事による最終面接試験でも、ご指摘の点を重視した選考が行われております。その成果が表れております。</p>
○教育の質の向上及び改善のためのシステム	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●学校教育の質の向上にはFD活動のみならずSD活動も重要であるので、そのような機会を設けることが望ましい。(協定締結大学からの支援も期待できるのではないかと)</p>	<p><教務主事・事務部長></p> <p>●高専におけるSD活動については、高専機構本部主催の研修会、東海北陸地区ブロック担当機関(大学等も含めた)主催の研修会等があり、内容も職階毎のスキルアップ研修会や管理職に対するマネジメント能力研修会等多岐に渡るものに職員を派遣しています。また、連携協定を結んでいる静岡大学関連では、昨年の12月に静岡大学保健センター古橋准教授を招き、「教職員のメンタルヘルス」と題して安全衛生セミナーを実施しています。</p>
<p>【工藤委員】</p> <p>●高専の特色である、寮生活、自主性などを生かした教育を推進していくことが大切だと思う。学生に対して、学校も家庭もきわめて過保護になっている今日、高専らしさを貫いてほしいと考える。</p> <p>②の「TOEIC及び工業英語能力検定の受験を推進する」、③の「東京工業大学、静岡大学・・・との具体的交流の実現を推進する」など、もう少し具体的に目標を提示するとよいのでは。</p>	<p><教務主事></p> <p>●委員ご指摘の通り困難な状況となっておりますが、わが校は全寮制の堅持、課外活動の全員参加などを通し、今後とも全人教育を推進してまいります。静岡大学、東京工業大学との連携については、今年度学生のインターンシップ受入等、学生の交流をメインとした取組が進められています。</p>
<p>【栗田委員】</p> <p>●他の高専、他工業系大学との交流を積極的に図っていくことは、大切なことだと思います。</p>	<p><校長></p> <p>●同感であり、特に連携協定を締結している東京工業大学、静岡大学、豊橋技術科学大学との交流については組織的に取り組むことを進めていきたいと考えております。他高専との交流については、学生間、教員間及び学校間の交流を継続していきたいと思えます。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●書かれている内容については何れも賛成です。社会に出て、一番大事だと思うことは、継続して課題に向かう気力、想像力、それと健康だと感じています。それらに対する活動と評価を検討して欲しい。</p>	<p><教務主事></p> <p>●実験、実習、卒業研究は、単にペーパーテストによる評価ではなく、委員ご指摘の課題に向かう気力、想像力を総合して評価しております。これは、学生が提出するレポート内容にも現れてきますし、教員は、日々の学生の取り組みから、委員ご指摘の点を評価しております。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●私は素人ですので専門的な事は分かりませんが、やはりこれからは子供達のグローバルな活躍が期待される中、英語力の向上は早急に取り組んでいかなければならない課題だと思います。子供達が日常的に英語と触れ合い英語力を自然と身に付けられる様な教材等がありましたら積極的に取り入れて頂き、国際社会でも臆することなく活躍できる人材を育てて頂けたらと思います。その他の取組につきましても、引き続き子供達の教育の質の向上を図って頂きたいと思えます。</p>	<p><教務主事></p> <p>●教養科(英語科)では、学生たちの自発的な学習を支援しており、複数のWeb教材を提供しています。この教材では、学生は自分が好きな時間にアクセスでき、また自分の学力に従って、好きなところから始められるので、無理なく学習できます。また何回でも繰り返し勉強ができます。</p> <p>語彙力を強化するためには、理工系学生向けに編纂された単語テキストも活用し、定期的に確認テストを実施しています。また、学生が多くの英語に触れ、自然に英語を身につけていくことができるよう、多読教材も整備中です。多読は、自分のレベルに合った英文を、大量に読むという活動です。無理に難しい文を読むということはないので、楽しく学ぶことができ、多くの英文に接することで英語の感覚が身につきます。また、英語を使えるようになるという点では、英語のスピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストが非常に効果的で、学生たちに積極的に出場を勧めています。昨年度の全国高専プレゼンテーションコンテストにも出場し、全国2位を受賞しました。</p>

平成24年度 年度計画意見対応表

○学生支援・生活支援等	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●女子学生のための更衣室の設置をぜひ進めていただきたい。また、トイレ施設について時代に合っているか点検していただきたい。</p>	<p><学生主事・事務部長></p> <p>●以前設置されていた女子更衣室については、使用頻度が低いという理由もあって実験室や資料室に転用された経緯があります。実際、H23年度に女子学生に取ったアンケートでも、校内に1、2カ所更衣室があっても各自のホームルームに近い女子トイレで着替えをするという声が圧倒的に多かったと聞いています。しかしながら、年度計画にもありますように女子学生の志願者確保の観点からの裏付けとして、女子学生に対する福利厚生施設の充実も重要であることから、改めて女子更衣室の設置の検討を年度計画に入れたものです。以前の更衣室の状況(立地場所、更衣室内の設備等)を考慮しつつ、女子更衣室の新設ではなく、女子トイレの中に着替えをしやすいように棚などを設置する方法や講義棟の学生リフレッシュコーナーなどを転用する方法等、利便性を考慮し、女子学生の要望等も踏まえて検討していく予定であります。また、トイレについては、大勢の学生及び教職員の使用が見込まれる共通棟及び一般講義棟については、ウォッシュレット等最新の設備を導入していますが、それ以外のトイレについては、和式、洋式が混在しており、今後アンケート調査を実施して、その在り方について検討していきたいと考えております。</p>
<p>【丸田委員】</p> <p>●貴校の伝統ある寮生活は、価値がある生活支援であり、是非今後とも継続し、学生の自立心向上に努めてほしい。</p> <p>●メンタルヘルスについては、近年社会問題となっており、全国の教育機関で精神的に問題を抱える学生が増加していると聞く。カウンセリングの実施、学生を対象にした講演会の開催、教員の各種講演会への参加等を通して、種々の対策が取られているが、状況次第では、先取りした対策が必要と思われる。</p>	<p><寮務主事・学生主事></p> <p>●今後も低学年全寮制を維持し規律正しい生活を通して全人教育を行っていきたくと考えております。</p> <p>●メンタルヘルスについては、学生生活支援室を中心に、でき得限りのきめ細かい対応が取られていると考えています。</p>
<p>【工藤委員】</p> <p>●メンタルヘルス等の支援は必要と思われる。また学校で奨学金などの経済的な支援が整えられると、学生が安心して学べる環境ができると思う。また、他の高校と比べて、遠隔地から学びにくる生徒(学生)がいる。経済面、メンタルヘルス等の具体的な対応を明示するとよいのでは。保護者とする気にかかることである。特に、⑤で記されているが、女子学生のための福利厚生について具体的に明示することは、希望学生を増やすためには不可欠であると考えている。</p>	<p><学生主事></p> <p>●メンタルヘルスについては、学生生活支援室を中心に、でき得限りのきめ細かい対応が取られていると考えています。保護者に対しても、入学前の3月の入学説明会、また5月の教育後援会総会の場で学生生活支援室長からサポート体制等の説明を行っており、また、7月の保護者懇談会時には保護者に対してもアンケート調査を実施しています。</p> <p>経済的な支援については、授業料免除(H23年度は4年生以上で全額免除25名、半額免除11名)に加え、日本学生支援機構の奨学金(H23年度受給者60名)を始め全部で10種類の奨学金が貸与・給与されています。これらの情報については、募集のたびに担任から学生に周知するほか、本校HPにも掲載し、教育後援会総会の場で学生主事から保護者にアナウンスしています。なお、50周年記念事業の一環としての本校独自の奨学金制度の実現については、現時点では確たることは言えない状況であります。</p> <p>女子更衣室については上記のとおりですが、女子寮を始め、女子学生のためのその他の福利厚生施設が本校において特に劣っているという認識は持っていません。</p>
<p>【栗田委員】</p> <p>●1年次の「全寮制」は、学生にとって貴重な大切な生活になると思います。近年の中学生は、人間関係の持ち方があまりうまくありません。同年代との関係はもちろんのことですが、異年齢の者に対しては、余計に、不得手な生徒が増えていきます。寮生活で、集団生活を体験することが、生きてくると考えられます。しかし、慣れるまでのフォローについては、細心の注意が必要と思われる。学生だけでなく、教職員については、学生の状況を知らせることも大切だと思います。</p>	<p><寮務主事></p> <p>●原則隔週木曜日に寮務関係教職員会議を1時間、その後寮生会本部役員と関係教職員の会議を30分ほど行っております。この会議終了後に各棟に2名ずつ割振られた棟顧問と棟長との情報交換会が15分ほど設定され各棟の様子や問題となっている点を洗い出して対策を講じております。また前期中間試験後に各棟の重要ポストにある寮生(棟長、棟風紀、棟企画)と棟顧問、寮監、寮務主事と1時間ほど棟別懇談会を開催し(計7回、7時間)さらに細かい点に至るまで情報交換を行い、今後の指導に生かしております。上記木曜会の際に寮生会から直近の寮の様子を文書で報告させています。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●「友人づくり支援」活動、奨学金制度創設、更衣室の設置等是非とも進めてください。同窓OBを活用してのキャリア支援については、同窓会としても協力していきます。</p>	<p><学生主事></p> <p>●4月の「1年生オリエンテーション研修」はH23、24年度については校内で行いましたが、学生の強い要望に配慮してH25年度からは以前のとおり、御殿場の国立中央青少年交流の家で宿泊研修を行う予定です。「3年生スキー研修」については今年度は予定どおり行いますが、来年度以降はその内容を再検討する予定です。</p> <p>50周年記念事業の一環としての本校独自の奨学金制度の実現については、現時点では確たることは言えない状況であります。</p> <p>以前設置されていた女子更衣室については、使用頻度が低いという理由もあって実験室や資料室に転用された経緯があります。実際、H23年度に女子学生に取ったアンケートでも、校内に1、2カ所更衣室があっても各自のホームルームに近い女子トイレで着替えをするという声が圧倒的に多かったと聞いています。したがって、女子更衣室を新設するよりも、女子トイレの中に着替えをしやすいように棚などを設置する方が現実的といえます。しかし、あえて更衣室を設置するとするならば、例えば講義棟の学生リフレッシュコーナーなどの転用が考えられます。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●学生達が安心してキャンパスライフを送れるよう、メンタル面、身体面及び学習面での充実した支援をお願いしたいと思います。また、優秀な女子学生に沼津高専を選択肢の一つとして考えて頂けるよう、更なる福利厚生の充実にも努めて頂きたいと思っております。学生達の最大の関心事でもある将来の可能性についても、学生達が自分の将来について熟考し、夢を現実として捉えられるような支援を引き続きお願いしたいと思います。奨学金制度につきましても、経済的に困窮している優秀な学生が平等に勉学に精進できる様に、創設にご尽力頂きたいと思っております。</p>	<p><学生主事></p> <p>●以前設置されていた女子更衣室については、使用頻度が低いという理由もあって実験室や資料室に転用された経緯があります。実際、H23年度に女子学生に取ったアンケートでも、校内に1、2カ所更衣室があっても各自のホームルームに近い女子トイレで着替えをするという声が圧倒的に多かったと聞いています。したがって、女子更衣室を新設するよりも、女子トイレの中に着替えをしやすいように棚などを設置する方が現実的といえます。しかし、あえて更衣室を設置するとするならば、例えば講義棟の学生リフレッシュコーナーなどの転用が考えられます。</p> <p>50周年記念事業の一環としての本校独自の奨学金制度の実現については、現時点では確たることは言えない状況であります。</p>

平成24年度 年度計画意見対応表

○教育環境の整備・活用	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●安全安心な学内環境確立のために必要な改善整備を行うとあるが、目玉となる具体的な改善事項も挙げておくほうが実現しやすいであろう。</p>	<p><安全衛生委員長・事務部長></p> <p>●本年度は、設備面では「避難路の確保」、教職員の健康面では「健康チェック」を取り上げ、実施してまいります。</p> <p>●安全衛生委員会において毎月実施している校内巡視の結果をきちんと総務委員会に写真付き資料に基づき報告し、該当部署の部長に改善を促し、実際に改善した事例もあり、今後ともこのような安全安心に結びつく改善システムの構築を図って行きたいと考えています。目玉となる具体的な改善事項としては、特にバリアフリー対策の一環として、一般講義棟、共通棟及び地域共同テクノセンターに設置しているエレベータがありますが、今後、更に学生の利用が見込まれる図書館について、図書館の改修要求に併せ、エレベータ等の導入を図る予定であります。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●安全衛生管理については、近隣の企業の安全衛生管理について参考にすると思います。</p>	<p><安全衛生委員長></p> <p>●本校の産業医、杉山先生が近隣企業の産業医を務められていることから、近隣企業で行われている安全衛生管理手法を取り入れ始めております。大変、参考になっております。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●学生が、安全に安心して学生生活を送れるように環境の整備を行って頂けたらと思います。</p>	<p><安全衛生委員長></p> <p>●毎月、安全衛生委員会を開催しています。この会議では、年2回行っている安全パトロール、毎週行う巡視結果からの指摘事項への対応方法の検討、問題点改善方法の検討と実施確認を行っております。</p>
○研究に関する事項	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●外部資金獲得に向けて説明会の開催だけでなく、若手に対する申請書内容の相談・添削などを実施されていますでしょうか。</p>	<p><地域共同テクノセンター長></p> <p>●外部資金獲得に向けて、若手に対する申請書内容の相談・添削は、これまで行っておりませんが、相談・添削できる人材の確保や時間の確保が難しいためです。しかし今年度は科学研究費補助金については、審査委員経験者の名古屋大学名誉教授・岐阜高専産学連携CDの森永先生に、説明会および若手の添削を行って頂く予定です。この試行の結果を見て、次年度以降について検討したいと考えています。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●積極的に情報を得ようとしていないためか、沼津高専の研究活動や情報が得られていません。近隣で生活をしているのですが、活動する枠が違いためでしょうか？情報発信方法の検討も必要ではないでしょうか。</p>	<p><地域共同テクノセンター長></p> <p>●教員の研究活動についてはホームページのトップの下に「データベース」として「研究活動」には「沼津工業高専専門学校研究報告」「共同研究」「受託研究」「国際会議出席」の情報を記載し、「研究助成」では「科学研究費補助」「寄付金」「寄付講座」についてデータを更新して掲載しています。</p> <p>また産学連携を含めた活動は「地域共同テクノセンター」のホームページの「イベント」で商工会議所等での講演内容や本校主催の「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」などの情報を掲載しています。</p> <p>ただ、これらのページが別々であり、学生達の研究(卒業研究)を記載する必要があるかも知れません。これについては今後検討いたします。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●①～③の取組を積極的に行って頂き、外部資金の獲得を目指して頂くと共に、高専の活動を広く社会に伝えて頂けたらと思います。</p>	<p><地域共同テクノセンター長></p> <p>●引き続き外部資金の獲得を目指して、積極的に展開していきたいと考えています。また活動を伝える手段については、他の委員からもご指摘頂いており、検討していきたいと考えています。</p>

平成24年度 年度計画意見対応表

○社会との連携や国際交流に関する事項	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●国際交流に関し、日本人学生と留学生とが関わりあう密な交流の機会を提供し、在学生の国際意識を高めることが望ましい。</p>	<p><学生主事・国際交流室長></p> <p>●富山高専を主管校として東海北陸地区を中心とする10高専が参画している高専機構特別教育研究経費事業<国際性の向上に関する改革推進経費>「ロードマッププロジェクト」(H23～24年度)に本校も参加していますが、その中の事業に「留学生に学ぶ」として、H23年12月に学生寮の教養講座を兼ねて、留学生を講師に日本人学生との交流会を行いました。</p>
<p>【丸田委員】</p> <p>●創立50周年記念事業の実施にあたり、貴校の状況を校外へ向けて、メッセージ等情報発信をするよい機会ですので、さまざまな機会を活用し、PRしてほしい。</p>	<p><校長></p> <p>●ご指摘ありがとうございます。創立50周年を機に、高専機構は「進化する高専」をキーワードに各種の催しを企画していますが、沼津高専としては本年度からスタートした学校教育及び平成26年度を目途に進めている専攻科の改編を目玉に、ポスト50年を見据えた沼津高専の技術者教育をPRしていく所存です。</p>
<p>【工藤委員】</p> <p>●③にある中学教員との情報交換の機会、中学生を対象としたミニ体験授業の実施はとても有効であると思われる。高専を会場として様々な催し物、授業などの実践がよいと思います。これについては、中学校教員にとっては大変ありがたい取り組みである。今後、近隣市町の中学校の理科部会、研修会等に参加いただき、専門的な視点から意見を述べてもらうなど、さらに踏み込んだ取り組みを期待したい。</p>	<p><教務主事></p> <p>●昨年、沼津市との間で締結された連携協定にもとづき、沼津高専が持っているシーズから中学校への支援につながると思われるプログラムを準備し、沼津市教育委員会にご提案したいと準備をすすめております。工藤委員ご指摘のように、沼津高専を会場として、授業や実践、フィールドワークを通じ学ぶ意欲の涵養、新学習指導要領に対応した学びの場を提案したいと考えております。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●医用機器開発技術者の養成、中学生を対象としたミニ体験授業、同窓会との連携強化、留学生の受入体制の強化等、是非積極的に進めて欲しい。</p>	<p><校長></p> <p>●医用機器開発技術者の養成については静岡県ファリマバレープロジェクトとの連携、中学生を対象としたミニ体験授業については本校教職員の貢献により順調に進展しています。留学生の受入体制の強化等の国際交流の面で沼津高専は他高専に遅れを取っているのが現状です。本校の学生や教員を海外に派遣しようとするすると資金的な援助が必要となりますので創立50周年記念事業の一環として国際交流基金の設立を計画しており、同窓会の支援を期待しているところです。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●学生達がいろいろな事業やボランティア・共同研究等の様々な活動を通じて、自分自身を研鑽する機会を多く与えて頂けたらと思います。学生生活の時期にしか経験出来ない事が沢山あると思いますので、学生達が積極的に参加できるよう働きかけて頂き、沢山の学生達が充実した経験を持てるようにご尽力頂けたらと思います。</p>	<p><教務主事・学生主事></p> <p>●ご指摘のとおり、学生達が直接参加する事業やボランティア・共同研究等における経験は、学生自身にも非常に重要であるとの認識の下、学校としても積極的に企画してきているところですが、今後は、更にそのような機会の拡充を図っていく所存であります。</p>
○管理運営に関する事項	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●学生と教職員の双方にとって利便性のある形でMoodleの積極的活用を促進していただきたい。</p>	<p><教務主事></p> <p>●H23年度にe-learningシステムをmoodleに移行し、現在は、利用を希望する教員をユーザー登録して活用されている。主に、授業に用いる資料やデータ、小テストや試験の問題と解答例、自学自習用の課題や宿題、工学実験の資料、クラスやクラブ用のコンテンツなどが登録されている。</p> <p>本年度から学習支援に関するコースを用意し、専攻科主催の勉強部屋の日程や連絡先等の情報周知に利用している。その結果、今年度は延べ26名が参加した。この人数はH23年度(19)、H22年度(9)、H21(12)に比べ大幅に増加し、教室にポスターを掲示する従来の方法と併用することで、学生への周知が効果的になった。また、本年度はe-learning担当教員が中心となり、学内で利用可能なe-learningコンテンツに関する情報収集およびmoodleを活用した紹介を行うことを予定している。定期試験前には利用頻度が高いことがアクセス解析の結果から示されており、それを踏まえた自学自習用の課題の充実を図ることが課題である。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●リスク管理体制の強化は勿論、最近企業ではBCP「ビジネス継続計画」が言われています。学校も地震や水害が発生したり、今の想定以上の想定をして対処すべきことについて検討しておく必要があるように思います。</p>	<p><校長・事務部長></p> <p>●災害時に限らず、学校が直面する可能性のある様々なリスク(事件、事故、各種ハラスメント、情報管理及びデータ保持等々)に適切に対応することが、すなわち本校の教育・研究活動の継続につながるものであると考えており、その意味で「ビジネス継続計画」については、現在、本校におけるリスクの洗い出し、優先度及びそれらに対する対応策等、総合的なリスク分析について昨年度設置した「リスク管理室」を中心に検討を進めているところであります。機構本部において策定されている「危機管理マニュアル」(暫定版)を参考にしつつ、マニュアルとして整備していきたいと考えています。なお、災害時の対応については、現在検討WGを設置して、突発的な地震災害を想定した防災訓練の実施を含め防災計画について見直しを行っているところであります。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●学生達のためになる取組や、学生達の指導を任されている教職員のためになる取組は積極的に取り入れて頂きたいと思います。また、管理運営のために改善すべき点は早急に改善して頂き、業務の効率化を図って頂けるよう努力して頂きたいと思います。</p>	<p><校長・事務部長></p> <p>●教育力や指導力のある教職員を育てていくことは、学校の責務と考えており、FD研修会等定期的に実施していますが、独立行政法人化後は、特に教育研究以外の管理運営面での業務が膨大に増え、教職員自身にも時間の余裕がなくなっているのが現状であります。このような現状を鑑み、業務の軽減及び効率化の取組への関心が近年高まってきており、高専機構本部においても、「教職員の業務負担軽減策」について種々検討が行われております。本校でも今年度、学生寮の宿直業務の軽減策の一環として、現行教員2名での宿直業務体制を見直し、1名を教員とし、1名を外部委託することや、クラブ活動の付き添い業務の見直し等について検討が進められています。今後も引き続き業務の効率化についての新たな取り組みを検討していくことが重要と認識しています。</p>

平成24年度 年度計画意見対応表

2. その他、本校に対する意見	
<p>【柳澤委員】</p> <p>●多岐にわたる年度計画が立てられていると思いますので、学校長のリーダーシップのもとに着実な実行を期待しています。</p> <p>「検討する」「努力する」などの表現が多用されているが、可能なものは「方針を決定する」「方向性を定める」「検討して実施する」など、具体的な到達点に分かる形の表記が望ましい。(そのほうが構成員の意識がはっきりし計画がより実現しやすくなる)</p> <p>50周年記念事業の内容をホームページに掲載し精力的な活動を展開されていることに敬意を表します。この事業活動が、卒業生や在学生の結束を強めるとともに地域に存在感のある学校としての地位を強固にする機会となることを願っています。</p>	<p>【校長】</p> <p>●ご指摘のとおり、「検討する」「努力する」などの表現については、極力、具体的な到達点に分かる形の表記に改めていきたいと考えております。</p> <p>50周年記念事業については、ポスト50年を見据えた沼津高専の技術者教育を目玉に広報していく所存です。</p>
<p>【丸田委員】</p> <p>●魅力ある高専にするために、様々な検討と改善が着実に進められていて、一歩ずつ前進していることがうかがえます。職員一同がたいへんな努力をされており、今後とも着実な実践をお願いします。</p>	<p><校長></p> <p>●教職員が学校の方針に則ってそれぞれの立場で前向きに取り組んでいる成果が徐々に実を結んできているものと思っています。今後とも、変わらぬご支援をよろしく申し上げます。</p>
<p>【工藤委員】</p> <p>●高専へ進学したメリットをより一層具体的に明示していくべきであると考える。子どもの数が減少していく中で、高専を卒業したことによらなければ得られないメリットをアピールしていく必要がある。</p>	<p><校長・教務主事></p> <p>●ご指摘のとおりだと認識しております。産業界の諸兄は高専のメリットについてよく理解いただいており、国家戦略会議や文部科学省の会議の場で、企業人から「高専をもっと増やしてほしい…」というような発言があると聞いています。OEGD調査団の報告やフシントンポストの記事等で、海外の方が国内より高専教育を高く評価しているように思います。全国51国立高専の卒業生が毎年一万余と少数のためアピール度が弱いところがあると思います。この点については高専機構と連携して全国的に高専教育をアピールする方策を検討し進めていきたいと考えています。</p>
<p>【栗田委員】</p> <p>●中学校では、進学時に卒業後の進路も踏まえて指導に当たっているつもりです。沼高専を希望する生徒は、中学校においては成績優秀者といえます。大学編入者と就職者数がほぼ半々と思われれますが、中途退学者・浪人生(大学・就職)は、どの程度いるのでしょうか。</p> <p>また、そうした学生の指導は、どのようになっているのでしょうか。</p>	<p><教務主事></p> <p>●昨年度の留年・退学学生数は、留年28名、退学22名でした。休学者は本科15名、専攻科3名でした。就職浪人はなし。進学希望で合格できなかった学生は2名でした。</p> <p>留年・退学者対策としては、担任と連携した様々な形式の学習支援の制度を設けています。留年・退学は、学力の問題以上に、メンタルヘルス上の問題が多く、学生生活支援室と連携した取り組みを行っております。</p> <p>進学先が決まらないが2名の学生のうち1名は専攻科不合格となった学生で、この学生については、研究生として継続的に学習や研究指導に加え、生活指導なども行っております。</p>
<p>【名倉委員】</p> <p>●高専設立50周年、学校に関わって来た人達と現在について、もう少し何かを考えることが節目のように感じます。</p>	<p><校長・教務主事></p> <p>●創立50周年の節目に、過去を振り返ると、日本の高度経済成長を支える原動力の一つが全国高専の卒業生の力だと思います。その後、20来、日本経済は不況続きであり、環境エネルギーや医療福祉産業のグローバル展開により経済成長に結びつけようとする国家戦略が動き出したのが現在と理解しています。</p> <p>このような背景の下、ポスト50年を見据えて産業界に貢献できる沼津高専の技術者教育を広く世にアピールしていきたいと考えています。</p>
<p>【西岡委員】</p> <p>●一つ一つの取組を拝読し、教職員の皆様が学生達の学習面、生活面及びメンタルヘルス面並びに進学や研究開発等、様々な交流を通じて本当によく熟慮して下さっていることが伝わって参りました。これからも現状に満足することなく、学校や学生達の更なる発展のためにご尽力頂き、素晴らしい沼津工業高等専門学校が、更に素晴らしい学校になることを願っております。</p>	<p><校長></p> <p>●本校教職員の熟慮した教育への取組についてご理解いただき誠にありがとうございます。校長としては、全国に誇れる沼津高専と自負しているところですが、更なる改善に向けて研鑽してまいりますので、変わらぬご理解・ご支援の程よろしく申し上げます。</p>

運営諮問会議 議事録

(平成24年7月27日(金) 本校3F大会議室)

平成24年度 沼津工業高等専門学校 運営諮問会議 議事録



日 時： 平成24年7月27日（金）14時30分～17時15分

場 所： 沼津工業高等専門学校管理棟3F大会議室

出席者： 【運営諮問会議委員】

- <第1号委員>… 大学等高等教育機関の関係者
柳澤 正 国立大学法人静岡大学理事（社会・産学連携担当）／副学長
若原昭浩 国立大学法人豊橋技術科学大学学長補佐／高専連携室長
- <第2号委員>… 産業・経済界の関係者
三津濱元一 富士通株式会社 沼津工場長
- <第3号委員>… 本校が所在する地域の関係者
工藤達朗 沼津市教育委員会 教育長
栗田自由 沼津市校長会中学校幹事／沼津市立第二中学校長
- <第4号委員>… 本校の支援団体等の関係者
西岡珠美 沼津工業高等専門学校 教育後援会会長
名倉光雄 沼津工業高等専門学校 同窓会長

※欠席者… 丸田 忍 （株）明電舎 沼津事業所長

【本校列席者】

柳下校長、蓮実副校長（教務主事）、大久保校長補佐（学生主事）、遠藤校長補佐（寮務主事）、遠山校長補佐（専攻科長）、押川校長補佐（学際教育担当）、上原事務部長、小林機械工学科長、佐藤電気電子工学科長、川上電子制御工学科長、長谷制御情報工学科長、芳野物質工学科長、西垣教養科長、江間図書館長、望月総合情報センター長、藤尾地域共同テクノロジー長、西田技術室長、小林学生生活支援室長、五条総務課長、入吉学生課長、露木総務課長補佐、沖津総務係員

議 題

I. 開会及び校長挨拶

議事に先立ち、校長から挨拶があった。

II. 議長選出

総務課長進行の下、「議長の選出については、運営諮問会議規則第5条第1項の規定に基づき、各委員の互選により選出される。」旨説明の後、立候補及び推薦者を募ったが、特に申し入れはなかったため、同課長から「事前をお願いしていた静岡大学副学長 柳澤 正 委員を本会議の議長に推薦したい。」旨の提案があり、これを了承した。

III. 議長及び各委員等挨拶、並びに陪席者紹介

議長及び各委員から、自己紹介を兼ね挨拶があり、引き続き、総務課長から陪席する学校関係者の紹介があった。

IV. 沼津高専概要説明

柳下校長から、沼津高専の学校概要等について、PPT資料に基づき説明があった。

V. 審議事項

○ 平成23年度年度計画 自己点検評価の検証

議 長 それでは、早速審議の方に入りたいと思います。まず、「平成23年度年度計画自己点検評価の検証」ということですが、資料2をご覧ください。資料2については、学校側で年度計画に基づき実際に実行した結果及び自己点検評価ということでSABC評価が付けられた資料となっております。SABCの評価につきましては、資料2の一番最後のページの下に記載されておりますが、Sが当初の年度計画以上の取組を実行した、Aは年度計画通り実行した、Bは年度計画達成には至らなかったが具体的な取組を行った、Cは全く実行していない、という区分で評価をしております。

これらの実施結果及び自己点検評価に基づき、各運営諮問会議委員が内容を確認し、各事項について「評価シート」としてご意見をいただき、それを全体として取り纏めた資料が、資料3「評価シート意見対応表」です。左右対照にそれぞれの項目毎に各委員からの意見と、それに対する学校側の担当者の意見及び説明を記載した資料となっております。この資料に基づき意見交換をしていきたいと思っております。また、昨年度までは、各項目毎に学校側の担当者から説明いただいておりますが、限られた時間での会議ですので、効率よく内容のある会議にするために、今年は、その部分は省略させていただき、その分、各委員間及び学校側との意見交換の時間に充てて、実のある会議にしたいと考えております。この部分は、30分程度の時間で進めたいと思っておりますのでご協力の程、よろしくお願いたします。

また、昨年とは異なり、各項目毎に、発言する委員の割り振りはしておりませんので、ご質問及びご意見等がある項目について、適宜ご発言いただけ

ればよろしいかと存じます。なお、ご発言は1人5分程度でお願いいたします。それでは、最初に私の方から質問をさせていただきたいと思います。

まず最初に、女子学生の入試結果の数値については記載する必要はないのではというコメントをしておりますが、それについては当然、女子学生の情報は必要であることは十分分かっているのですが、特に、女子学生が非常に少ない中で、例えば入試の中で志願者は0で、合格者1人いるという場合、第2志望、第3志望で回ってくるがあると思いますが、その状況だと誰が回ってきたのか個人が特定されてしまう危険性があります。基本的には女子学生の数値については、校長先生の説明の中にもあった、出身地別の中の括弧書きで記載されているようなものは良いかと思いますが、あまり細かくするのも問題ではないかと感じております。我々もいつも個別の情報が分かってしまうことに対して気を付けているので書かせていただきました。

また、入試の学生の増減のお話がありましたが、大学でも増減の隔年現象があり、多い年と少ない年が交互にくるような状況に我々大学も困っているのですが、資料から見ると、昨年度までの2年間で下がってきて、今年度で上がっている等のデータを見ると高専の場合はそのような隔年現象というものはないのかなと思いましたが、その辺を教えていただければと思います。

蓮実副校長 教務担当の蓮実からご説明いたします。

女子学生の志望状況が分かってしまうのは問題とのご指摘を受けまして、資料にもありますような括弧書きでエビデンスに止めるのが良いのかと考えております。また、女子学生の数ですが、本校の場合は、緩やかな単調増加の傾向で、アップダウンがあるという傾向ではなく、徐々に女子学生が増えているというふうに理解しており、これは私たちの戦略通りであると考えております。

議長 どなたかご意見ありましたらお願いいたします。
若原委員から何かありましたらご発言願います。

若原委員 入学者の定員というのは非常に難しいものですが、校長先生が言われるように山梨県からの学生を2桁にもっていきたいとのことで、山梨県は高専がない県であり、非常にご苦労されていることが分かります。その中で、現在大学においては就職率が悪い状況にありまして、その反面高専は非常に就職率が良いということも含めて保護者に伝えるような広報の仕方を工夫するのも1つの戦略かなと思うのですが、いかがでしょうか。

校長 山梨県を訪問した際には、その辺の話はしています。山梨県は広い県なので高校が広い範囲に点在しており、通うだけでも定期代がかかると聞いております。高専の寮に入ればそのような問題も起こらない等説明しているのですが、その話がなかなか広まらないのが現状であります。塾へも資料等を送付しているのですが効果は今ひとつです。中学生には、お手元に資料として付けてあり

ます Today（沼津高専概要版）を中学3年生全員に配布しております。家庭にも高専の情報が届くように配布しており、山梨県の中学にも配布しています。それでもなかなか広まらない状況で、根気強くやっていきたいと思います。

若原委員 例えば、在學生で山梨県出身の學生がいたら、山梨県の中学校訪問の際に、その學生を帯同させて、沼津高専の學生生活等について説明させるのが一番有効な広報活動になると思いますのでご検討願います。

栗田委員 中学2年生の段階で、キャリア教育の一環で、「先輩に学ぶ」とか「先人に学ぶ」等といった授業を行っています。その時に、市内ですと卒業した1つ年上の先輩達が来て話をしてくれるのですが、直に高校生から話が聞けると言うことで、中学生には非常に好評であります。中学3年生になると、夏休みに行われる一日体験入学に参加しているようですが、2学期に入ると、各高校の先生を招いて説明会を行っています。そのような過程で志望校を決めていくのだと思います。中学生に直に説明することが有効な方法ではないかと感じています。

蓮実副校長 栗田委員のご指摘有り難うございます。後段の高校の説明会には呼んでいただいております、今年も既に2校の中学校を訪問させていただいております、私から学校の様子を説明させていただきました。若原委員と栗田委員から同時にご指摘いただいておりますとおり、卒業生を母校に返すという取組は以前行っておりましたが途中で途切れてしまっていますので、委員の方のご意見を重く受け止め、今後前向きに検討していこうと考えております。特に、栗田委員にお願いがあります。先程の「先輩に学ぶ」授業等の催し物がありましたら、是非私どもの方にお声掛け頂けたら有り難いと思っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

栗田委員 多くの場合は入試の日に充てて説明会を実施しているところが多く、私立高校の入試の時には、私立高校に行っている先輩を呼んで説明会を実施し、公立高校の入試の時には、同様に公立高校に行っている先輩を呼んで説明会を行っています。入試のタイミングが違うので、その辺が非常に難しいのかなと思っていますし、授業の中でやるので、平日に実施しているのがネックになるのかなと思っています。

三津濱委員 學生を集めるということに関連して、必ず取る學生の募集定員を上回っているという良い状況ではありますが、逆に言いますと、高専の名前が上がってきたとしても、高専に入れるキャパは変わらない、これが年間2%でも3%でも、どうすれば増やせるのかと気になっておりました、これは高専機構本部等へ挙げるお話なのかなと考えております。そういう意味で言うと、高専をもっとアピールしていくと私自身が良いと思っていることは、高校から大学の最初の時期の一番頭の働きが良い時期に、普通は受験等に目一杯労力を使ってしまう学

生に対して、中学から早い段階で技術者教育を施し、20歳代の一番頭の働く時期に1つの成果を出すという、高専の素晴らしい教育システムであり、それについて、やはりもっとアピールしないといけないと思います。一般家庭においては、中学を卒業し、どこかの高校に入り、大学に行くために無理矢理勉強していくという一般的なステップとは違う教育の仕方があるということを学生や保護者にもっとアピールしていく必要があると感じます。

校 長 有り難うございます。昨年度も三津濱委員からは高専の卒業生の数をもっと増やして欲しい等の要望をいただき、それらのご意見を文書でもいただいております。これは高専機構本部に提出しております。実は政府の戦略会議でも、産業界の委員からは高専について高く評価していただいております。定員の問題では沼津高専の5学科とも大変盛況ではありますが、土木建築（環境都市）の学科を持っている高専の校長先生達は頭を悩ませている。40名定員をもっと減らすことは出来ないか、設置基準で定められている1学科40名定員を変更するには非常に困難であるのが現状である。その対策として、1学科何コース等、コースにすれば、トータルの数が揃えば中で融通しても良いということで、そんな対策を立てている高専もあります。幸い沼津高専は、5学科とも良好なので、しばらくは現行の5学科体制で良いのではないかと考えております。1つ質問したいのですが、専攻科ってご存じですか？専攻科の修了生は企業ではどんな評価でしょうか？

三津濱委員 そういう意味では、専攻科で入ってきたということについて評価というより、大学卒と同等と考えており、専攻科卒として意識していないので、あまり専攻科ということは見えて来ません。

校 長 東京高専で専攻科修了生を採用している企業200~300社にアンケートを取ったところ、修士修了者と同等のかなり高い評価でありました。高専機構の方針として、専攻科の拡充ということが言われており、本校も専攻科の改編を進めているところではありますが、本科の1割の定員が専攻科の定員となっているのですが、これをこの際もっと増やしたらどうかということが現在の懸案事項となっております。その当たりも企業の方のご意見も聞いてみたいと思った次第です。

三津濱委員 そういう意味では、高専の専攻科に行かないで大学に進まれる学生もいるので、そういう教育パスは世の中では一様あると思うので（大学という受け皿がある以上）、要は、20歳の時点で、1つの技術力というよりは技術者になるための基本的なスキームがきちんと付けるという部分が無駄であるといったら失礼ですが、一般的に言えば、そこで素直に伸ばすという期間が学校のスタイルであっても良いのかなと思います。その後、大学でも2年次や3年次と専攻を固めて上がっていくタイプの大学が多いと思いますが、そこに持っていく段

階で自分でセレクションしてそこに行くのであれば、それはそれで1つのやり方かなと思うし、さらに修士に上がる段階で、高専の専攻科レベルでいわゆる技術者としてのスキーム+得意分野という選択が1つのスタイルとして良いのかなと思います。ソフトウェア回りの世の中の話をする、ハッカーと呼ばれる人間が随分いて、悪いこともするが凄い発明もする者がいて、何歳ですかと聞くと、海外のハッカーは大体10代から20代であり、日本でそういう人はなかなか出てこないのが現実、少し余計なことでエネルギーを費やしているのかなと思います。そういうことを考えるとキャリアパスの観点からももう少しパーセンテージを増やして欲しいなと感じています。それと私の次男はサレジオ高専に入ったのですが、中学の頃は、それ程出来が良かった訳ではなかったのですが、その高専は比較的門戸が広く、入れたら鍛えて、出来の悪い学生は留年をさせてでも、それなりのエンジニアを養成している学校でして、お陰様で次男も留年もせず、現在NHKで仕事をしております。企業は、いろんな職種が必要です。あらゆる会社は施設管理や工場管理等において土木系の技術を持って居る人も必要となります。企業としては、技術者としての基本スキームを持っていけば、電気を覚えようが、何を覚えようが、エンジニアとして何をやらなければいけないかということは現場の経験を通して自然と身に付いていくものである。

校 長 今の高専は、PBL教育を取り込んだエンジニアリングデザインをやらせているので、その結果が現れているのではないかと思います。

議 長 優れた教員の確保のところでは書かせていただいておりますが、機構本部の教員顕彰制度について、平成23年度は推薦をされていないということなのですが、どれだけ推薦基準が厳しいのか分からないものの、計画的に推薦者を出していくことが重要であり、また、教育・研究実績の書き方等、推薦に必要な書類の書き方も複数で内容をチェックし、第三者が見ても分かり易い内容とする等の工夫が必要ではないでしょうか。学生は教員の背中を見て育っていくので、その先生が頑張っていることが目に見えて分かれば学生へも良い影響を与えると思うので、是非、継続的に推薦していくようにご検討願いたいと思います。

蓮実副校長 議長のご指摘のとおり、前年度から継続的に推薦していこうと考えており、各教員の推薦調書への記述はもちろんのこと、校長自らが推薦書に筆を入れて内容を精査し、なるべく高専機構に推薦することを考えておりましたが、その経験からかなりハードルが厳しいということが分かってきました。ハードルを軽くクリア出来るくらいの実績があれば、もちろん推薦していくのは当たり前ですが、一生懸命推薦しても認められない教員に対しては、もっと内部の顕彰制度を充実させて、そういった教員に対しても顕彰する機会を設け、モチベーションを高めていくことも重要と考えて内部顕彰制度を創設した次第です。もちろん議長からご指摘いただきました高専機構への継続的な推薦も積極的

に行っていこうと考えております。

工藤委員 平成23年度の年度計画自己点検評価は、どのようなメンバーが、どのような組織の下で総合的に評価しているのか教えていただきたい。教育委員会も各学校も自己点検評価を同じよう実施しているの、この点についてお聞きしたいと思います。また、自己評価書全体を見て、非常に謙虚だなという印象を受けました。もっと自信を持って高い評価でも良いのではないかと考えています。

校長 評価の体制は、各主事、各センター長及び各部局長等が中心となり、各所掌の委員会等において実施状況及び自己評価を審議し原案を作成する。その結果を踏まえて、本校の最高意志決定機関である総務委員会に諮った上で、学校全体の自己評価として確定しています。

工藤委員 各部局からの意見を尊重しているのか、それとも各部局から出てきた評価や意見を総務委員会等で抜本的に見直しているのか。

校長 それはケースバイケースであり、各事項によっても違ってきます。

蓮実副校長 評価の基準となっているのが、各高専が受審している大学評価・学位授与機構が実施する機関別認証評価と同じだと思っております。運営諮問会議の資料にも添付されております「自己点検評価表」は、機関別認証評価の評価基準を念頭において書かれていると思います。

議長 自己評価というのはなかなか難しいもので、控えめにするとやはり外部の委員からもっと評価を上げて良いのではとの指摘を受けたり、若原委員からもご指摘されているように、きちんと証拠となるエビデンスを付けないと誤解を受ける危険性もある等、いろいろなご意見やご指摘がありますが、私の感想としても、ちょっと控えめな評価かなと思っております。

本日の審議事項1「平成23年度年度計画自己点検評価の検証」については、よろしいでしょうか。次の審議事項であります「平成24年度年度計画」に対する議論とも関連している項目もあるかと思っておりますので、その時にご発言いただければ宜しいかと存じます。

基本的には非常に膨大な項目について、非常に丁寧な回答をいただいているかと思っておりますので、その中でこうして欲しいと指摘があった部分については、今年度の年度計画に反映していただければよろしいかと思っております。有り難うございました。それでは、次の議題に移りたいと思います。

○ 平成24年度 年度計画について

議 長 審議事項2「平成24年度 年度計画について」ですが、平成24年度年度計画につきましては、学校の方で作成いただいた計画が資料4であり、これを今年4月に各運営諮問会議委員に送付し、それに対する各委員のコメントを取り纏め、更にそれに対する学校側の意見対応を併記した資料が、資料5ということになります。各項目毎、各委員のコメントに対応する形で学校側からも丁寧に回答されておりますので、これについての意見交換をしていきたいと思いますが、時間も限られており、項目も膨大にありますので、各項目平均10分程度で進めていきたいと思いますが、1つの項目について、中心的に発言いただく方を指名させていただき、その後、それに付随しての意見交換をしていただくような形で進めていきたいと思いますが、それでは、最初の項目であります「入学者の確保」にて意見交換をしていただきたいと思います。

1. 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

議 長 それではまず、第1番目の項目として「入学者の確保」でございますが、これは学校で言う入り口に当たる部分ですので、中学校校長の立場から栗田委員、教育長の立場から工藤委員にご意見いただきたいと思います。まずは、栗田委員からお願いいたします。

栗田委員 先程もお話しさせていただきましたように、中学校2年生の段階から進学についての考えを深めていく中で、1日体験入学というのは3年生の夏休みにあるのですが、やはりミニ授業が子供達の中ではかなり好評であり、一般的な説明会より、ミニ授業等を中心に企画していった方が良いかと思えます。また、開催時期ですが、やはり2学期に進路を決定していきますので、夏休みの段階でそういうものを開催し、高専というものを強く印象付けて置いた方が、効果的ではないかと感じています。また、学園祭（高専祭）の実施も、そう言う意味では、10月や11月ではなく、夏休みの方が効果があるように思います。

蓮実副校長 ありがとうございます。昨年の10月に体験授業というものを初めて企画し開催しましたが大変好評でした。栗田先生の方からご指摘いただきました夏季開催については、実は体験入学を夏に2日間に渡って土日で実施するというのも企画していたのですが、なかなか調整がうまく行かず開催までには至りませんでした。栗田委員からご指摘いただきました、2年生対象の夏季に開催するイベント等については、今後前向きに検討していきたいと思えます。

工藤委員 高専を受験する子どもというのは、優秀な子が多く、普通高校の進学校に行きその後、理系の大学に進むか、高専に進んで工学的な勉強を早くからやるか等でいろいろ悩むと思います。高専に決めるという子供達をいかに取り込むかが言うまでもなく重要であり、それには、やはり高専の良さをもっとPRすることが必要かと思えます。私の経験から言うと、私のように普通高校から大学の工学部に進んだ学生と、工業高校から同じ工学部に進んだ学生との差は歴然としていました。現在の大学工学部のことはよく分かりませんが、50数年前の工学部では、基礎的なことはあまりやらなかったこともあり、工業高校からきた学生は基礎ができていたので何をやるにしても早く正確で非常に優秀でした。工学的な基礎をやっていない普通高校出身の私にとっては、非常にそういう学生達が羨ましかったことを思い出します。50年経ってもその辺は変わらないと思いますので、早い時期に高専に進んで専門的な工学基礎を学ぶメリットをもっとPRすべきだと思います。中学生で優秀な子が進学校に行くか高専に行くかの選択の時に、このことは大いに高専の売りになると私は思っています。

それともう1点、進学先を決める大きなポイントとしては、まだまだ中学生でするので、やはり保護者の意向が強いように思います。ですので、中学生自身に直接いろんなPRするのはもちろん大事ですが、それ以上に、保護者に対して、高専の良さ、工業高校との違い及び普通高校から大学の工学部に進学する場合との違い等具体的に説明し、高専をPRする機会を作ることも重要だと思います。

それと、学校概要パンフレットを見させていただきまして、非常にコンパクトに纏まられており、中学生にも分かりやすい内容となっておりますが、前から言っておりますが、各学科毎の違いが良く分かりません。特に、電気電子工学科、制御情報工学科、電子制御工学科の違いが分かりません。ましてや、保護者は全く分からないと思います。高専に進学した子供達がどういう基準で学科を選択したのか聞いてみたいとも思っています。PRの方法として、こういった学科の違いを明確にしていく必要もあるのではないかと考えています。

さらにもう一つ、高専の大きな特色として、大学への編入学制度があります。このあたりは公立高校にはない高専の最大のメリットとも言えるので大々的にPRして良いのではないかと思います。中学生やその保護者はもとより、中学校の教員等にも十分に説明する機会を設けた方が良いのではないかと思います。

中学校の教員については、工学部出身の教員は技術・家庭の教員が少しいる程度でほとんどが教育学部出身ですから、この高専の編入学のシステム等十分に分からず、進路指導の際の子どもたちへのアドバイスも出来ていないと思います。ですので、中学校の教員等への説明も重点的に行っていけば、もっと優秀な学生の志望者が増えるのではないかと期待しております。

柳下校長 工藤先生からご指摘いただきました5学科の特色の明確化はごもっともであり、学科改組等の際に議論されてきたところですが、まだ、外部から見て分かりづらいとのご意見は率直なご意見と受け止めて、明確化に向けてさらに努力して参ります。ここで少し、現在本校で進められている学際教育導入等の教育改革につ

いて、少し説明させていただきます。今進めております学際教育というのは、5学科は残るので、その学生は5学科の専門基礎科目はきっちり勉強させるのですが、それと併行して3年生から、産業構造の成長分野に対応した医療・福祉、環境・エネルギー、新機能材料の3分野を選択し、将来自分が進みたい分野を自由に選択し、勉強出来るようになっております。また、これに対応して、本校の専攻科も同様の分野で3コース制にし、どの学科に入っても、どの専攻にもいけるよう、7年一貫教育を作りあげたいと考えております。そうしていくと、5学科に入る時は、そんなに各学科に拘る必要がなくなるのではないかと思います。

議長 ありがとうございます。「入学者の確保」という観点については、十分に意見交換できたかと思しますので、次の議題に移りたいと思います。

(2) 教育課程の編成等

議長 それでは、次の事項であります「教育課程の編成」ということで、若原委員からご意見をいただきたいと思っております。若原委員、お願いいたします。

若原委員 新教育課程を立ち上げて教育改革を進めているところだと思いますが、共通実験とかミニ研究というのは、非常に良いことであると思っています。例えば、工作、機械加工等を全学科の学生にやらせる等の企画は教育効果を上げるだけでなく、教えられているというよりも知りたいと思う意識を芽生えさせ、その学生の学習度を築くには一番の方法だと思っています。また、そういうことを積み重ねていくことで、自分は5年後10年後、こんなふうになってみたいというのが見えてくれば、おそらくそこから先はもう先生方は何もすることなく、学生の要求に応えていくだけでどんどん育っていくのではないかなと思います。

また、ミニ研究においては、ものづくりの本質を理解できるように、課題設定も大事ですが、達成水準をどのくらいにするのか、どこまでやらせるかということをも全教員が共通認識の下で課題設定をする必要があるのかなと思います。ともすると、あの先生のところは面白い等、学生の人気投票になってしまう可能性もありますし、そうすると希望調整されていると思うのですが、自分の希望から外れてしまった学生はやる気をなくしてしまう恐れもあります。どの先生の所へ行ってもこのレベルまで出来るという達成水準を明確に設定する必要があると思います。そう言う意味でも、こういうことは担当教員一人で考えるのではなくて、複数の教員が参画してテーマの設定等、検討していくのが良いと思います。

押川校長補佐 若原委員からご指摘いただきました、ミニ研究における達成度の共通認識を持たせるということは大切なことではありますが、まだ、始めたばかりということもあり未計画の段階ですが検討していきたいと思っております。ミニ研究は、学生も初めてですが、教員側も初めてのことであり、戸惑うことも多々あるかと思っておりますが、

今は実績を積む時期なのかなと思っています。しかし、学生達はいわゆる普通の学生実験でもなく、卒業研究のようなプレッシャーもなく、割と緩やかに、教員側も受け取ってやっているようです。9月の末に発表会を予定しており、保護者も呼んでアンケート等を取りながら自己評価していこうと考えています。

また、「共通実験」については、正式科目名は「工学基礎Ⅱ」という科目になるのですが、これについても学生は素直にやっています。満足度評価はこの間、一次アンケートを取ったところ、85%ぐらいの学生が「非常に満足している」という結果でした。ただこれもやはり一時的なものであってはいけないので、継続性が必要だと考えていますし、各分野の先生が共通認識を持つという作業を今やっているところです。そのようなことで進めており、今のところ順調に進んでいると思っています。

若原委員 「共通実験」のところで、是非入れていただきたいと思うのは、「何故こういう構造になっているか」ということを必ず考察するようなものを入れていただくと、設計思想というのを大事するというところに結びつくと思います。

押川校長補佐 それについては、常に学生に対して、この「工学基礎Ⅱ」について、「何故このような仕組みになっているのか」ということを必ず説明しております。

ものづくりは一体なぜ必要なのかということから始まって、化学や制御の観点からどのような関わりが出てくるのか等、ターゲットを1つずつ絞って、この科目やその実験をやる意味を分かりやすく説明しております。

議長 教育課程の編成について、他の委員の方でコメント等があればお願いします。

蓮実副校長 若原先生の質問に対してなのですが、本校では、年4回教員FDという機会を設けていますが、その中で必ずこの学際教育の進捗状況を押川先生が説明されています。その目的は、全教員がどんな風に進んでいるのか共通認識に立とうということでそういう時間を必ず設けるようにしております。今週も水曜日に行われました。

三津濱委員 少し基本的な質問なのですが、自分の認識では中学卒業した時点でいえば、化学、物理、数学は、はっきりいって素人という状態だと思います。それを高校に入って1つ1つ片づけていく、当然、高専でもその課程を同じようにやっていくのだと思うのですが、基本的に「ミニ研究」とか「共通実験」等のいろいろなステップを見るとだいたい2年間くらいの中で、高校で習う物理だとか数学だとかについては、ほぼ吸収するよう見えます。それをどういうカリキュラムでやっているかっていうのが実は自分には分からないのです。だから、普通の高校に行った時にやるカリキュラムに対して、何を犠牲にし、その代わり何を早期に仕上げて、その中で単に紙の上で勉強するのではなく、実験という裏付けを得ることで、体に身につけること。そのためのその時間をどう取っているかがよく分かつ

ていません。皆さんから見ると、普段やっているから当たり前なのでしょうが、学外から見ると一般の高校のカリキュラムは、だいたいイメージ沸くのですが、高専のカリキュラムのイメージが沸かないのです。今日説明していただいているのは、高専の非常にチャレンジャーでこれから良くなるカリキュラムだということはあるのですが、普通高校とのカリキュラムの違いをきちんと教えていただきたいと思います。

柳下校長 先程、学校概要でご説明したパワーポイント資料の18ページに機械工学科のカリキュラムが参考例で掲載されていますので、ご確認いただければと思います。

三津濱委員 この資料を見ると、やはり応用数学・応用物理が4年に入っているのも、基本的には、通常の数学、物理は2年間でやってしまうということですね。

柳下校長 高校レベルの物理・化学は、2年生で片付けてしまうということです。先程、押川校長補佐の説明にありました「工学基礎」というのは、全学科の実験、基礎的な実験実習を全学生に体験してもらい、2年生になって「ミニ研究」を行い、3・4・5年生からは学際科目が2単位ずつ入るといった構成となっております。これは全国の高専でも初めての試みです。永年高専で教えてきて私の経験から、高専5年間でやるにはこの構成が一番良い、高専5年間の教育で今の産業構造に対応するエンジニアを育成するにはこれしかないという結論でございます。「ミニ研究」は、実は福島高専で既に実践されており、成果を上げていることもあり、本校も積極的に取り入れることとした次第です。

議長 今質問されて答えられたパワーポイント資料18ページのところですが、学校側の先生達は良く分かっているかと思うのですが、カリキュラムツリー形式の図というのか、各々のカリキュラムが、このように繋がって最終的に卒業に向かうような図の形の方が、繋がりが見えて一般の方には分かりやすいのではないかと感じました。

蓮実副校長 柳澤委員からご指摘を受けたカリキュラムツリー形式の系統図は、今回の資料にはありませんが、きちんと作成し、学生及び教員共に共有しております。また、三津濱委員のご質問に関して、机上で学んだものをどうやって体験的に学んでいくかということですが、例えば化学の場合ですと、2回の座学と午後半日かけての実験が週2回あるというような組み合わせになっておりまして、学んできたことを自分で実験して体験的に学んでいくという構成になっております。数学や物理に関しても同じように実験や演習が組まれております。ということで、他の学校、普通高校と比べると遥かに実験が多いというのが我が校の特徴です。その中には工藤委員からご指摘いただいたように、ビーカーの洗い方まで含めて実験はどうやって正しく行うのか、安全に行うのかということまで含めて低学年から組まれているということが我が校の特徴、高専教育の特徴かと思っております。

工藤委員　この「工学基礎」というのは工業高校でいう工業基礎のことだと思いますが、私も実際に工業基礎を教えていたのですが、この「工学基礎」というのは、教科のメリットはもちろんあるのですが、それ以上に学生指導的なメリットが非常に大きいと感じています。要するに、一般科目の先生方はたぶん学科を越えた全学生を見ますが、専門の先生は自分の専門学科の学生しか教えないと思うのですが、この科目を導入することにより、専門の先生が他学科の学生達とも接触しますので、いろんな日常生活の中での学生指導等の面でも、学生と教員の意志疎通が出来るので、非常に良いことだと思っています。

柳下校長　高専機構にこの新教育課程を説明したレポートの中には、そのことも記載されております。実は、「工学基礎」だけではなく、2年生の「ミニ研究」は一般科目の先生も入り、2～3名の学生の面倒を見ることとなっております。ですので、全教員で全学科の学生を育てようという観点で学校全体で取組む体制となっております。

押川校長補佐　補足説明をさせていただきます。まず、「工学基礎」は、工藤委員のご指摘どおり工業高校の工業基礎とほぼ同様だと考えてよいかと思います。また、「工学基礎」にはⅠとⅡがあり、Ⅰは座学でⅡが実験です。座学の方は「安全教育」、そして実験の方は「測定」を行い、誤差や精度等のデータ処理について、簡単なものを全学生が専門科目に関係なく学習しようという構成となっております。

現在、1年間のうち3分の1が過ぎたところですが、今まで実践してみて、いろんな学生達と学科に関係なく接することができるので、個々の学生の異変等については、学生支援室よりも早期に発見できる、というメリットがありました。また、そういう情報は、全教員の共通情報として把握し、適切な対応をしていくというのも必要な事だと実感しております。そのように、全教員が全学生を見ながら育てていくという体制は、新たな高専の流れとしては、とても良い傾向ではないかと思っています。

柳下校長　これが実現できましたのは、学科を超えた先生方の協力体制があったからこそ出来たのであり、これが一番の課題で、どの高専も実はこの部分で悩んでいるのです。学科の壁が高すぎる、その高い壁をいかに低くするか、それが校長の大事な仕事の1つだと考えています。幸い本校の先生方は、押川先生を中心にして協力体制が出来ており、更にこれを発展させていこうとしている段階でございます。

工藤委員　非常に良い流れが出来ていると思います。

(3) 優れた教員の確保

議長 教育課程の話をしていると1時間でも2時間でも続きそうですので、また後で時間があつたら、ご議論頂くこととして、3番目の事項「優れた教員の確保」に進みたいと思います。この事項については、西岡委員及び名倉委員からご意見をいただきたいと思います。

名倉委員 時代が違うとは思いますが、自分が在学当時のことを思い出しますと、個性的な、また、人情味溢れた先生方に囲まれていたように思います。今の先生は、個性が無いのではないかと思っています。個性が強い先生ほど、学生達の記憶に残るものです。教育方法も今とは違い粗雑だったかも知れませんが、その中でも、ついていかなければ遅れてしまうとの思いから一生懸命勉強したことが、後になって本当に自分の実になったと実感しております。家庭では父親の背中を見て子供が育つと言われていますが、それと同様に、学校では、学生達は先生の背中を見て育つものだと思います。優れた教員の確保という観点から言うと、そういう教員も是非選考の対象として欲しいと思います。学歴や研究業績が非常に良いとか、世間で高く評価されている等の側面だけでなく、その教員の人間性を重視するというのも重要だと思っています。一般の企業人や他の学校にいる方でも良いので、是非そのような観点での優れた教員の確保をお願いしたいと思います。

議長 これに関して、何かご意見等がありますか。

柳下校長 本校の卒業生でないと出ない素晴らしいご意見を伺いました。

他の高専の先生も言っていました、高専の教員は、教育も研究も同じようにやらなければならない、大学の教員の3倍は仕事していると言われております。豊田高専の校長は名古屋大学出身で名古屋大学の助教を豊田高専によこせば、高専で鍛えて返してやると言っていました、そんな忙しい高専の教員の姿を見て学生が育っているのです。沼津高専は、そんないろいろ忙しく動き回って一生懸命やっている先生方に支えられているのです。

また、これは私の教訓ですが、企業出身の人は当たり外れがあるということです。面接と書類審査では良い評価であっても、実際に教壇に立ったり、学生指導等の段階では全くだめだったりするケースもあり、面接や書類審査だけでは分からない部分が多いと思います。機構本部でも仮採用の期間を設けて、適正を見てから本採用するようなシステムを検討しているようです。

それと昨日、とある高専の先生と話したのですが、その地域は、周りに大学がたくさんある地域で、その高専の先生の中には、大学の先生になれなくて高専の先生になったというコンプレックスも持っている人もいて、そういう環境で良い教育をしようと言ってもなかなか前へ進めないとぼやいていました。沼津高専の先生方は、みんな良い技術者を育てようという基本理念の下、プライドを持って

学生に接しています。やはり、そのような先生の一生懸命取り組んでいる姿を見せるのが一番の教育ではないかと考えております。

蓮実副校長 昔に比べると少ないのかも知れませんが、本校には非常に個性的な教員が揃っていると思います。特に、ここ数年で入ってきた教員を見ても、かなりの割合で熱心に学生のために動いてくれていますので、自信を持って言えると思います。

西岡委員 役員をやらせていただいて一番良かったことは、直に、普段あまりお話しできない先生や校長先生等と交流を持たせていただいたということです。柳下校長先生の良いことはすぐに実行する姿勢は素晴らしいと思いますし、また、蓮實先生が言っていたのですが、高専を卒業しても高専生だったことには間違いないので、例えば就職で見つからなくて困っていたらいつでも相談に来なさいとのお話を聞いたときは、なかなかそう言ってくれる学校は少ないので、そういう心が温かいというか、面倒見の良い先生がいらっしゃる学校に行かせることが出来てとても良かったとすごく感謝しています。普通高校で進学校等の説明会に行くと、一流の有名大学に何名進学したということをお自慢げに話している学校もありますが、そうではなく、在校生でも卒業生でも、いつでも気軽に就職等の相談に応じてくれるような、心遣いの出来る面倒見の良い先生達を増やしてもらいたいと思います。また、そのような先生がいるということをもっと保護者等にPRしていけば、やはり子供たちをその学校に入れたいと思う保護者が増え、先程の議題にもあった、良い学生の獲得にも繋がっていくものと思います。

あと、やはり女性の立場からしますと、娘の時には高専という選択肢が全く無かったのです。例えば、進学校の理数系には入れようとは思ったのですが、工業高校とか工業系の学校に入れるっていう選択肢はありませんでした。ですので、そういう意味では優秀な女性教員を増やせば、女子学生が高専に志願する環境も整うのではないかと感じております。良い女性教員がたくさんいれば、女子学生を預ける父兄としても安心してお任せできると思います。そういった点にもご尽力いただけたらと思います。

蓮実副校長 有り難うございます。沼津高専で働く教員のほとんどは、学生が好きで、沼津高専という学校に愛着を持っていると信じています。学生には、学校は第2の家だと思って、困ったらいつでも来いと言っています。私だけではなく、多くの教員もそのように学生に接していると私は思っています。

また、西岡委員からご指摘の優秀な女性教員を採用することに関しては、校長は一貫しており、同じレベルであったら女性教員を採用するという考えでおります。実際にそのようにして何人かの女性教員を採用しておりますが、非常に熱心に学生のためにも働いてくれています。女性教員にとって働きやすい職場なのかと言いますと、現実的には、なかなか難しいところもあると思います。産休等については、国家公務員に準じて3年はきちんと取れるようになっておりますが、男女共同参画に関することは、機構本部にも専門の部署を立ち上げ積極的に推進

していることもあり、更に女性教員の働きやすい職場環境が整っていけば、もっと優秀な女性教員の確保に繋がっていくものと考えております。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

議長 それでは、今度は教育の質の向上及び改善のためのシステムということで、地元企業の立場から三津濱委員、教育長の立場から工藤委員よろしくお願ひします。

三津濱委員 非常に良いテーマがいくつもあります。教育の質の向上及び改善のためのシステムという、先程から先生方がいろいろ解説していただいたような高専の教育のスキームを、どういう構造で作り上げていくかということ、そういうもの自体がシステムだと思っています。

特に、ここで書かれているのは外部との繋がりをどう活性化するかということに対しての施策が書かれているかと思いますが、高専は非常に良くやっていると、もったときちんと分かり易く書くべきではないかと思ひます。このシステムはこのようなコンセプトで作られ、それを踏まえた中で多様性のある外とのつながりを求めている等々の要素を合体した形で書いた方がより分かり易くなるように思ひます。また、企業で製品を作る（例えばスーパーコンピュータ等）場合、電気専門の技術者、コンピュータ専門の技術者、機械専門の技術者、化学専門の技術者等々の技術者が集結して作られているのが当たり前であるが、得てして高校や大学の過程でいうと、それぞれ別れた分野だと思ひて、それだけ分かっていたら外でも通用すると勘違いし易いが、それは違うということ、1つずついろんなものを積み重ねていくという基礎コンセプトの要素が入っているので、そこをもっと説明していただければ良いと感じました。沼津高専で進めている学際教育はまさにそのポイントを突いたものでその内容を説明していただくと非常に分かりやすいです。

柳下校長 あと、システムとしては機関別認証評価やJABEE審査でも言われていた、PDCAサイクルを回してスパイラルアップをしていくことが重要だということですね。

工藤委員 ①～⑩項目が書かれていますが、これが全て出来れば何の問題もないのではないかなというのが一番の印象です。また、学内の教育の質の向上と、学外との教育に関する交流のバランスが非常に良いのではないかと思ひています。

柳下校長 インターンシップとか共同研究を積極的に実践しているところを評価していただいているのだと思います。

工藤委員 そうですね。そういうところのバランスが非常に良いと思いました。
それと、私も企業技術者の経験を持っておりまして、化学の専門技術者として企業に入社したのですが、実際に仕事をする中では、品質管理の仕事や機械の操作等、全く別の仕事もしました。そうした経験を踏まえて言えることは、「自分はこれしかない」、「自分はこれなんだ」というような専門バカにならないよう子供達を教育していただきたいと思います。また、実験については、電気や化学等いろんな実験を行います。私は実験ってというのは基本的にはセンスと段取りを勉強する場だと考えております。だから実験の内容が全く違って、基本的にはどうやって段取りをつけてきちんと出来るかという実験のセンスを養うことが重要であると思っています。

それともう一点、「何かやろう」、「何でも取組もう」とする意欲と興味を植え付けることが、実践的技術者の養成において非常に重要なことだと思っています。

三津濱委員 このところ、学生の方もうちの工場に来るのでよく学生達に言っているのですが、自分のやりたいことをやるために学校で学んだことは全て必要となります。しかしながら全部のプロになる必要はなく、ある程度知っていれば、後は別の担当者が出来るってことが分かれば、その者を使えば良いというのが社会のやり方です。先程の複合教育は良い例であり、まさにそれぞれの得意なものを伸ばそうとする人は、是非それで頑張れば良いし、全体をマネジメントしたい人はそれで頑張っていけば良いと思っています。要は、柔軟性を身につけて欲しいということです。そういう柔軟性があれば会社に入った後に別のことをやらされたという意識ではなく、知識としてそれは生かしていくけれども、自分の中で今会社の求められているものについては一応答えておいて、何か一つプロジェクトとして立ち上げたいときには得意なものを芯にして回りに固めてもらう、そういう考えを持っていただきたいと思っています。

柳下校長 豊橋技科大の方では、高専を卒業し、編入して3年生～4年生を経てマスターに進む学生と、高専の専攻科を卒業して豊橋技科大のマスターに進む学生との間に違いがあると伺いました。

高専の専攻科を出てマスターに入った学生は、まず、やってみようと言って実験をやりだす。高専から編入して3年生～4年生を経てマスターに進んだ学生は、まず、工学的にどうかということを考えてから、それから実験に入るといように、実験に対する姿勢に違いがあると聞きました。

若原委員 専攻科ですと、まず、物や形を作って何かに役立てるっていうことを中心に教育されていると思うのですが、3年生に編入してきた学生達は、大学院一貫教育を我々は目指しているので、大学院レベルで物を生み出すというところを視点に、もう一度専門・基礎を学ばせた後に、スキルアップを図った上で、その後に実験をかなりやらせています。ちょっとしたアプローチのところにはまっすぐ飛びついてしまうか、ちょっと考えてからいくかの差であり、差としてはそのくらいです。もう一つ、私が実践しているだけかも知れませんが、大学で3年生から教育する時にいつも言っているのは、ミニ研究とか設計するとき、やりっ放しではなく、創ったものを自分が使い、ユーザーの視点に立って評価するよう指導しています。そうすることによりPDCAサイクルを回すこととなります。このようなシステムを是非高専でも、どんどん広げていった方が良いと思います。

(5) 学生支援・生活支援等

議長 次に、「学生支援・生活支援等」についてご議論いただこうと思いますが、中学校長の立場で栗田委員及び保護者の立場で西岡委員からご意見をいただければと思います。

栗田委員 学生寮の事ですが、最近の子供は核家族化が進み、兄弟も少ない環境で育ってきておりますので、人間関係を作るのが下手な学生が非常に増えております。その中で、集団生活に馴染めない学生も結構いるのではないかと思います。

寮生活を通じて、沢山のものを得ることが出来ると思うし、人間形成の面では大変有意義であると思うのですが、逆に、そのような寮生活がネックとなって高専を志願しないということにならないように考えることも必要ではないでしょうか。また、その反面、寮生活の素晴らしさを高専の在校生が、出身中学に行って後輩である現役中学生に説明することは、学校のPRという面ではかなり効果的であると思います。また、本日施設見学等させていただき、多方面に渡り、学校側の学生への配慮が充分されているということは分かりましたし、対応されているとは思いますが、内に隠ってしまう学生もいると思うので、そのような学生へのケア等もお願いしたいと思います。

遠藤寮務主事 学生寮関連を統括しております遠藤と申します。貴重なご意見有り難うございます。栗田委員のご指摘のとおり、今の子供達の家庭環境は、昔とかなり違ってきて、確かに寮生活に馴染めない学生も若干おります。ただ、心配する程度寮生活に対して拒否反応を示す学生はいません。もちろん、最初の頃は非常にストレスは感じていると思いますが、1年先輩の階長が、きめ細かいフォローをしているし、2年～3年先輩である棟長がお兄さんのような存在となって、いろいろな学生の悩みを吸い上げてくれています。回答にも記述しましたが、学生

の状況を逐一、教員側も把握するように、頻繁に寮生会役員とミーティングを行っており、また、棟顧問という制度を作りまして、教員が担任のように寮生を見守って行く体制をとっております。卒業生又は在寮生が、出身中学に向き寮生活の良いところを説明するような機会があれば良いと思います。栗田委員がご指摘するように、進学説明会等では説明しているのですが、やはり、実際に生活している寮生がそのような説明をすることが一番良いことなので、そのような機会が出来たら良いと思っております。それから、寮の中で問題のある学生を発見することには限界がありますので、担任や学生生活支援室等の関連教員と連携を取りまして、問題のある学生の早期発見に努めているところで

西岡委員

学内視察をさせていただき、始めていろんなところを見させていただいたのですが、子供達のメンタル面等への対応については、最初に保健室に入ってからそのままカウンセラー室に行けるような施設の配列となっている学生支援ゾーンの整備等、子供達が行きにくいではなく、入りやすい施設構成になっており、学生に対する細かい配慮がされているなど感じ、大変有り難いと思いました。女子学生が少ないので、女子学生用の着替え場所等がどうなっているか心配しておりましたが、女子トイレが非常に明るくて広く綺麗であり、女子更衣室の設置が難しいのであれば、女子トイレに柵等を設置して、利用できるように配慮いただければ有り難いと思いました。寮についても、寮生会がしっかりしていると伺い、本日の視察でも8時の点呼表等も見せていただきましたが、何不自由なく大変恵まれた環境の中で育ってきた子供達が、1年間でも2年間でも、寮の規則に縛られた中で集団生活をみんなで協力し合って生活することは、子供達にとっては不自由な経験だと思いますが、その不自由な経験も非常に大切だと感じています。寮生が主体となって運営されている寮生会組織も素晴らしいと思っており、子供達を安心して預けられるなどすごく感じました。

また、校長先生からもお話がありましたが、50周年を記念して育英基金を創設するとのお話でしたが、家計が困窮して勉強したくても学べない学生も沢山いると思いますので、是非、育英基金を創設していただき、そのような環境にある優秀な生徒が他の学校ではなく高専に来て学べるような機会を増やしていただきますよう、ご尽力いただきたいと思います。

校 長

従来からある学生支援機構の育英資金も厳しくなっているようで、本校としても是非、育英基金の創設に向けて努力していく所存です。

先程の校内視察の際に、学生生活支援室には毎月どれくらいの学生が来るか等のご質問がありましたが、本日は、学生生活支援室長も同席しておりますので、そのあたりも含めて説明していただきたいと思います。

小林学生生活 時期によっても違いますが、外部カウンセラーがカウンセラー室にいる時間支援室長の50%は学生対応に当たっています。また、学生生活支援室に待機している教員については、週に1～2名くらいの割合で学生の相談に乗っています。その他に、体調不良の学生が出るので保健室の看護師及び教員が協力して対応に当たっています。

大久保 年度計画には、女子更衣室の整備と記述しておりますが、女子学生にアンケート調査を行ったところ、必要ないとの回答が多いのが現状であり、女子更衣室の整備というより、女子トイレのスペースに着替えが出来るような棚等を設置する形の方が現実的かと考えております。

(6) 教育環境の整備・活用

議長 次のテーマに移らせていただいてもよろしいでしょうか。今度は教育環境の整備・活用という観点からご意見をいただきたいと思います。基本的には、事前にいただいております意見表のとおりかと思いますが、これについて若原委員からご意見いただけますでしょうか。

若原委員 校舎等の省エネ・CO2削減などのエコ対策事業を積極的に実施していくということが書かれていますが、これらはどんどん実践していただきたいと思いますが、校舎や実験室等は誰が使うのかという視点からすると、やはり学生が一番使っていると思います。そういう意味では学生達にも、もっと主体的にエコに関するテーマ等を与えて、学生達からも提案を募集する等の取組をされたら良いのではないのでしょうか。そうすることにより教育効果と環境の整備の両面から高専でしか出来ないような面白い取り組みになると思うのですが、いかがでしょうか。

藤尾地域共同 テクニカ長 エコに関しては、研究という形では具体的にやっていますが、取組としては、東海北陸地区高専のイベントとして「小水力発電アイデアコンテスト」というものが昨年から三重県いなべ市で開催され、沼津高専も今年から参加し、川の中に入って水量及び流量等を計り、どういう水力発電の装置を置くかというコンテストに参加しています。他に、エコラン等にも参加しており、教育環境の整備面ではないのですが、教育面ではそのような取組を行っております。

若原委員 そういう意味ではなくて、教育環境の整備という観点で高専のキャンパス内で、例えばエアコンの省エネの方法等、そういったところに学生からもアイデアをもらったらどうかということです。

藤尾地域共同 テクノセンター長 そういう意味では、制御情報工学科でソース設計をやっている中で電力の可視化ということで、テーマは私が決めるのですが、学生達が自分自身でPBL形式でアイデアを出しあう授業を行っており、たまたま、そのテーマがエコだったこともあり、いろいろエコなものを作るという環境整備に繋がるような授業をおこなっております。

若原委員 マスタープラン等を策定する際に、学生達からの意見あるいは提案等も募集するというのも面白いかなと思います。

議長 環境の整備ということでは安全衛生にも関わってくることであり、1年生の基礎の段階から安全教育をしっかりやっていることは素晴らしいことだと思います。高学年になり、研究室における安全というものが更に重要になってくると思いますが、そのあたりの安全教育はどのようにされているのでしょうか。

進實副校長 現実に昨年度、ある高専で機械工場実習中に破片が目に飛んだという事故が発生しております。これを受けて、私の方から各研究室での安全教育の徹底、特に安全メガネの着用に関しては徹底してほしい旨、伝えております。
また、各実験の冒頭には、必ず安全教育を行うこと、加えて卒業研究の段階でも各研究室における安全教育の徹底について注意喚起しているところであります。

議長 入学時の早い段階での安全教育と卒業研究等の高学年における研究室の安全教育という二段階で行っているということですね。特に入ってきた段階での安全教育は重要だと思いますので、ここを重点にやられたら良いかと思えます。

2 研究に関する事項

議長 それでは、次の「研究に関する事項」について議論を進めたいと思います。若原委員お願いいたします。

若原委員 先程の事項と関連しているのですが、やはりエコ対策事業という観点で研究課題に取り上げて学生達の参加を募り、学内で試行するというのをされたら良いのではないかと思います。そうすると、ユーザーの視点のデータも取れますし、これを結びつけると中小企業の事業所等のエコ対策の事例紹介や相談コンサルタント等みたいなことから、共同研究に繋がる芽が広がっていくのではないかなと思いますのでご検討いただきたいと思います。

藤尾先生 若原委員から、良いご提案をいただき有り難うございました。先程、校長からも説明がありましたように、今年度から学際教育が始まり、新たに環境エネルギーという学際分野を作りますので、それに絡んで先生方の認識も少しづつシフトさせていく必要があります、学生参加型の事業等も今後積極的に検討していく事項ではないかと考えております。

柳澤委員 研究分野の成果というのは、一般的には外部資金の獲得に非常に表れてくるのですが、先ほど冒頭にも説明がありましたように沼津高専は、全国の高専の中でも良い順位につけており、非常に頑張っていると思いますので、これからも引き続き頑張ってもらいたいと思っています。

柳下校長 技術相談に関しては、高専全体における技術相談件数は、ここ数年減少傾向にあり、高専機構の担当者も大変心配しているところです。そんな状況の中で、沼津高専の技術相談件数は右肩上がりに増えています。本校の技術相談体制もようやく定着してきたかと考えております。また、先生方の技術を紹介したシーズ集を作成し、広報していることもあり、地元中小企業にもかなり頼りにされているなどというのが実感です。いずれにしても良い方向に向かっていると思います。

柳澤委員 沼津高専の技術相談は無料で行っているのですか。

柳下校長 現在は全て無料で行っております。先日の高専機構理事長ヒアリングの際に、有料にしたらどうかとの話が出ました。しかし、現在これに関する基準が定められていないため有料に出来ない現実があります。高専機構には、例えば一回目無料で二回目からは基本的に一時間 5000 円等、スタンダードな基準の策定についてお願いしているところです。

議長 大学も同様の問題を抱えており、そう言う意味であえてお尋ねしました。

3. 社会との連携、国際交流等に関する事項

議長 それでは、次に「社会との連携、国際交流等に関する事項」についてご議論いただきたいと思います。この事項については、地域企業の視点から三津濱委員に、教育長の視点から工藤委員にご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願います。

三津濱委員 実は、富士通の吹奏楽団と沼津高専の吹奏楽部は交流があり、よくコラボを組んで演奏会を行っております。社会との関係や地域との関係においては、クラブ活動というのは非常に重要なテーマで、かつ、5年間同じ仲間と一緒にやっていくというのは絆も深まり、1つの柱となるので良いことではないかと思っています。逆に高専で心配しているところは、文化系の要素というのは、学校の主の活動の中では他の一般高校よりは弱いと思われます。こういったものも、社会との交流あるいは国際交流にも繋がる可能性もありますので、クラブ活動というものをもっとポジティブに学校としても取り組んでいただきたいと思います。

大久保 三津濱委員のご意見はごもっともだと思いますが、現実的に外に向かって活動しているクラブは吹奏楽部くらいしかありません。他の高専では文化祭を地域の地域と一緒にやっている高専もあります。そういうことをするには、学校としても相当のエネルギーを必要とするわけですが、それだけ学校に余力があるか分かりませんが、ご指摘いただきました事項については真摯に受け止め検討していきたいと思ひます。

工藤委員 これからの技術者に求められているものは、バランスを持った技術者ではないかと思ひます。技術的な専門分野だけではなく、文化芸術等多方面に渡っているんな機会を利用して力をつけることは子供達の将来を考へても大事なことでないかなと思ひております。また、社会との交流については、沼津市との交流協定締結等を含めて、校長先生がいろいろ積極的に働きかけを行っていることがよく分かります。国際交流に関しては、高専単独で考へるのも良いのですが、県内の大学には留学生が沢山いると思ひますので、そのような大学等に在籍している留学生との交流を検討していくのも1つの方法ではないかと思ひます。

大久保 本校においても、一番身近な国際交流という点では留学生がいますので、も
学生主事 っと留学生を資源として活かしていくということは前から出ております。

今年も、富山高専が主幹となって東海北陸地区高専が参加している「ロードマッププロジェクト」が動いており、身近な留学生を活かそうという一環で「留学生に学ぶ」という事業も行っておりますが、ただ、正直まだ活かしきれていないのが現状だと思ひます。寮生などは、学生寮においても留学生がいるので、日常的に交流を深めれば良いと思ひているのですが、なかなかうまくいっていません。ご指摘のあった静岡県内の大学との交流もあまり組織化されたものではなくやっていないのですが、留学生同士は静岡大学と交流の機会を持っています。以上のような現状ですので、本校としてまだまだ力を入れていかなければいけないと感じております。また、高専機構が学術交流協定を結んでいるタイ国モンクック工科大学の学生は、昨年2名受け入れており、今年も受け入れる予定となっておりますが、日本語が全く話せないとうことで、共通言語である英語でコミュニケーションをとるしかないので研究室の学生も良い意味で苦勞している状況ですが、範囲が狭く高専全体にインパクトを与える形にはなっていないのが現行です。

4. 管理運営に関する事項

議長　それでは、次に管理運営に関する事項についてご議論いただきたいと思います。この事項については、高専OBの立場から名倉委員にご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

名倉委員　昨年3月11日の東日本大震災以来、民間企業の中では、防災対策はもちろんのこと、それ以外に関する事項も含めた危機管理体制の整備が進められているが、学校における管理運営面の観点からも、同様の危機管理体制の整備が必要だと考えています。特に、学校の場合は、滋賀県の中学校で起こったいじめ問題で、学校側及び教育委員会の対応の遅さが社会問題となっているように、防災対策だけでなく、あらゆるリスクに対応した危機管理体制をきちんと考える必要があるかと思います。

校長　東日本大震災で被災した高専が3高専（仙台高専、福島高専、茨城高専）あり、本校も高専機構の要請に応じて、寮生用に備蓄してある救援物資を大量に仙台高専に送りました。これらの経験を踏まえ、機構本部に危機管理委員会が設置され、危機管理体制の整備が図られました。今年は、防災物品費用を全体で2億円程予算化し、全国の高専に配分される予定です。また、仙台高専においては、学生の安否確認が一番大変であったと聞いております。これについては、本校の技術職員が開発した安否確認システムが高専機構本部でも評価され全国の高専が集まる会議の場で講師として説明していますし、本校でも導入しています。各高専だけでなく、高専機構本部が核となって危機管理体制の強化を図っているところです。

蓮実副校長　名倉委員のご指摘は、防災だけでなく、あらゆることを想定した危機管理体制の整備及び危機管理マニュアルの策定等のご指摘も含まれているものと思っておりますが、このことについても、本校は、あらゆるリスクの洗い出し及びその対応策等について検討しており、危機管理マニュアルの原案の策定まで進んでいます。今後は、これらを各部署に持ち帰り、内容を精査した上で、年内中には確定版を策定すべく準備を進めております。年度計画には細かな部分の記述はありませんが、様々な事に関する危機管理を想定した動きが本校でも出てきております。

5. その他

- 議長 活発な意見交換、ありがとうございました。
それでは、最後になりますが、本日の学内視察、本会議の議題及びそれに対する意見交換等々を踏まえて全体を通しての感想やご意見を各委員から伺いたいと思います。
- 若原委員 昨年の震災で被災した高専については、高専の学生達が主体的に、被災者の受入や、市役所業務等で機能しなかった部分のバックアップを行ったと聞いています。高専で培った技術者として現場で判断するというものが、このような時に生きるのだと改めて思った次第です。そういった学生の力を高専の教育環境改善等に役立てていただけたら、更に力をつけた学生を社会に送り出せるのではないかというのが、今回、全体を通して思ったことです。
- 三津濱委員 終わりの方で、震災の危機管理の話が出ていましたが、危機管理に関しては高専としてはいくつかの経験を積んでいること、そう言った意味では、先程言ったように高専の中では、学生達が安全に対するいくつかの取組をされた経験を持っており、それらがベースとなっているものと思います。一方で、危機管理マニュアルということについて言うと、いったい何に基づき作成したら良いのかということです。皆さんにしっかり覚えて頂きたくことについては作り上げる必要はあるのですが、想定されても対策まで進まないものもあるので、その時にどう対応するか、基本的には動き方を決めておくことが重要で、あと、判断をする人を明確にしておけばよいのかなと思います。そう言う意味での応用力を、是非、身に付けていただければと思います。
- 工藤委員 沼津高専は本当によく頑張っているなど実感しております。市内の唯一の高等教育機関ということで、沼津市民の誇りだと思っております。今後とも交流等々を深めながら、より一層存在感のある沼津高専になっていただくことを期待しております。
- 栗田委員 本日は、このような会議に出させていただき有り難うございました。私自身は教育学部出身ですので、工業系の部分は分からず素人の目でしか意見を言うことができませんでしたが、沼津高専が本当に頑張っていることがよく分かりました。今後とも、よろしくお願いいたします。
- 名倉委員 今日は、少しは言いたいことを言わせていただいたかなと思っています。年代は、それぞれ変わっていくとは思いますが、是非、1年1年を伸ばしていつてもらいたいと思っています。

西岡委員　私は、教育後援会の役員をやらせていただいて高専の素晴らしさをつくづく感じておりますが、しかしながら、子供が高専生の親御さんや高専の近所の方は知っていると思いますが、それ以外の方々は、沼津高専という学校自体も知らないという人が多いと思います。こんなに素晴らしい学校なので、中学生だけではなく、小学生や保護者も対象として沼津高専の素晴らしさを伝えていくようにすれば志願者も増えていくのかと思っています。実は、先程山梨県での中学校訪問の話が出ていましたが、娘が山梨の大学に行っており、弟が沼津高専に行っているという話になった時、沼津高専は全国の高専の中でも優秀なんだよね、と話題になったそうです。ですので、山梨県における広報活動については、中学校や学習塾の先生だけでなく、是非、保護者に対する広報活動を積極的にすべきではないかと思っておりますのでご検討願います。

議長　各委員の皆さん、ご意見有り難うございました。

私からも意見させていただきますが、毎年これだけの資料を纏められて、しかも、非常に丁寧に書かれている資料を見ると、纏める側も大変だなと感じていますし、同時に、このような資料が役立ちスムーズに会議も進められるのかと思っています。また、各運営諮問会議の委員の皆様におかれましては、本日の会議で意見を言って終わりではなく、委員はいつでも学校のことを見ているんだよというプレッシャーを学校の方にかけていただき、引き続きご意見を学校にお寄せいただければ幸いです。

今後の運営諮問会議委員の役割ですが、本日の会議でいただいたご意見等を踏まえ、平成24年度の年度計画を学校で履行していただき、今年度末に同年度計画の実施状況等を記載した「自己点検評価表」を学校から送付いただきますので、それに対するご意見を「評価シート」に記載し、学校に提出いただきたいと思います。それは年度末の大変お忙しい時期に重なると思いますが、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、これで運営諮問会議を終了させていただきます。
皆様、ご協力有り難うございました。

以　上

運 営 諮 問 会 議 報 告 書

－ 平成 23 年度年度計画自己点検評価の検証／平成 24 年度年度計画 －
(平成 24 年 10 月 発行)

沼津工業高等専門学校 総務課

〒 410 - 8501 沼津市大岡3600

TEL 055-926-5856

FAX 055-926-5700

URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

